

今回調査の概要と集約状況

1. 調査の目的

自治労北海道本部は賃金闘争の出発点となる2022国民春闘を取り組むにあたり、今回も組合員の要求・意識に関するアンケート調査を実施した。

自治労と当時の公務員共闘が賃金要求額に関わるアンケート調査を始めたのは1972年、道本部として独自で調査結果をまとめるようになったのは1977年からである。この間、春闘のたたかい方や労働運動総体のあり方も時代の変化の中で問われ続けてきたが、この道本部の調査も、その都度学習会・検討会を行いながら、その意義や質問項目の見直しなどを行っている。また、2021春闘からは（公社）北海道自治研究所の協力のもと、共同で分析作業を実施している。

今回の調査は、前年から継続して新型コロナが組合員の仕事と生活へ与えている影響を調査項目に取り入れるとともに、2023年から始まる公務員の定年引き上げへの懸念、また、例年どおり生活・家計状況、要求額、年休取得や超勤実態などの基礎的な調査項目、「会計年度任用職員」の制度拡充・処遇改善に関する調査項目を一部変更するなどして実施した。

調査結果は最終的にこの冊子として報告するが、各地方本部、単組・総支部段階での春闘から引き続き賃金闘争、人員確保闘争などに向けた要求づくりの素材や交渉の予備資料として活用いただくとともに、道本部段階においては中央本部や公務員連絡会などにも意見反映しながら、より一層の賃金、労働条件改善の強化をめざすこととしたい。

なお、前年の「第19回組合員意識調査」から道本部執行委員会における議論の末、属性（フェイス）の「性別」に「選ばない」を回答選択肢として設けており、今回調査はこれに準じた。これ以外にもフェイスの設定については、調査段階で問い合わせやコメントが寄せられており、多様性やプライバシーなどに配慮した設定にしていく考えであるものの、実際の調査結果では、例えば男女間や配偶者の有無で結果に違いが見受けられるものもあることから、現時点ではこのような回答選択肢となっているという点についてご了承いただきたい。

2. 調査方法と日程

全単組・全組合員を対象とし、別掲調査用紙に組合員が直接記入するアンケート調査方式で、2021年11月22日（月）から12月3日（金）を調査期間とした。

3. 回収状況と集計の方法

アンケート調査は229単組・総支部中182単組・総支部が実施した（前年は229単組・総支部中190単組・総支部）。回収状況だが、組合員44,202人（2021年6月現在）中28,599人から回答を得ている。これは組合員の64.7%にあたり、昨年に比べ0.3ポイント高くなった。

集約日は12月9日としたが、コンピュータの入力作業は12月18日到着分までを含めて、送付されたアンケートの2割（5,741枚）を無作為抽出して集計した。

なお、今回のアンケート調査においても、これからの春闘などについての記述式意見を求めたところ（Q12）、936人から意見が寄せられた（前回は1,062件）。また、設問でも選択肢に「その他」の記述欄を（Q1-(1)(2)、Q3、Q6、Q9、Q10）で設け、回答の幅を広げたが、ここに記入された意見も1,340件あった。

これらの意見についてはアンケート分析に活用したが、全て文書として記録して、今後の運動に役立てていく。

4. 自治労北海道本部「国民春闘アンケート」によせて（釧路短期大学杉本教授）

今回もアンケート実施にあたり、アドバイザーとして関わっていただいている釧路短期大学の杉本教授から調査結果をまとめるにあたって標記コメントを寄せていただいた。今回は春闘の現状と意義や要求額と生活実感との関係について考察されており、職場での学習・討議に役立てていただきたい。

自治労北海道本部2022国民春闘アンケート

この調査は、国民春闘のたたかひにあたり、組合員の生活実態やさまざまな要求・意見を集約し、賃金闘争の強化にむけた資料とするものです。2022国民春闘の出発点として実施します。 欄に該当する番号を記入してください。

F 1	あなたの年齢は ① ～19歳 ②20～24歳 ③25～29歳 ④30～34歳 ⑤35～39歳 ⑥40～44歳 ⑦45～49歳 ⑧50～54歳 ⑨55～59歳 ⑩60歳以上	F 1	<input type="text"/>
F 2	あなたの性別は ①女性（配偶者なし） ②男性（配偶者なし） ③女性（配偶者あり） ④男性（配偶者あり） ⑤選ばない	F 2	<input type="text"/>
F 3	あなたの扶養家族は何人ですか ① 0 人（独身者含む） ② 1 人 ③ 2 人 ④ 3 人 ⑤ 4 人 ⑥ 5 人 ⑦ 6 人以上	F 3	<input type="text"/>
F 4	あなたの任用・雇用元は ①地方公共団体 ②独立行政法人 ③民間企業および（②以外の）団体・法人	F 4	<input type="text"/>
F 5	あなたの任用・雇用形態は ①正規職員 ②再任用（再雇用）職員 ③非正規職員（会計年度、任期付、臨時、嘱託職員など）	F 5	<input type="text"/>
F 6	あなたの家計収入は ①あなたの収入のみ ②共働き ③その他	F 6	<input type="text"/>
F 7	あなたの職種は ①事務系一般職 ②技術系一般職 ③技能・労務職 ④保健系技術職 ⑤福祉系技術職 ⑥医療系看護職 ⑦医療技術職 ⑧研究職 ⑨海事職 ⑩その他（ ）	F 7	<input type="text"/>

Q 1. 【新型コロナウイルス感染症の影響について】

現在、あなたが新型コロナ感染症について、(1)仕事面、(2)生活面で不安や影響を感じていることを、それぞれ「3つ以内」で選んでください。

(1) 仕事面について <⑨特になし を選んだ場合は他に選択しないでください>

- ①賃金・諸手当の減少 ②休業・解雇（雇止め）
③感染予防や感染者発生時の対応など衛生管理
④出勤調整や人との接触抑制などに伴う自身の仕事のやりくり（調整）
⑤業務量の増加 ⑥休暇や業務調整に対する職場管理職の対応
⑦在宅勤務・テレワークなどの環境整備 ⑧その他（ ）
⑨不安や影響を感じていることは特になし

Q 1 (1)	<input type="text"/>
	<input type="text"/>
	<input type="text"/>

(2) 生活面について <⑩特になし を選んだ場合は他に選択しないでください>

- ①感染時の医療体制 ②ワクチン接種などの感染予防体制
③自身や家族が感染した際の生活維持 ④感染対策に伴う生活費の増加
⑤物価の上昇 ⑥行動自粛による精神的ストレス
⑦行動制限の解除による感染再拡大への不安 ⑧子育て、家事の負担増加
⑨ワクチン接種の有無や感染による差別 ⑩その他（ ）
⑪不安や影響を感じていることは特になし

Q 1 (2)	<input type="text"/>
	<input type="text"/>
	<input type="text"/>

Q 2. あなたの今の生活実感は、次のどれに最も近いですか。

- ①かなり苦しい ②やや苦しい ③まあまあだ
④ややゆとりがある ⑤かなりゆとりがある

Q 2	<input type="text"/>
------------	----------------------

Q 3. 生活・家計の状況で、特に負担に感じている費目を、以下から「3つ以内」で選んでください。

- ①食費 ②光熱水費 ③住宅関係費 ④教養・娯楽費 ⑤交際費 ⑥教育費
⑦被服費 ⑧通信費 ⑨交通・車両費 ⑩医療・介護費 ⑪税金・社会保険料
⑫生命保険や損保の掛金 ⑬奨学金の返済 ⑭その他（ ）

Q 3	<input type="text"/>
	<input type="text"/>
	<input type="text"/>

Q 4. 2022春闘での賃上げ要求について、あなたは要求額（定期昇給分を除いた金額）をいくらにすべきだと思いますか。

- ① 0 円 ② 5 千円程度 ③ 1 万円程度 ④ 1.5 万円程度
⑤ 2 万円程度 ⑥ 2.5 万円程度 ⑦ 3 万円以上

Q 4	<input type="text"/>
------------	----------------------

（ウラ面に続く）

Q 5. あなたは、この1年間で何日くらい年休を取りましたか。

- ① 0日 ② 1～4日 ③ 5～9日 ④ 10～12日
⑤ 13～15日 ⑥ 16～18日 ⑦ 19～20日 ⑧ 21日以上

Q 5	
--------	--

※具体的な日数がわかれば書き入れてください _____ 日（単組活用むけ）

Q 6. 年休を取得できなかった理由を、以下から「3つ以内」で選んでください。

＜⑫取得できなかったことはない を選んだ場合は他に選択しないでください＞

- ① 仕事が忙しかったから ② 代替要員がないから
③ 他人に代わってもらえない仕事だから ④ 仕事の上で職場、同僚に迷惑をかけるから
⑤ 成績（評価）に影響すると思うから ⑥ 職場に年休を取得しづらい雰囲気があるから
⑦ 手続きが面倒だから ⑧ 病気や急な用事に備えて残しておきたいから
⑨ 上司から取得の許可が下りなかったから ⑩ 振替・代休を優先して消化しているから
⑪ その他（ _____ ） ⑫ 取得できなかったことはない

Q 6	

Q 7. あなたは、この1年間でどれくらい超勤をしましたか。（未払いを含む）

- ① まったくしていない ② 1～59時間 ③ 60～119時間 ④ 120～179時間
⑤ 180～239時間 ⑥ 240～359時間 ⑦ 360時間以上

Q 7	
--------	--

※具体的な時間数がわかれば書き入れてください _____ 時間（単組活用むけ）

Q 8. Q 7の超勤のうち、「未払い超勤」（「サービス残業」と呼ばれる不払い労働）はどれくらいですか。

- ① まったくない ② 1～29時間 ③ 30～59時間 ④ 60～89時間
⑤ 90～119時間 ⑥ 120～149時間 ⑦ 150時間以上

Q 8	
--------	--

※具体的な時間数がわかれば書き入れてください _____ 時間（単組活用むけ）

Q 9. 【地方公共団体と独立行政法人、その他の公法人に勤務する方に伺います】

公務員の定年については、2023年から2年毎に1歳ずつ引き上げられ、2031年度に65歳となり、賃金は60歳時の7割水準になります。このことに伴って懸念や心配をしていることを、以下から「2つ以内」で選んでください。

＜⑦特にない ⑧わからない を選んだ場合は他に選択しないでください＞

※なお、定年の段階的な引き上げ期間中に定年退職（61～64歳）となった場合、年金接続への観点から、現行の再任用制度と同様の仕組みとして65歳まで暫定再任用制度が措置されます。

- ① 退職年齢が引き上がることによって、新規採用の抑制につながる
② （管理職だった人が）係長相当職に格付けされた場合、若手や中堅職員の係長への昇格が遅れる
③ 先輩が係員となることが、仕事の配分調整に影響し、既存の係員の業務が過重となる
④ 年金支給年齢の65歳に達するまで、引き下げられた賃金で生活していくことに不安がある
⑤ 体力の低下や健康面などから従前と同じように業務を遂行することに不安がある
⑥ その他（ _____ ）
⑦ 懸念することは特にない
⑧ わからない

Q 9	

Q 10. 会計年度任用職員制度がスタートして1年半以上が経過しましたが、各自治体によって賃金労働条件に違いがあるのが現状です。今後も制度改善をしていくためにあなたは何を優先的に取り組むべきと考えますか。

以下から「3つ以内」で選んでください。

- ① 正規職員と同様の昇給制度にすべき ② 正規職員と同様に一時金（期末・勤勉手当）を支給すべき
③ 正規職員と同様の休暇制度にすべき ④ 正規職員と同様の諸手当にすべき
⑤ 任用回数の上限を撤廃すべき ⑥ 正規職員との仕事の量と役割を明確にすべき
⑦ パートタイム（短時間）職員を、必要に応じフルタイムにすべき
⑧ 経験年数や本人の希望により会計年度任用職員が正規職員になれる制度を設けるべき
⑨ その他（ _____ ）

Q 10	

Q 11. 自治労道本部の2022春闘の取り組みについてあなたの提案があればお願いします。（自由記述）

--

——ご協力ありがとうございました——

アンケート結果は、次期道本部中央委員会（2022年2月予定）で報告書として提出するとともに、機関紙およびホームページ（<https://www.jichiro-hokkaido.gr.jp/>）に掲載しますのでご覧ください。

2022国民春闘アンケートの結果について

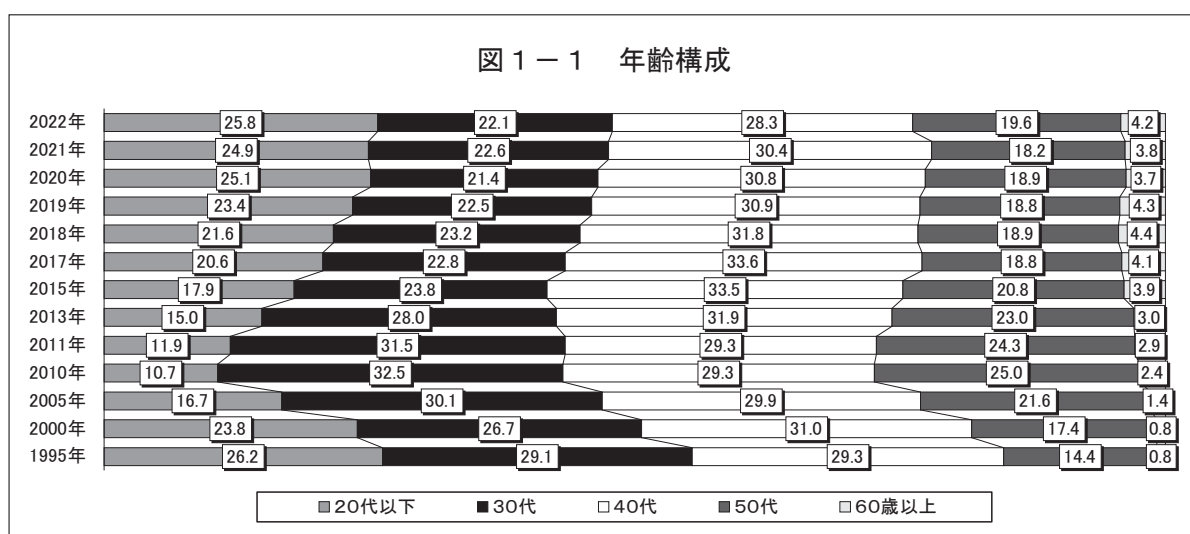
I 組織構成（属性）の概要

2022国民春闘アンケートの回答を見る前に、まずは回答者の組織構成（属性）を見てみる。

なお、文中では、特徴的な点について可能な限りグラフ化して見やすくする努力をしているが、その他の属性結果を詳しく見る場合は、巻末の「2022国民春闘アンケート結果表」を参照していただきたい。

1 年齢構成－「20代以下」＋「30代」はさらに微増し47.9%と約半数

まず、全体の回答者の年齢構成であるが、95年調査からの推移（図1－1）を参照してもらいたい。



95年調査では「20代以下」の青年層が26.2%となっていたが、2000年前後から行政改革・規制緩和が始まり、それが本格化していくことなどを受けて、定数削減・採用抑制で2010年には10.7%まで下がった。その後、団塊の世代（1947年～49年生まれ）以降の退職により新規採用が再開・拡大したことで徐々に割合が大きくなり、2020年は25%程度となっていたが、今回は25.8%まで上昇した。

一方、採用抑制が経年的な影響をもたらし「30代」の比率が22.1%と低くなっているが、「20代以下」＋「30代」でみると、徐々に全体に占める割合が増え、47.9%と約半数である。

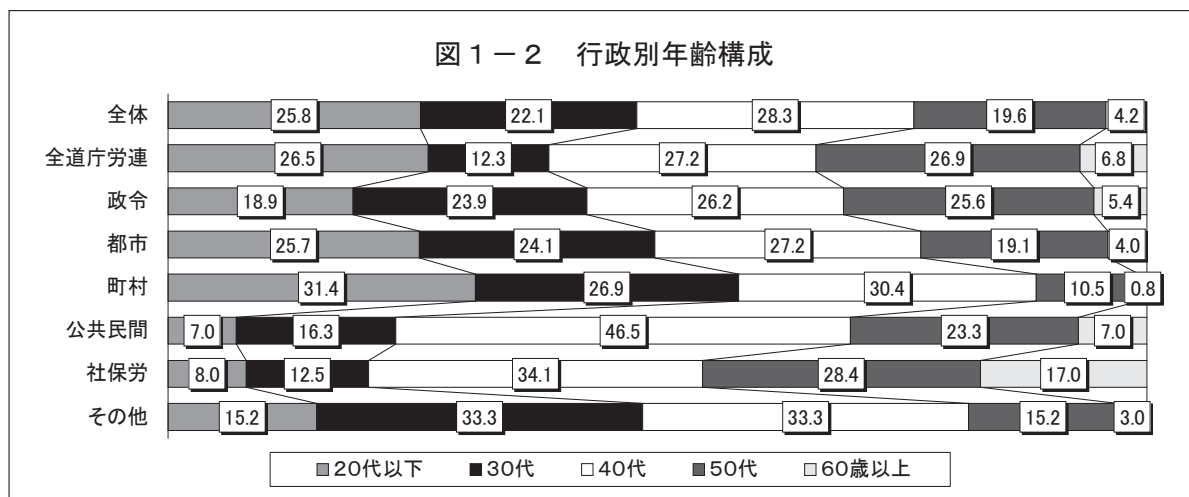
また、今回の調査では、微減しながらも近年30%を保っていた「40代」が28.3%（前年比2.1%減）となったが、2000年前後から始まった採用抑制が20年を経て、「40代」のボリュームに影響を及ぼし始めてきたのかもしれない。

行政別の年齢構成（図1－2）では、「20代以下」の青年層の割合が、町村で31.4%と3割、「20代以下」＋「30代」で58.3%と6割に迫る。政令の「20代以下」は近年2割台で推移していたが、今回は18.9%（前年21%）と若干減少した。全道庁労連では2020調査から2割を超えていたが、今回は26.5%と全体平均よりも高くなった。一方、公共民間、社保労は従前に引き続き、青年層の割合が低く、「40代以上」で全体の7割後半を占める。

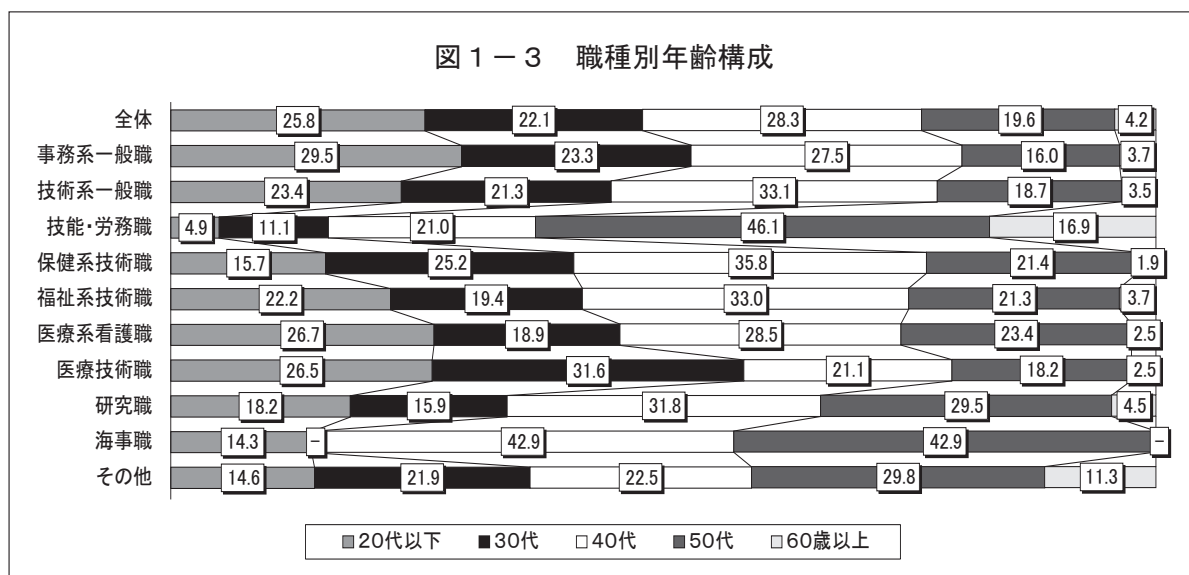
また、それ以外の特徴的な点は、従前と同傾向だが全道庁労連で「30代」が12.3%（前年

11.7%)と少ないこと、町村では「50代」が10.5%と少ないこと、社保労では「60歳以上」が17%と高いことである。

もちろん、これらは職場総体を表す数字ではなく、あくまでアンケート調査回答者の属性ではあるが、年齢構成の違いによって各職場で抱える課題もまたそれぞれ違うということを念頭にアンケート回答をみていく必要があるだろう。

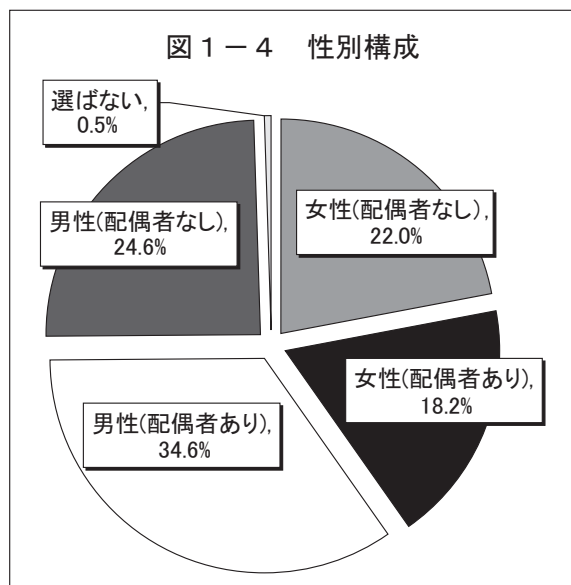


職種による年齢構成（図 1－3）の特徴的な点は、現業部門の民間委託や欠員不補充によって「技能・労務職」の高齢化が進んでいること、続いて「研究職」「海事職」でも年齢構成が高いことである。また、前年からの変化として特徴的なのは、「保健系技術職」（その多くは保健師だと推察されるが）で「20代以下」が15.7%（前年20.5%）、「30代」が25.2%（前年31.3%）、「20代以下」＋「30代」では10.9%減少していることである。ただし、その要因が調査方法によるもの（調査回答者や抽出の偏りなど）なのかはわからず、現場段階で確認願いたい。



2 性別構成－男女の割合は6：4で推移 配偶者なしがさらに微増の46.6%

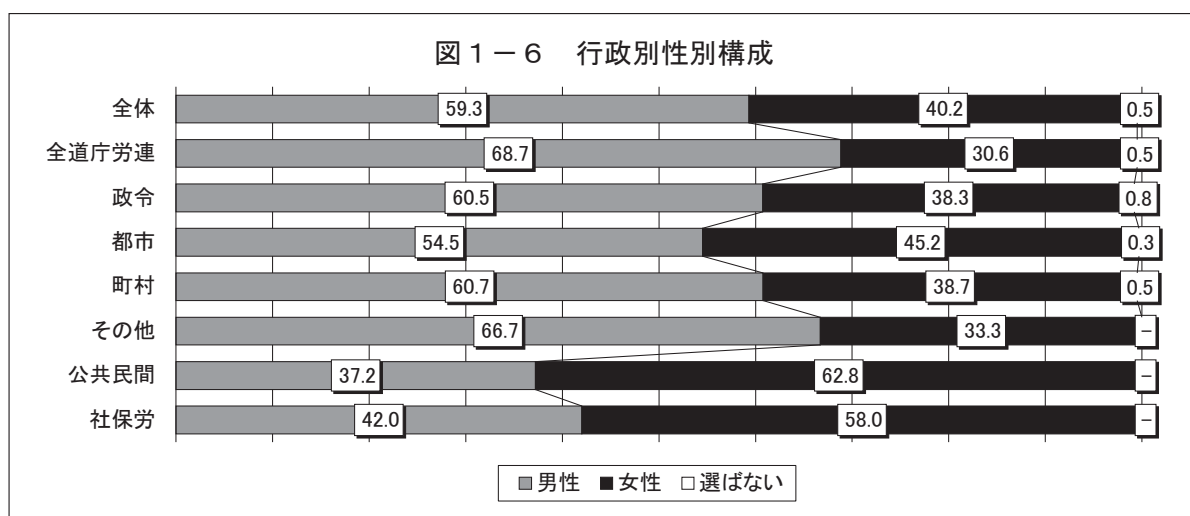
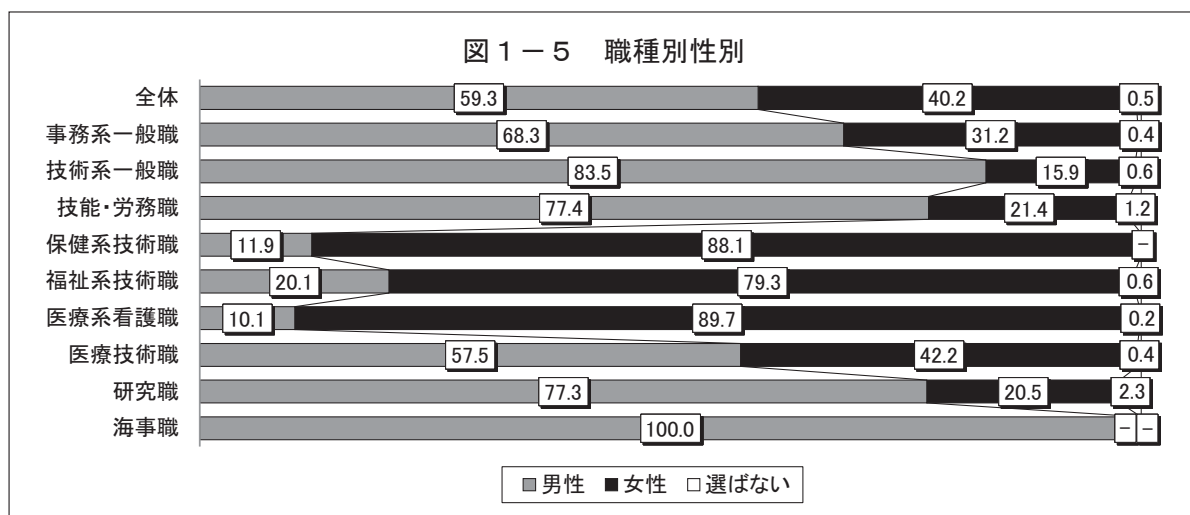
性別の構成（図 1－4）は、男性（配偶者なし＋配偶者あり）が59.2%（21調査60.4%←20調査59%）、女性（配偶者なし＋配偶者あり）が40.2%（21調査39.6%←20調査40.9%）となり、この間、

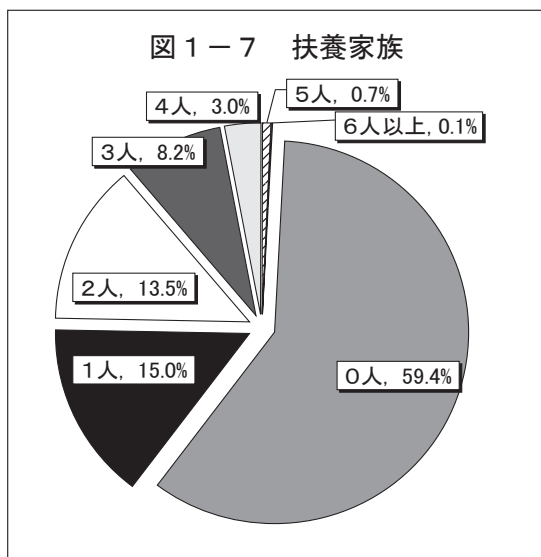


ほぼ男性 6 : 女性 4 の比率で推移している。「配偶者なし」と「配偶者あり」の割合では、「配偶者なし」が微増してきており、今回は46.6%となった（21調査45.8%←20調査44%）。

職種別に性別（図 1 - 5）をみると、女性が多いのは「医療系看護職」（89.7%）、「保健系技術職」（88.1%）、「福祉系技術職」（79.3%）の順となっている。逆に男性が多いのは「海事職」（100%）、「技術系一般職」（83.5%）、「技能・労務職」（77.4%）、研究職（77.3%）の順であった。

行政別（図 1 - 6）で女性の割合が高いのは、「公共民間」62.8%、「社保労」58%、「都市」45.2%で全体平均を超え、逆に「全道庁労連」は30.6%と少ない。



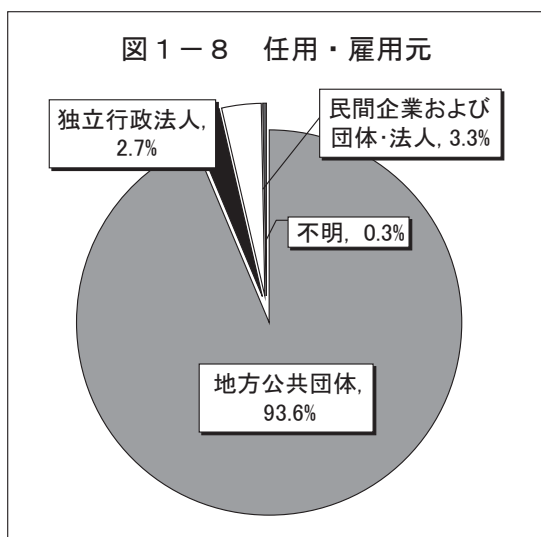


3 扶養家族—扶養なしは59.4%と微増、扶養ありは40.5%

扶養家族の人数構成（図1-7）は、2014調査から「扶養家族なし」が半数を超え徐々に増えていたが、今回も前年（58.8%）から微増し59.4%となった。「扶養家族あり」は40.5%である。

扶養家族の人数は「1～3人」までで全体の36.7%、「0～3人」で96.1%を占める。

なお、「配偶者なし」の「女性」15.5%、「男性」9.2%で扶養家族がおり、「配偶者あり」の「女性」67%、「男性」17.2%で扶養家族がいない。

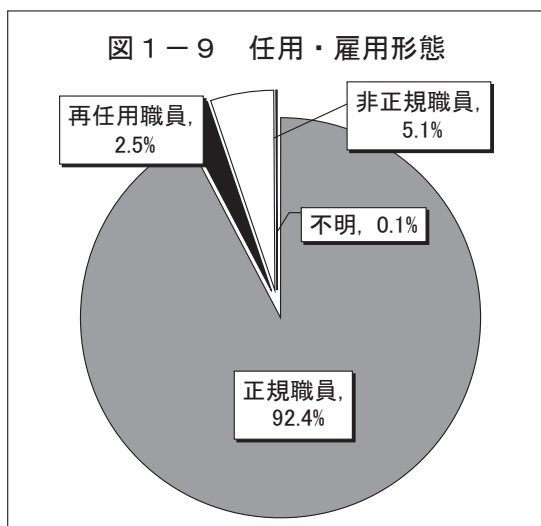


4 任用・雇用元—地方公共団体93.6%、独立行政法人2.7%、民間事業所など3.3%

この設問は、10年前から設定したものである。公共民間の組合員の増加はもとより、非公務員型の独立行政法人が設立され、適用法の違いをはじめ環境が大きく違うことをふまえてフェイスに加えたものである。

結果（図1-8）は、「地方公共団体」93.6%（前年94.5%）、「独立行政法人」2.7%（同2.1%）、「民間企業及び団体・法人」3.3%（同2.9%）で、前年調査と構成比はほぼ変わらない。

5 任用・雇用形態—「非正規職員」は全体の5.1%と微増、84.9%は女性、「福祉系技術職」「技能・労務職」では「非正規職員」が約1割を占める



任用・雇用形態は全体（図1-9）で、「正規職員」が92.4%、「再任用職員」が2.5%、「非正規職員」が5.1%となった。経年変化を見ると「非正規職員」の割合が、ここ2年で微増している（21調査4.7%←20調査4.3%）。

「非正規職員」を性別で見ると、「配偶者あり女性」44%、「配偶者なし女性」40.9%で合計84.9%となり、圧倒的に女性の比率が高い。

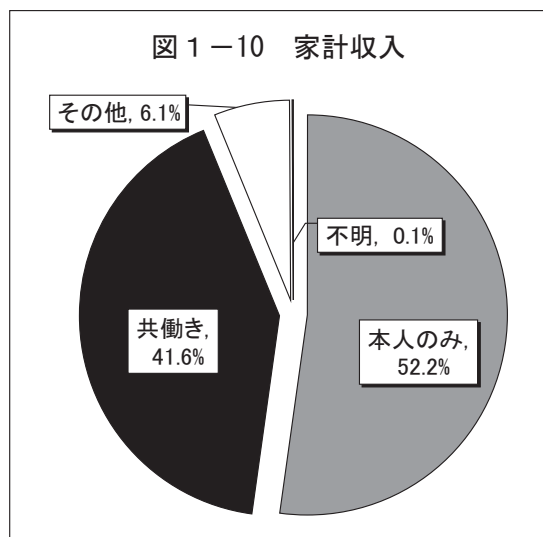
「非正規職員」を職種別で見ると「その他」を別にすれば、「事務系一般職」46.7%、「福祉系技術職」13.4%、「技能・労務職」7.6%の順となっている。

なお、「非正規職員」は「福祉系技術職」の12%、「技

能・労務職」の9.1%を占める。

6 家計収入－「共働き」は全体で41.6%だが、「配偶者あり」のなかでは74.7%

家計収入の状況（図1－10）は、全体（配偶者なし含む）では「本人のみ収入」が52.2%（前年



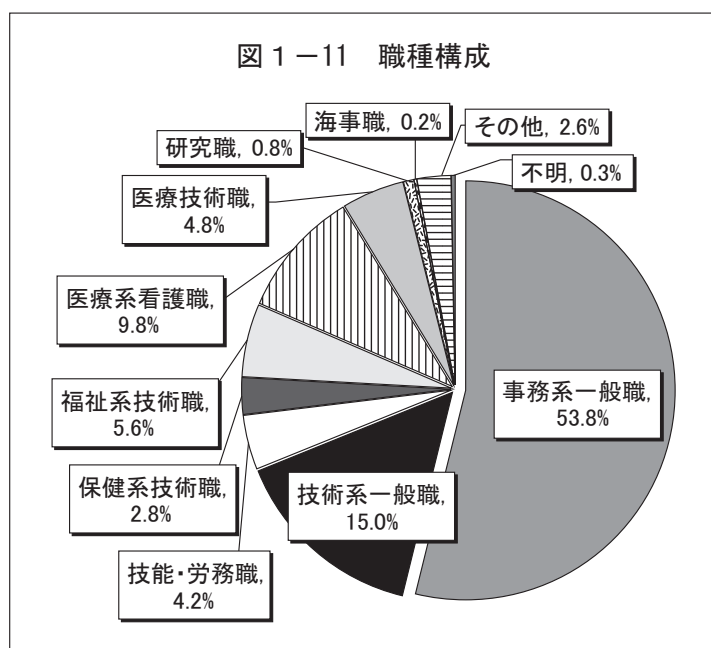
51.4%)、「共働き」が41.6%（同42.5%）で、「共働き」が微減傾向だが、これは前述したように「20代以下」の組合員が増え、「配偶者なし」が微増していることに関係しているのだろう。

配偶者の有無がわかる性別構成と家計収入をクロスしてみると、「配偶者あり」の女性の92.9%（前年92.1%）、男性の65.2%（前年64.9%）は「共働き」で、「配偶者あり」全体では74.7%（前年74.3%）が「共働き」であり、徐々にその比率が高くなってきているようだ。

行政別に「共働き」をみると、「公共民間」57.4%（前年53%）、「都市」45.3%（同45.3%）、「政令」44.6%（同45%）、「町村」41.2%（同42.8%）、「社保労」34.1%（同44.4%）、「全道庁労連」32.5%（同34.5%）という順になっている。

7 職種構成－事務系一般職53.8%、技術系一般職15%、医療系看護職9.8%と続く

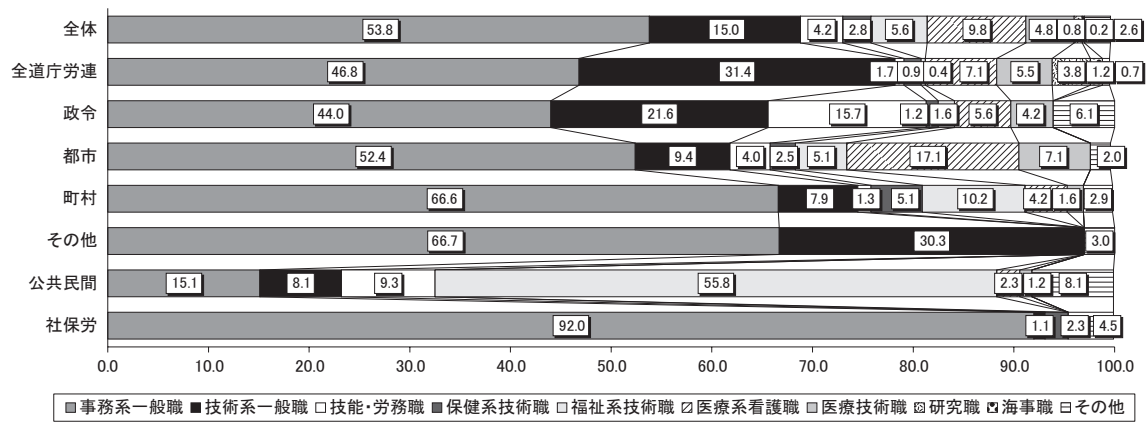
職種構成（図1－11）は、「事務系一般職」が53.8%で最も高く、「その他」を除き、「技術系一般職」



15%、「医療系看護職」9.8%、「福祉系技術職」5.6%、「医療技術職」4.8%、「技能・労務職」4.2%、「保健系技術職」2.8%、「研究職」0.8%、「海事職」0.2%の順となっている。前年と比較して、「事務系一般職」が1.6%減って、「医療系看護職」が1.1%増えているなど微妙な変化はあるものの、前年と概ね変わらないとみていいだろう。

しかし、行政別ではかなり特徴が違うので、図1－12で確認いただきたい。

図 1-12 行政別職種



Ⅱ アンケート集計の特徴

Q 1. 新型コロナの影響－２年目を迎えたコロナ禍 負担となる衛生管理 感染時の生活維持も不安に

Q 1. 現在、あなたが新型コロナ感染症について、(1)仕事面、(2)生活面で不安や影響を感じていることを、それぞれ「３つ以内」で選んでください

(1) 仕事面について

- ①賃金・諸手当の減少 (34.9%) ②休業・解雇（雇い止め） (3.2%)
- ③感染予防や感染者発生時の対応など衛生管理 (51.8%)
- ④出勤調整や人との接触抑制などに伴う自身の仕事のやりくり（調整） (27.4%)
- ⑤業務量の増加 (36.4%)
- ⑥休暇や業務調整に対する職場管理職の対応 (15.0%)
- ⑦在宅勤務・テレワークなどの環境整備 (14.0%)
- ⑧その他 (2.0%)
- ⑨不安や影響を感じていることは特にない (13.1%)

(2) 生活面について

- ①感染時の医療体制 (29.6%) ②ワクチン接種などの感染予防体制 (12.1%)
- ③自身や家族が感染した際の生活維持 (42.0%)
- ④感染対策に伴生活費の増加 (12.1%)
- ⑤物価の上昇 (25.6%) ⑥行動自粛による精神的ストレス (40.4%)
- ⑦行動制限の解除による感染再拡大への不安 (29.3%)
- ⑧子育て、家事の負担増加 (7.0%)
- ⑨ワクチン接種の有無や感染による差別 (11.5%)
- ⑩その他 (1.3%)
- ⑪不安や影響を感じていることは特にない (7.8%)

本設問は２年目を迎えたコロナ禍で、組合員がどのような不安を抱えているのかを把握するため、前年に引き続き仕事面と生活面の両面で調査を実施した。ただ、前年と比べてマスクやアルコールなどの感染予防物資は充足し、ワクチン接種を始めとする各種感染予防対策も進むなど状況は大きく変化した。また、経済活動が再開されたことにより原油価格を始めとする物価の高騰、行動制限解除に伴う不安といった新たな課題も見えてきた。

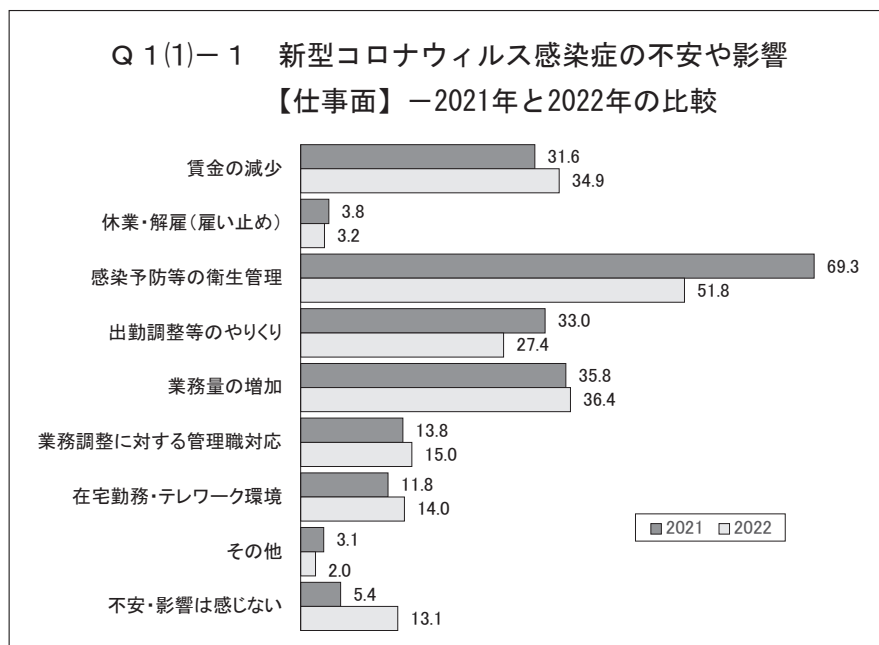
そこで今回、仕事面の設問は2021調査と同一、生活面の設問は一部変更した上で聞いてみた。

(1) 仕事面

①全体の傾向

最も回答が多かったのは、「感染予防や感染者発生時の対応など衛生管理」の51.8%で、組合員の半数以上が衛生管理に不安や影響を感じていた。ただ、2021調査では69.3%であったことを考えると大幅な減少と言える。一方で、「不安や影響を感じていることは特にない」は13.1%と前年比7.7%増となった。このような結果となったのは、感染予防物資の充足、調査時点ではワクチン接

種効果などによって感染者数自体が減少傾向となっていたことが理由と考えられる。



また、2021調査で3割台だった「業務量の増加」は0.6%の微増(36.4%)、「賃金の減少」も3.3%増となったが(34.9%)、「自身の仕事のやりくり」は5.6%減となった(27.4%)。さらに、前年は11.8%と割合が低かった「在宅勤務・テレワーク」に対する不安は、14%とわずかではあるが増えている。

新たな変異株による感染再拡大が発生し、未だ新型

コロナ収束の気配は感じられない。住民の生活を支える組合員がいなければコロナ禍の生活もままならないことを考えると、組合員が不安なく安心して働けるような環境・体制を関係各所に強く求めることが重要であると言えよう。

②年齢・性別の傾向

「年齢別」で見ると、不安のトップは20代以下を除く全ての年代で「衛生管理」となっており、年齢が高くなるのに比例して数値も上昇している。ところが、前年と比べると全ての年代で割合自体は下がっている。特に「60歳以上」は52.1%で、27.6%減となった。

一方、「賃金減少」は「20代以下」が前年比6.1%増の49.3%と半数近くになった。人事院は2021年度の一時金に関して0.15カ月のマイナス勧告をしたが、そうした不安が数値に反映されたのであろう。

「性別」で、男性と女性の差が開いているのは「賃金減少」(男性：40.4%・女性26.8%)、「衛生管理」(男性44.6%・女性62.7%)である。

③職種別・行政別の傾向

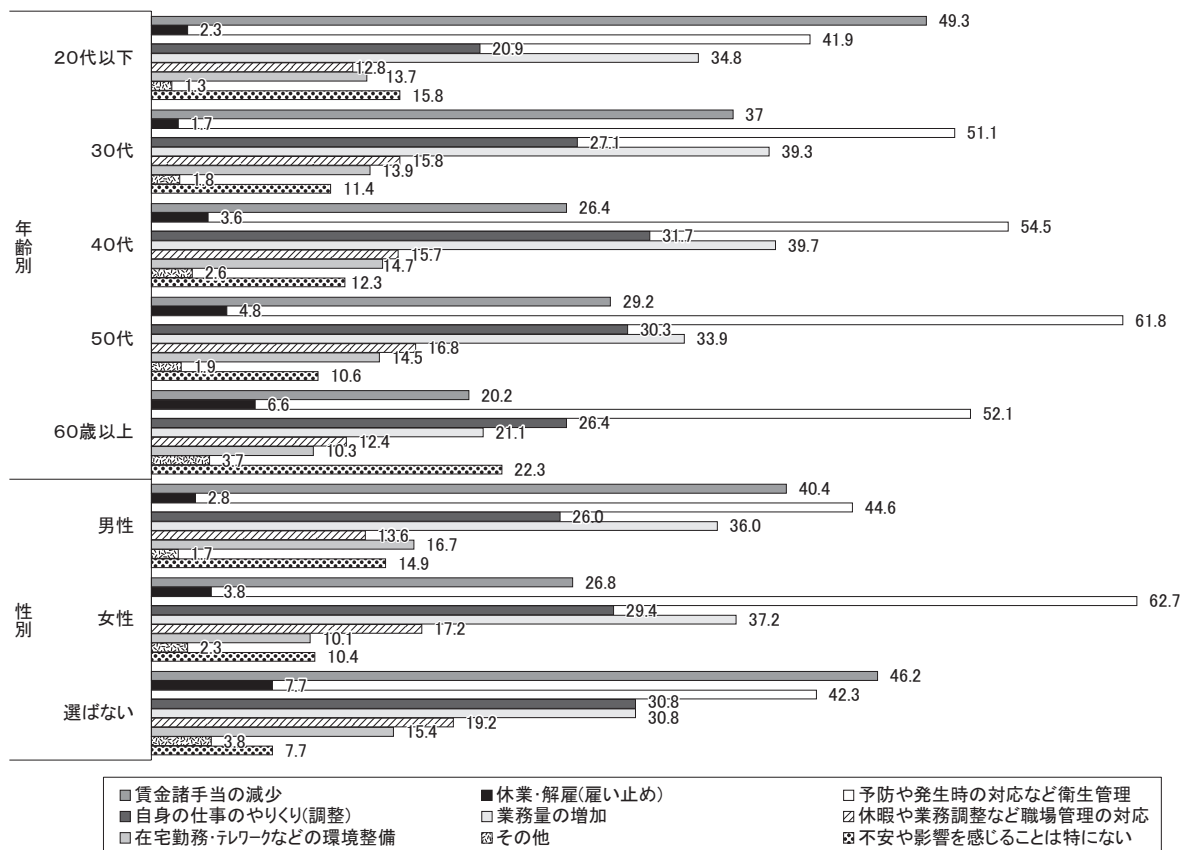
「職種別」では前年同様、「保健・福祉・医療」の業務に携わる組合員で「衛生管理」が高く、「事務系一般職」では低くなっている。ただ、「衛生管理」と回答が高い前述の三職種でも、前年と比べると割合は下がっており、例えば「医療系看護職」は79.8%から65.5%に(14.3%減)、「医療系技術職」は81.3%から60%(21.3%減)となった。

一方、「保健系技術職」で「業務量の増加」が前年の46.6%から大幅増の71.7%となった。前回の調査以降、第3波、第4波、第5波と回を増す毎に感染者数が急増し、PCR検査や入院調整などを含めて保健所業務が多忙化したことが調査結果に反映したものと考えられる。

「行政別」で「衛生管理」の回答が多いのは、「公共民間」67.4%で、以下、「都市」54.8%「町村」53.4%となっているが、こちらも前年と比べると割合は下がっている。

また、「行政別」で「業務量の増加」を見た場合、前年と比べても大きな変化とはなっていない。これは公共サービス提供＝コロナ禍でも通常どおりの業務が求められていること、新型コロナにかかる業務も日常化し、ルーティンワークのようになっていることも影響したと思われる。

Q 1(1)ー2 新型コロナによる不安や影響【仕事面】一年齢別、性別



ただ、その中でも「保健所への応援が負担となっている」などの声が多数挙げられていた札幌市職連の組合員の自由記述は注視しなければならない。根本的な問題は保健所業務に携わる職員不足なのだろうが、いざ感染拡大となった場合、道内人口の約3分の1を抱える札幌市はどうしても感染者数が増えてしまい、保健所への負担は大きくなる。したがって、自由記述に挙げられていた組合員の声は「札幌への一極集中による弊害」との指摘も可能だ。新型コロナは改めてこうした問題を浮き彫りとしたと言えよう。

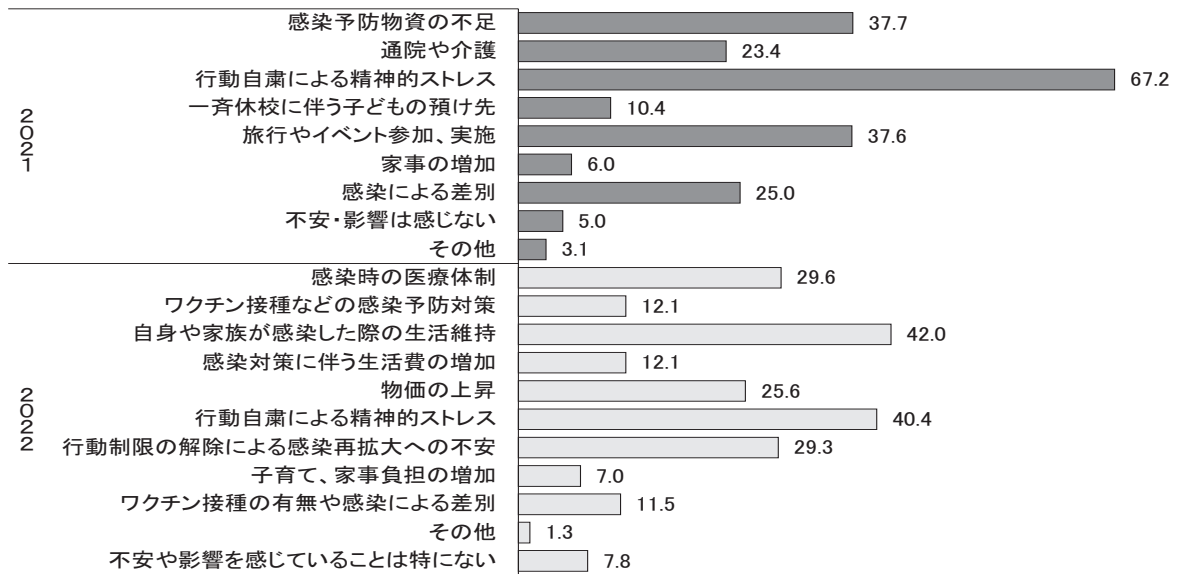
(2) 生活面

①全体の傾向

生活面の回答で目立つのは、今回新設した回答選択肢の「自身や家族が感染した際の生活維持」(42.0%)で、繰り返される感染の波がこうした不安を増す要因に繋がっていると考えられる。また、前年67.2%と高かった「行動自粛による精神的ストレス」は40.4%と数値としては減少している。調査時点では感染状況が落ち着いていたことが大きく影響したと考えられるが、依然として割合は高い。さらに「感染時の医療体制」は29.6%、「行動制限解除による感染再拡大への不安」は29.3%というように、感染第6波に対する不安が感じとれる結果となった。

そして「物価の上昇」も25.6%と高い割合を示した。自由記述でも「ガソリン代高騰による家計圧迫」などが見受けられるように、地域によっては自家用車でなければ通勤ができない職場もあるため、物価上昇を不安視する組合員が多いことも明らかになった。

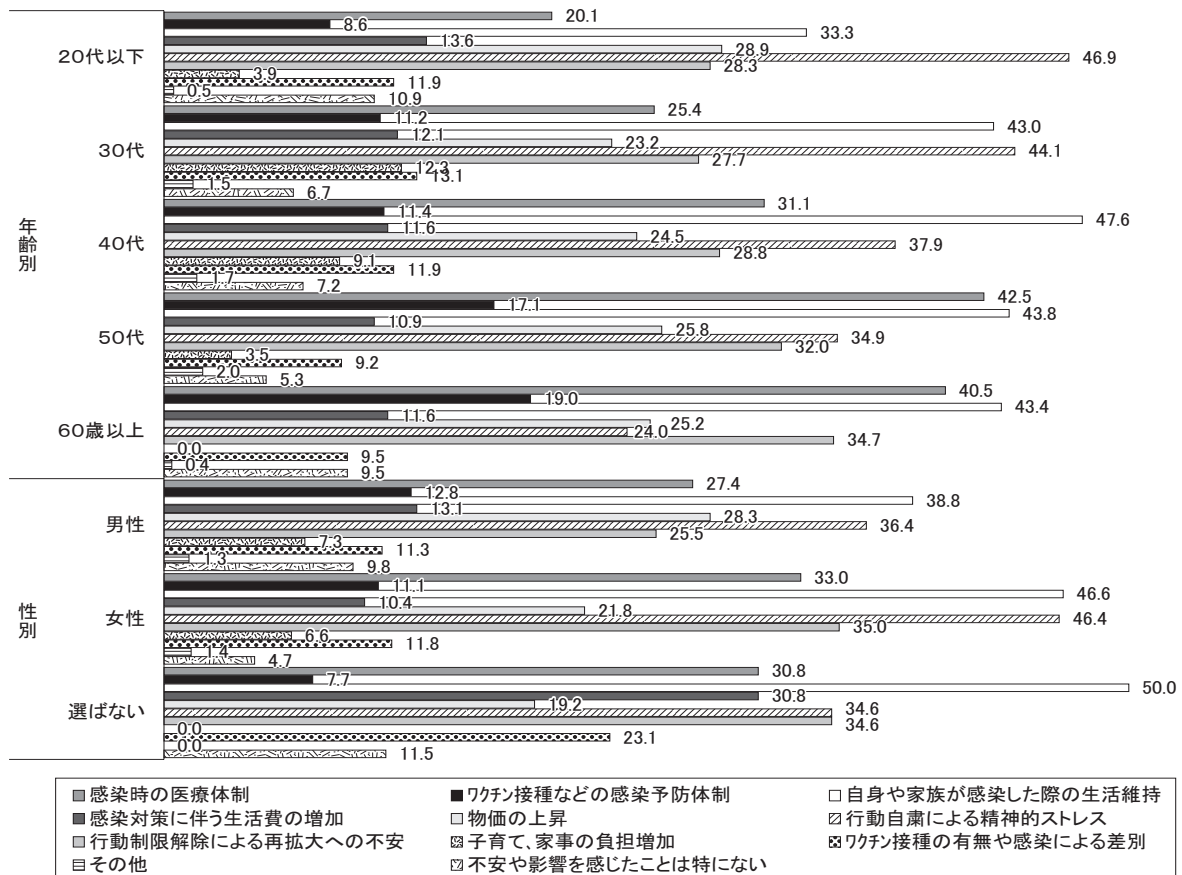
Q 1(2)ー 1 新型コロナウイルス感染症の不安や影響【生活面】ー2021年と2022年の比較



②年齢・性別の傾向

「年齢別」では、若い年代で「行動自粛による精神的ストレス」と回答する割合が高いが、これも前年と比べると2割以上減少している（20代以下71.3%→46.9%、30代67.2%→44.1%）。繰り返になるが、調査時点では感染者数が減少していたため、外出に対する抵抗感が減っていた結果だろう。

Q 1(2)ー 2 新型コロナの影響や不安【生活面】年齢別・性別



「性別」で見ると、男性は「不安や影響を感じていない」、「物価の上昇」や「ワクチン接種などの感染予防対策」と回答した割合が高い。女性は「行動制限解除による感染再拡大への不安」、「行動自粛による精神的ストレス」、「感染時の医療体制」で割合が高くなっている。男女で不安に対する意識の違いがあることは前年調査でも明らかになっていたが、コロナ禍2年目でもその傾向に変化はなかった。

③職種別・行政別

「職種別」では、「医療系看護職」(54.3%)、「医療系技術職」(52.7%)で「行動自粛による精神的ストレス」との回答が5割を超えた。さらに上記2職種と「保健系技術職」(37.7%)、「福祉系技術職」(34.9%)、「海事職」(35.7%)では「行動制限解除に伴う再拡大への不安」が3割を超えている。検査や治療に当たる職種を中心に感染再拡大を懸念していることが確認できる。

「行政別」でも「都市」(43.9%)、「町村」(41.9%)、「その他」(45.5%)で「行動自粛による精神的ストレス」が4割を超えている。また、「政令」(42.6%)、「都市」(43.2%)、「町村」(42.4%)では「自身や家族が感染した際の生活維持」との回答割合も高い。住民に接する機会が多い基礎自治体では、感染リスクが高いということもあり、数値に反映したのだろう。

今回調査から見てきたのは、コロナ禍2年目を迎え、新しい生活様式が浸透してもなお、精神的に与える影響は大きいということである。前年の調査分析では「これからのコロナ禍はメンタルヘルスケアが重要である」と指摘したが、新型コロナに関する業務も終わりが見えないことを考えれば、これから問題が浮かび上がってくると考えられる。今後も調査を継続し組合員の意識など経年変化を確認した上で、総括が必要と言えよう。

Q2. 生活実感—「まあまあ」は47.3%と半数近くになる一方で、「今の生活が苦しい」も45.2%

Q2. あなたの今の生活実感は、次のどれに最も近いですか。

①かなり苦しい	(10.2%)	②やや苦しい	(35.0%)
③まあまあだ	(47.3%)	④ややゆとりがある	(6.2%)
⑤かなりゆとりがある	(1.0%)	⑥不明	(0.3%)

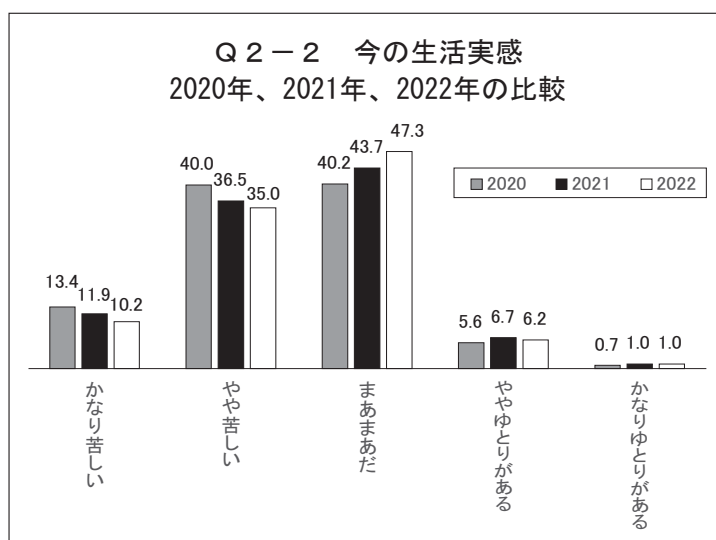
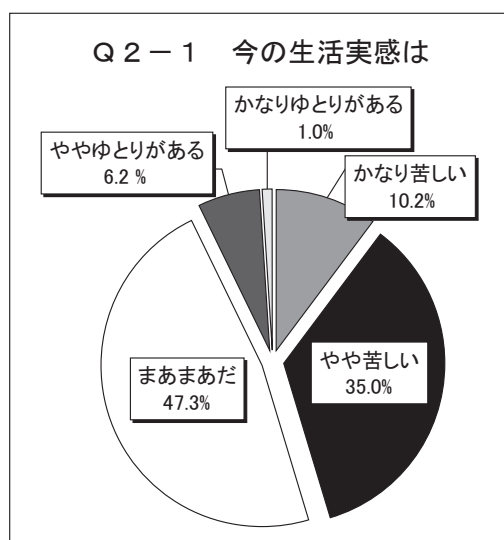
Q2の「今の生活実感」は、5年前の2017調査からの設問である。本来は生活状況の継続的な把握が調査の主目的だが、前年を含む過去の状況と比較することでコロナ禍による生活変化についても分析することを目的としている。

全体の結果は、「かなり」10.2%（前年11.9%）、「やや」35.0%（同36.5%）を合わせた「苦しい」が45.2%。

「かなり」1.0%（前年1.0%）、「やや」6.2%（同6.7%）を合わせた「ゆとりがある」が7.2%。

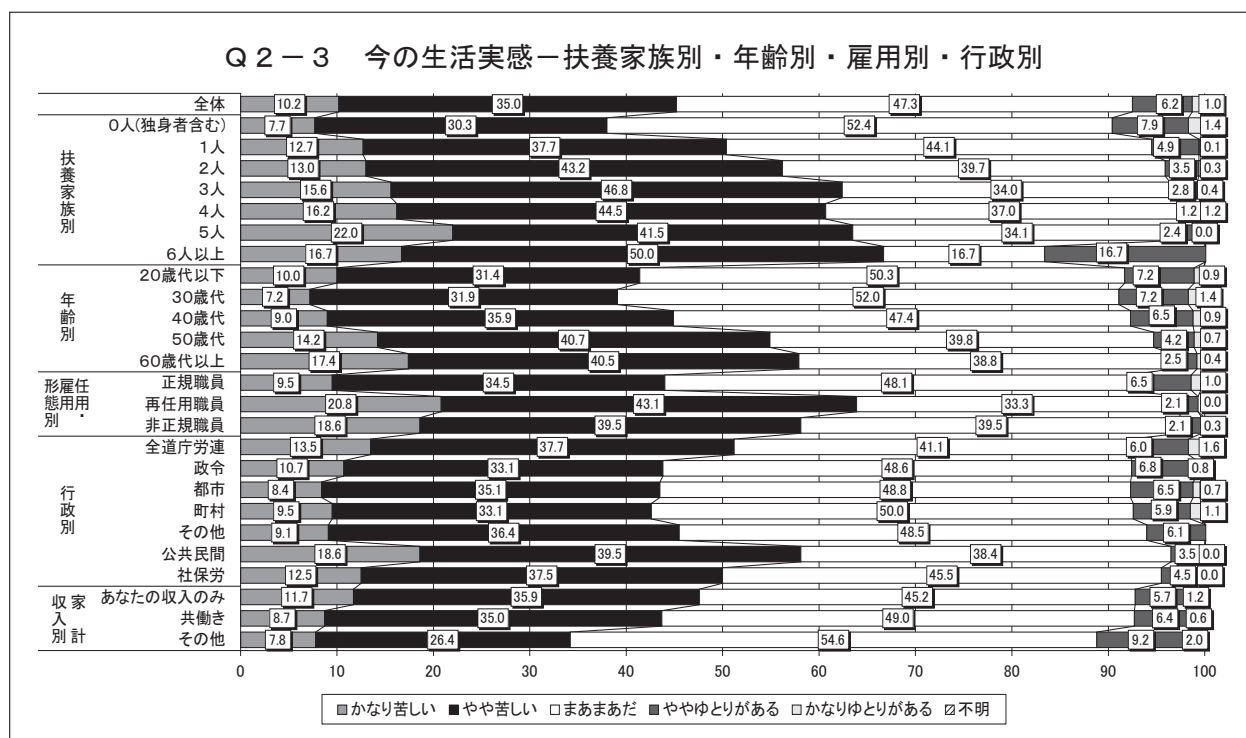
中間の「まあまあ」は47.3%（前年43.7%）となった。前年と比較しても「苦しい」は3.2%減、「まあまあ」は3.6%増となる変化が確認できた。コロナ禍での変化ということもあり、新型コロナの感染が拡大する前の2020調査、コロナ禍1年目の2021調査、コロナ禍2年目の2022調査と比較してみるべく、グラフを作成した。

「かなり苦しい」、「やや苦しい」は緩やかではあるが、右肩下がりとなっていることから減少し



ていることが確認できる。他方で、中間の「まあまあだ」は右肩上がりとなり、2020調査と2022調査で比べると7.1%も増加している。

次に扶養家族別・年齢別・任用雇用別・行政別に見てみたのが、Q 2 - 3である。



「扶養家族別」では、扶養家族が増えていくごとに「かなり」と「やや」を合わせた「苦しい」が増えていっており、その割合も扶養親族が1人以上いれば全体の平均値を超え、人数が増えるに比例して割合が高くなっているのは例年どおりである。事実、扶養家族0人（扶養なし）では「まあまあ」が52.4%で、「苦しい」の38%を14.4%上回り、扶養の有無が生活実感に大きな影響を与えていると指摘できる。

「年齢別」で「苦しい」をみると、年代が上がるにつれ高くなる傾向に変化はないが、30代が唯一4割を割り込んでいる（39.8%）。また、「20代以下」で「苦しい」と回答したのは41.4%だが、前年より6.4%減少している。

「任用・雇用形態別」で「苦しい」を見ると、前年65.3%となっていた「非正規職員」が58.1%に下がっ

ている。とはいえ、正規職員の「苦しい」は44%であることを考えれば、まだまだ高い数値と言える。

「行政別」で「苦しい」との割合が多いのは、「公共民間」で58.1%と高く、前年と比べても5.1%増となった。また、「全道庁労連」も51.2%と高いが、前年と比べると2.9%減少している。

「家計収入別」の「あなたの収入のみ」と「共働き」で「苦しい」を比較すると47.6%:43.7%で、前年の51.1%:46%よりも数値は低くなった。また、「まあまあ」は前年41.7%:45.7%だったが、45.2%:49%となっている。

Q 3. 生活・家計の負担—光熱水費が4割超、税金・社保料、住宅、食費は3割超 特に光熱水費が前年比11.9%と急増

Q 3. 生活・家計の状況で、特に負担に感じている費目を、以下から「3つまで」選んで下さい。

		(前回) 順番			(前回) 順番
①食費	30.8%	(32.6) ④	⑧通信費	11.9%	(17.9) ⑧
②光熱水費	42.1%	(30.2) ①	⑨交通・車両費	22.4%	(18.2) ⑤
③住宅関係費	31.8%	(32.5) ③	⑩医療・介護費	11.5%	(13.7) ⑨
④教養・娯楽費	6.5%	(8.8) ⑪	⑪税金・社会保険料	32.8%	(31.3) ②
⑤交際費	4.9%	(6.9) ⑫	⑫生保や損保の掛金	12.5%	(13.5) ⑦
⑥教育費	16.2%	(16.3) ⑥	⑬奨学金の返済	6.6%	(7.5) ⑩
⑦被服費	2.0%	(2.7) ⑬	⑭その他 ()	1.7%	(2.4) ⑭
			⑮不明	2.3%	

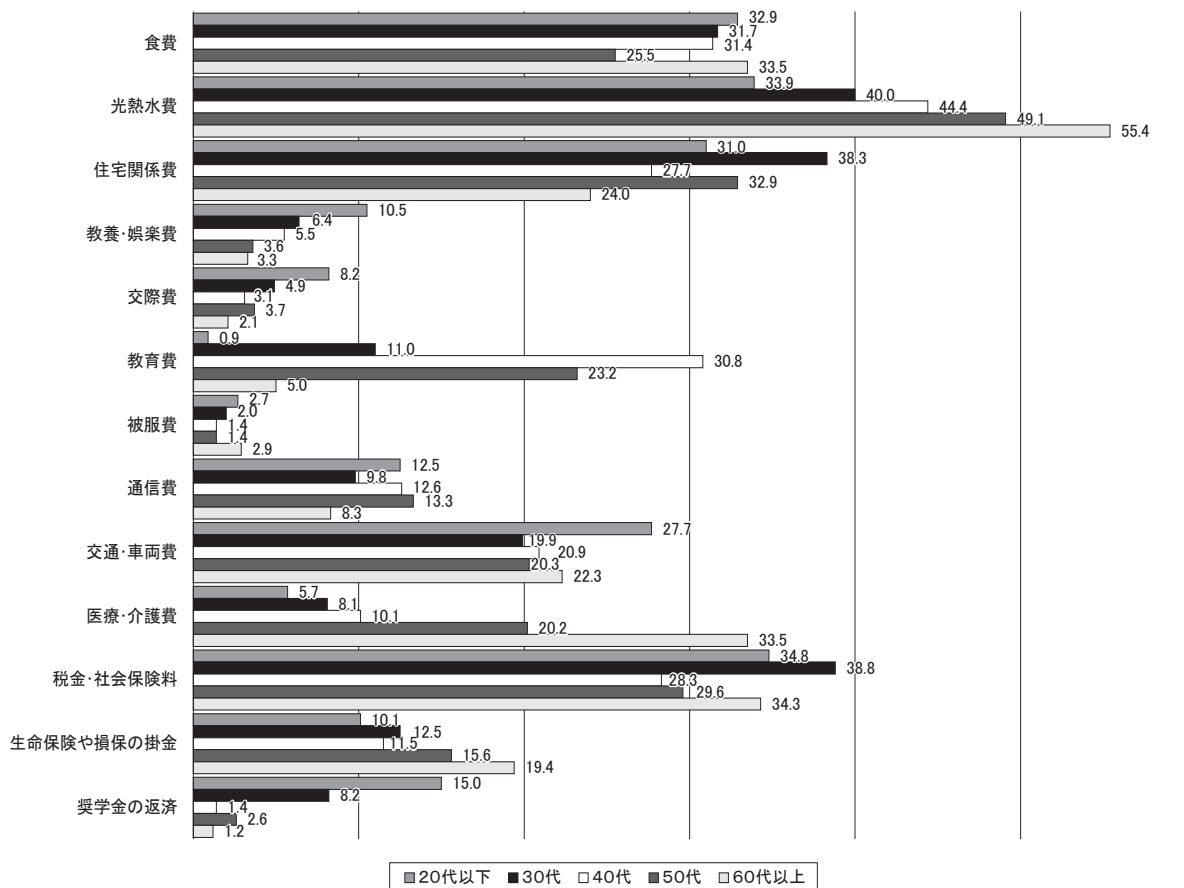
家計に関しては、2017調査から家計収支そのものではなく、家計で実際に負担感が強いものを「3つまで」回答してもらうことにした。

今回は「光熱水費」「税金・社会保険料」「住宅関係費」「食費」の順で、それぞれ前年同様3割を超えている。中でも、光熱水費は42.1%と前年比11.9%増となったのは特筆すべきであろう。コロナ禍でステイホームが続いていること、原油価格の高騰で道民生活に不可欠な灯油をはじめエネルギー料金の値上がりが続いていることなども影響したと推測できる。

前年から変化では「交通・車両費」が4.2%増(18.2%→22.4%)、「通信費」が6%減となった(17.9%→11.9%)。前者はガソリン代の高騰などが影響したと考えられる。後者は、コロナ禍でテレワークなど通信環境を整える動きが落ち着いたことや携帯料金の引き下げなどもあって、2020調査の水準(13.1%)に戻ったと言えよう。

Q 3-1は、年齢別に負担感の強い項目を示したグラフである。今年の特徴は、全ての年代で「光熱水費」が負担のトップとなっている。年代別特徴としては「20代以下」が「税金・社会保険料」(34.8%)、「30代」も「税金・社会保険料」(38.8%)、「40代」は「食費」(31.4%)、「50代」は「住宅関係費」(32.9%)、「60歳以上」が「税金・社会保険料」(34.3%)の割合が高い。ライフステージによって負担が大きい経費が異なるのは例年どおりで、中年層での「教育費」や高齢層では「医療・介護費」が目立っているが、前年より数値は下がっている。また、「教養・娯楽費」と「交際費」については、前年をさらに下回った。特に「交際費」は2020調査から半減以下になっている(13.0%→6.9%→4.9%)。これは間違いなく新型コロナの影響であろう。

Q 3 - 1 生活・家計の負担一年齢別



そして「奨学金の返済」を負担に感じていると回答をした「20代以下」について、前年は17.7%だったが、今年は15%となり、若干であるが下がっている。とは言え、依然として他の世代と比較すると割合は高い。さらに「交通・車両費」の負担も突出している。札幌など一部地域を除き、車が無ければ通勤も生活も不便な地域がほとんどであるにも関わらず、前述のように原油価格高騰でガソリン・軽油も値上りし、負担を感じているのだろう。自由記述の中には「通勤手当が赤字である」などと言った記載が目立った。

Q 4. 2022春闘要求額は、10,744円（前年比プラス886円）

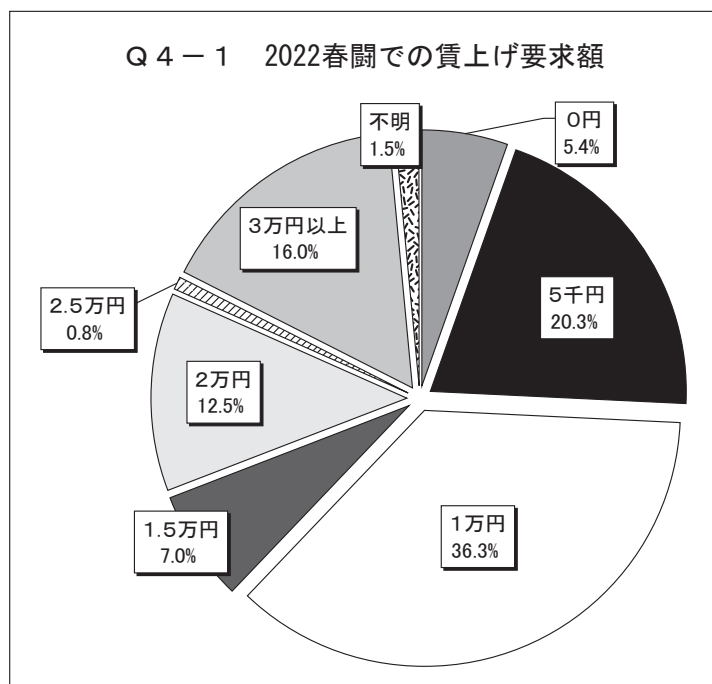
Q 4. 2022春闘での賃上げ要求について、あなたは要求額（定期昇給部分を除いた金額）をいくらにすべきだと思いますか？

- | | | | | | |
|-----------|---------|---------|---------|-----------|---------|
| ① 0円 | (5.4%) | ② 5千円程度 | (20.3%) | ③ 1万円程度 | (36.3%) |
| ④ 1.5万円程度 | (7.0%) | ⑤ 2万円程度 | (12.5%) | ⑥ 2.5万円程度 | (0.8%) |
| ⑦ 3万円程度 | (16.0%) | ⑧ 不明 | (1.5%) | | |

賃上げ要求額の調査は、一時期中断した時期もあった。道本部の調査でも、2000春闘から3年間、それまでの「賃上げ要求額」から「生活必要額」に切り替えられてきた。2003年の見直し作業の際に、あらためて「生活必要額」ではなく、労働組合としての「賃上げ要求額」の調査を復活さ

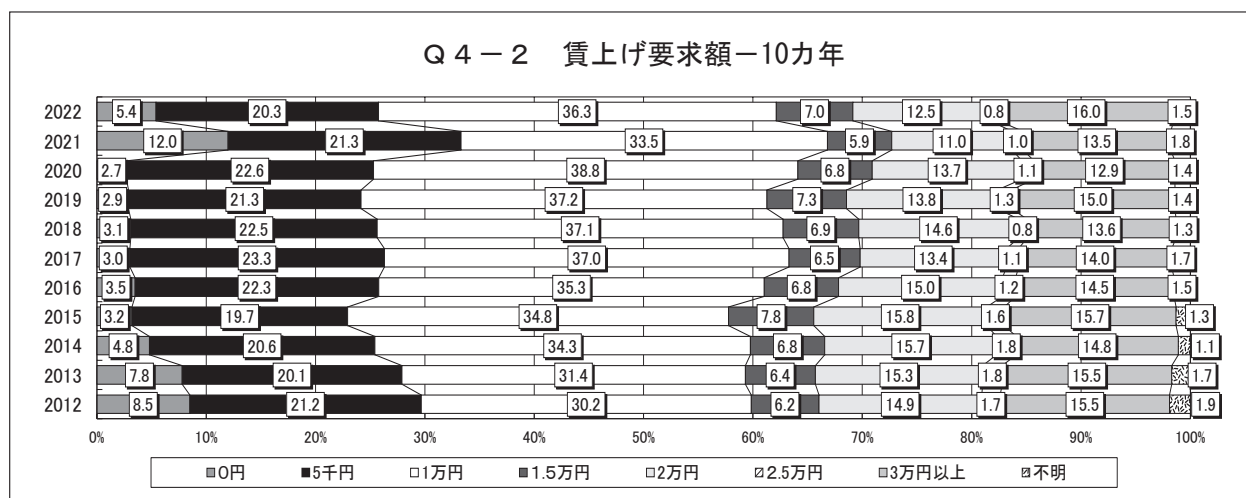
せた。

また2004調査から、さらに当時の全体の賃金闘争の現状（民間ではほとんどが定昇のみ要求）や、自治体でも財政難からの独自削減の広がりも考慮して、組合員の意識を正確に反映するため、あえて「0円（定昇のみ）」という選択肢も加えている。



前年は過去最低額9,858円となったが、今回の要求額の調査結果は、前年から886円アップの10,744円となった。要求額水準で言えば、3年前の2019年と同程度に回復したことになる（2019年は10,874円）。

また、Q 4 - 2のグラフでも明らかに、ここ10年間では要求額「1万円」が4割近くを占めており、2022年も要求額「1万円」は36.3%で最も多い。今回、1万円台を回復した理由は、前年12%だった要求額「0円」が6.6%減の5.4%になり、要求額「3万円以上」が過去10年では最高の16%になったことと考えられる。

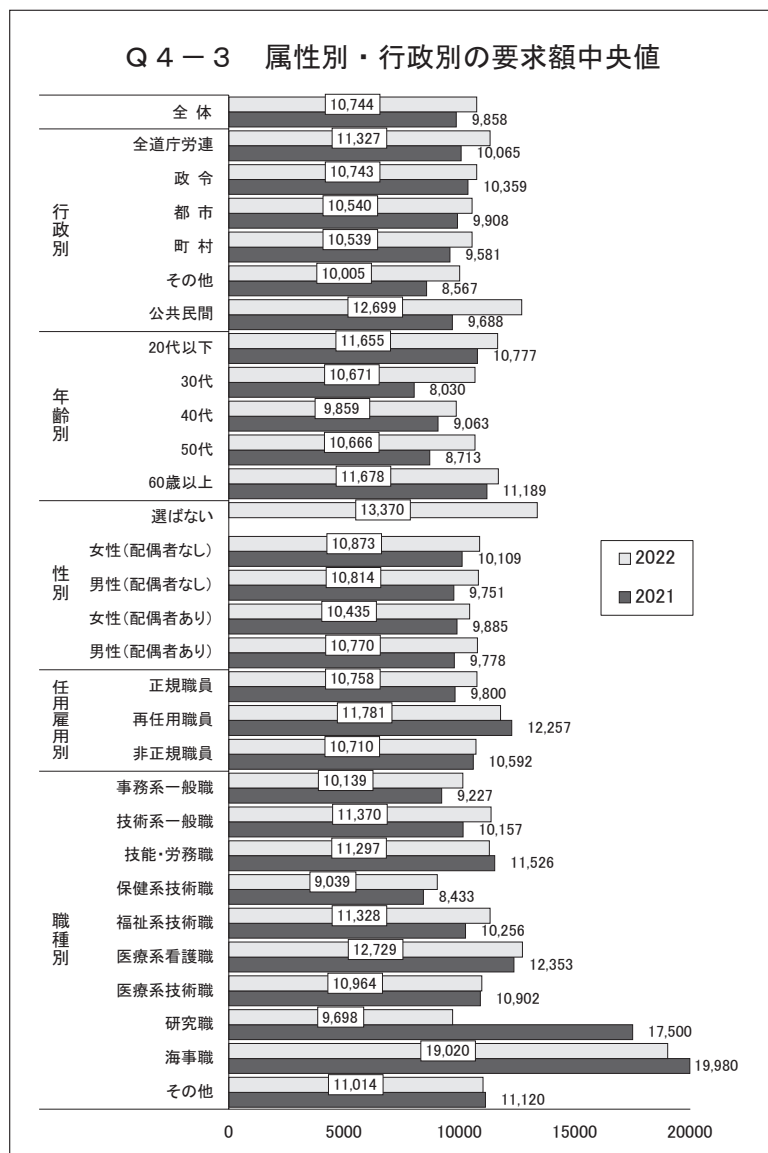


＜中央値の求め方＞

- ①中央値は、100%から不明1.5%を除いた数の中間値であり、その値は49.25%となる。
- ②中央値は1万円程度（36.3%）の帯の中にあり、その最低値は7,500円である。「0円」と「5千円程度」の計は25.7%である。
- ③計算式は

$$7,500円 + \frac{49.25 - 25.7}{36.3} \times 5,000円 \approx 10,744円$$

「行政別」では、すべて前年の要求額を上回った。その中でも「公共民間」の要求額が最も高く、前年と比べると3,011円アップとなっている。



「年齢別」では、「60歳以上」の要求額がもっとも高く、「20代以下」、「30代」、「50代」の順となり、「40代」の要求額は最も低くなっている。近年、要求額が最も低かった「30代」は今回、「40代」を上回る10,671円となった。

「性別」では、要求額が最も高いのが「女性（配偶者なし）」となり、次いで「男性（配偶者なし）」、「男性（配偶者あり）」、「女性（配偶者あり）」となっている。

「任用・雇用形態別」では、例年同様に「再任用職員」が最も高く、「非正規職員」が「正規職員」より低いという結果になったが、「正規職員」と「非正規職員」で要求額にはほぼ差がない。

「職種別」では、「研究職」、「海事職」で前年より大幅ダウンとなっているものの、サンプル数が少ないことに留意する必要がある。

全体として、前年の要求額は新型コロナウイルスの影響で下がったと考えられるが、今回の調査は以前の水準に

戻ったと言えよう。

＜参考＞

また「道本部の春闘要求額」と「公務員共闘としての春闘要求額」の推移を示したのが次の（図「Q 4－4 春闘要求額の推移」）である。今回も、資料的価値を認めて調査値を付加して掲載した。

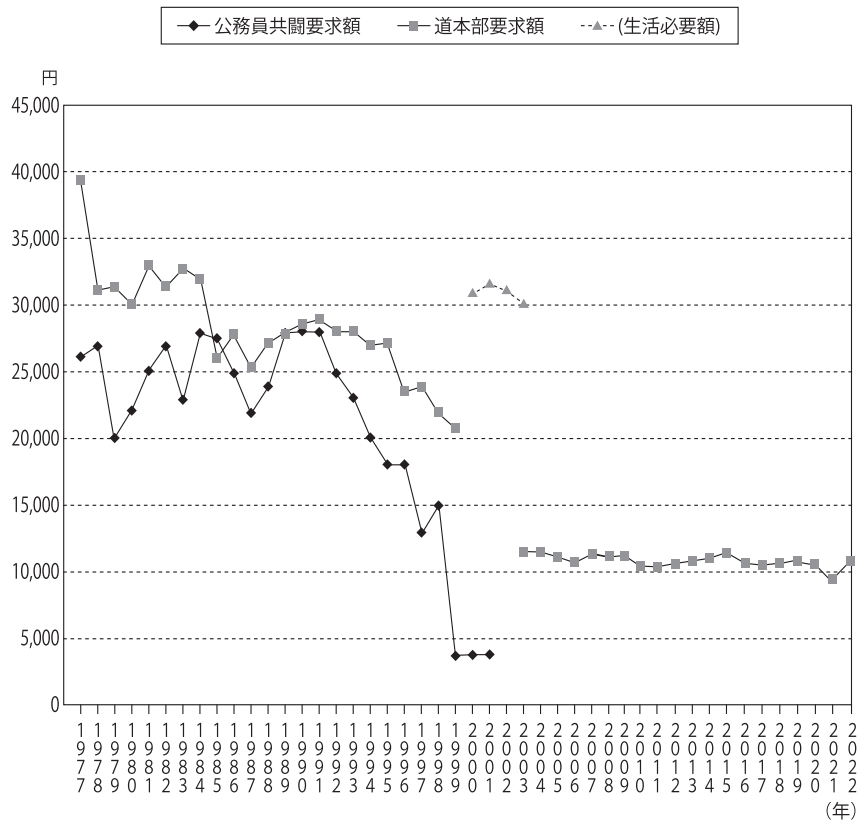
自治労と公務員共闘が今回のような賃金要求額に関わるアンケート調査を始めたのは1972年にまで遡る。この年は、公務員共闘レベルで初めて春闘路線に踏み込んだ最初の年で、春闘を闘うために前年（1971年）暮れに「組合員生活実態調査」が実施されている（公務員共闘の要求額は2万円以上と決定）。この時点での道本部の調査も、全国調査の一環として実施されており、道本部独自の集計をするまでに至っていなかった。

道本部独自の集計結果が出てくるのは、別表にあるとおり1977年からである。この時の道本部要求額は39,500円。これに対して公務員共闘の統一要求額は26,000円となっている。これ以降、一時を除いて、だいたい道本部要求額が公務員共闘の全国統一要求額を上回っている。公務員共闘としての統一要求は2001年春闘で終わっている。

Q 4 - 4 要求額（中央値）の推移（道本部調査）

要求額（中央値）の推移（道本部調査）

年	公務員共闘要求額	道本部要求額	(生活必要額)
1977	26,000	39,500	
1978	27,000	31,200	
1979	20,000	31,400	
1980	22,000	30,000	
1981	25,000	33,078	
1982	27,000	31,398	
1983	23,000	32,776	
1984	28,000	32,000	
1985	27,500	26,067	
1986	25,000	28,000	
1987	22,000	25,161	
1988	24,000	27,075	
1989	28,000	28,000	
1990	28,000	28,500	
1991	28,000	29,000	
1992	25,000	28,000	
1993	23,000	28,000	
1994	20,000	27,000	
1995	18,000	27,500	
1996	18,000	23,500	
1997	13,000	23,900	
1998	15,000	21,900	
1999	3,700	20,800	
2000	3,800		31,000
2001	3,800		31,650
2002			31,200
2003		11,450	30,050
2004		11,450	
2005		11,250	
2006		10,949	
2007		11,589	
2008		11,005	
2009		11,075	
2010		10,458	
2011		10,514	
2012		10,704	
2013		10,889	
2014		11,006	
2015		11,300	
2016		10,822	
2017		10,588	
2018		10,701	
2019		10,874	
2020		10,593	
2021		9,858	
2022		10,744	

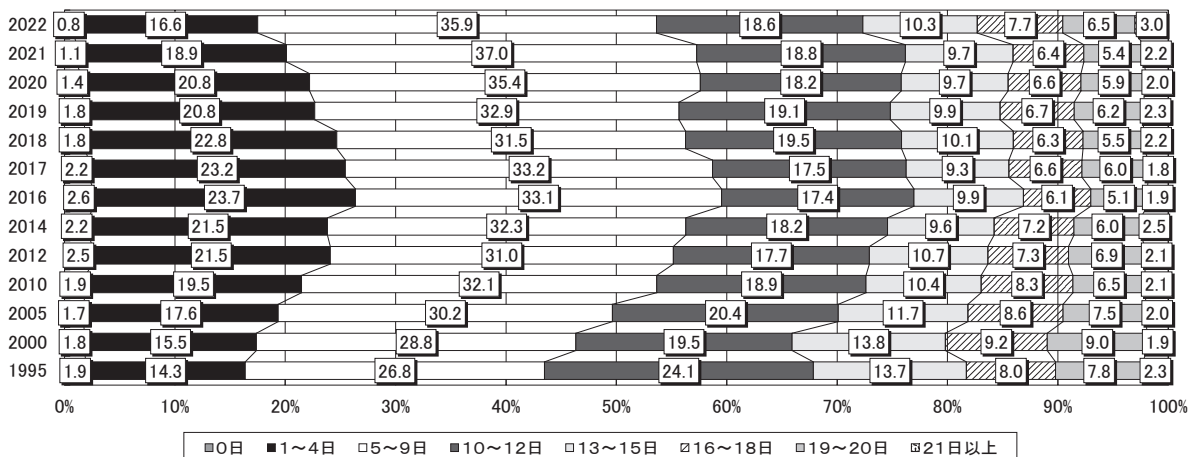


Q 5. 1年間の年休取得一前年より僅かに向上するも、10日未満が過半数超

Q 5. あなたは、この1年間で何日くらい年休を取りましたか。

- | | | |
|------------------|------------------|-----------------|
| ① 0日 (0.8%) | ② 1～4日 (16.6%) | ③ 5～9日 (35.9%) |
| ④ 10～12日 (18.6%) | ⑤ 13～15日 (10.3%) | ⑥ 16～18日 (7.7%) |
| ⑦ 19～20日 (6.5%) | ⑧ 21日以上 (3.0%) | ⑨ 不明 (0.5%) |

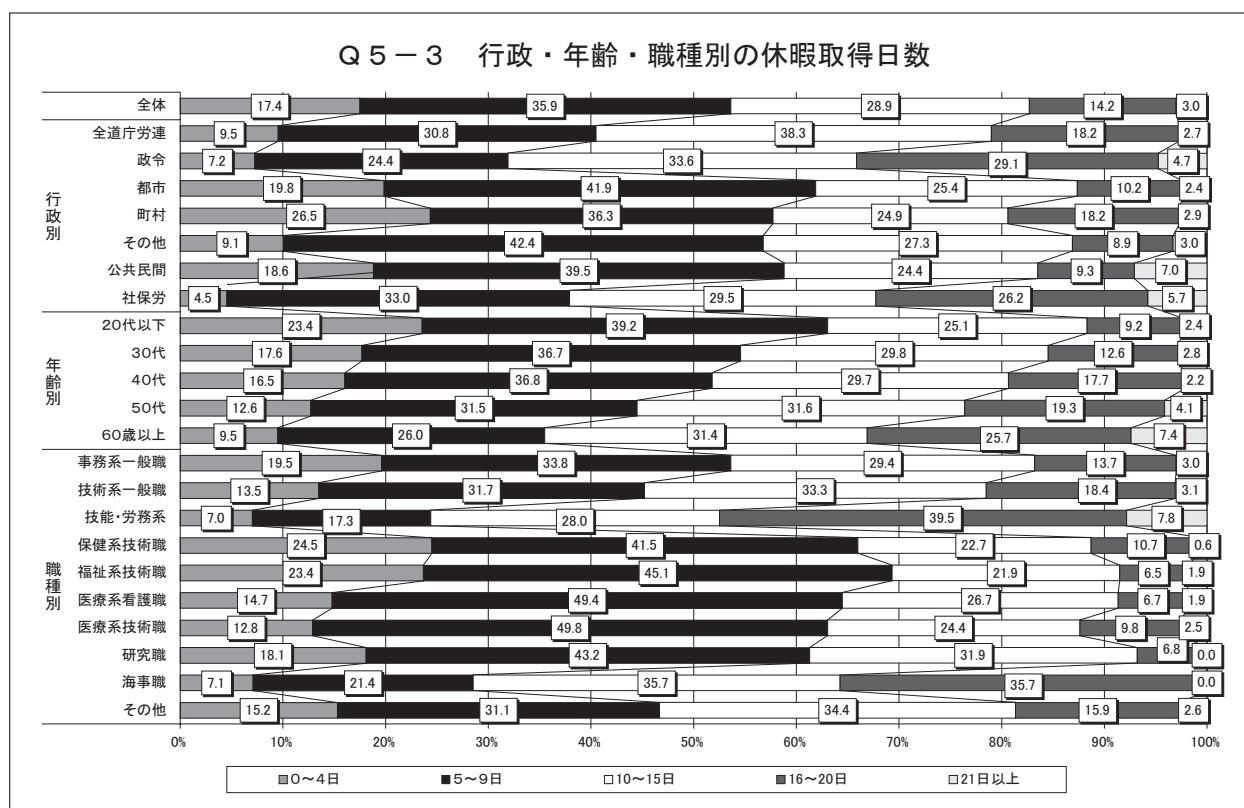
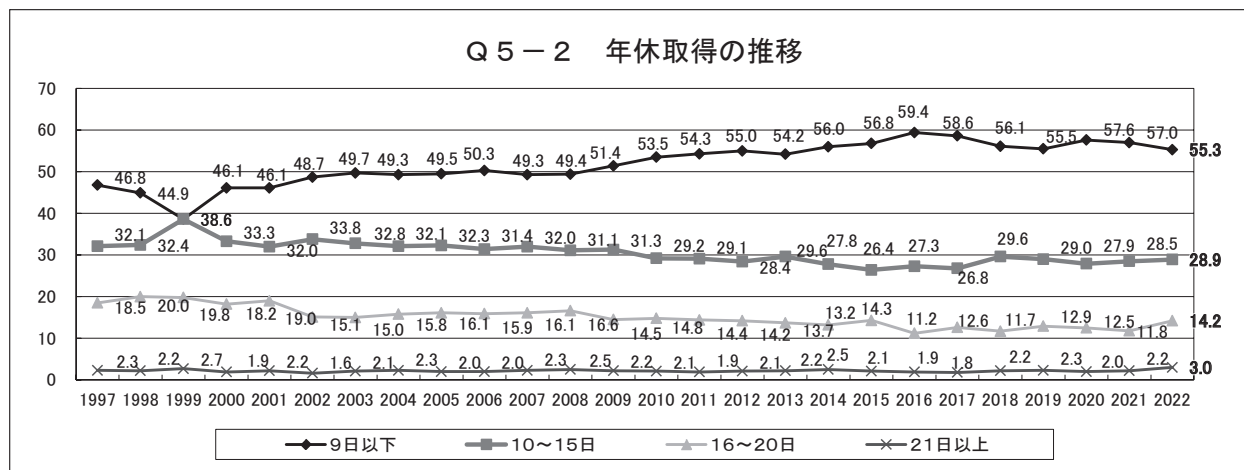
Q 5 - 1 1年間の年休取得日数



年休の取得日数だが、今回も「5～9日」が35.9%（前年37.0%）となり、最も多い。一方、前年2番目に多かった「1～4日」が18.9%から16.6%に減り、代わってわずかではあるものの「16～18日」、「19～20日」が増えている。

しかしながら、「0日」＋「1～4日」を合わせた「0～4日」で見れば、2021年の20.0%、2020年の22.2%からは減少傾向だが、まだ17.4%と2割近くになっている。年休取得義務という視点では問題であろう。

Q5-2は、日数を少し大括りにして、1997年から毎年の変化を追ったものである。「9日以下」の年休取得は2016年を頂点に、ここ5～6年は微減傾向にあるが、依然として55.3%と半数を超えており、さらなる改善が必要であろう。



Q5-3は行政別・年代別・職種別に見たものである。

「行政別」では、「0～4日」の割合が高いのは、「町村」26.5%、「都市」19.8%、「公共民間」18.6%である。特筆すべきは社保労で、前年の10.1%から5.6%減の4.5%、「9日以下」だと前年

の58.6%から21.1%減の37.5%となった。このような変化となったのは、2019年4月の労働基準法改正で、年10日以上の子休が付与される労働者には年5日の子休取得が義務付けられたことが大きいと考えられる。

「年齢別」では、「20代以下」で「0～4日」と回答した割合が高い(23.4%)。前年の28.3%からは4%減となつてはいるが、依然として他の年代より高い。他方で年代があがるにつれて取得日数は増加しており、「50代」以上になると、「10日以上」が5割を越えている。やはりまだまだ若手が休まない、休めない傾向の職場の構造となっていることは間違いないようであり、どう改善するかという課題は残る結果となった。

「職種別」で見ると、「0～4日」の割合が高いのは「保健系技術職」24.5%、「福祉系技術職」23.4%、「事務系一般職」19.5%である。一方、「9日以下」で見ると、前述の「福祉系技術職」が68.5%、「保健系技術職」が66%、「医療系看護職」は64.1%、「医療系技術職」は62.6%で「保健・福祉・医療」業務に携わる組合員で子休取得日数が進んでいない傾向は例年どおりである。前年比で見ると「医療系看護職」は6.2%減、「医療系技術職」は1.6%減と改善しているものの、「保健系技術職」は0.7%増、「福祉系技術職」は6.2%増となり、悪化していることが確認できた。

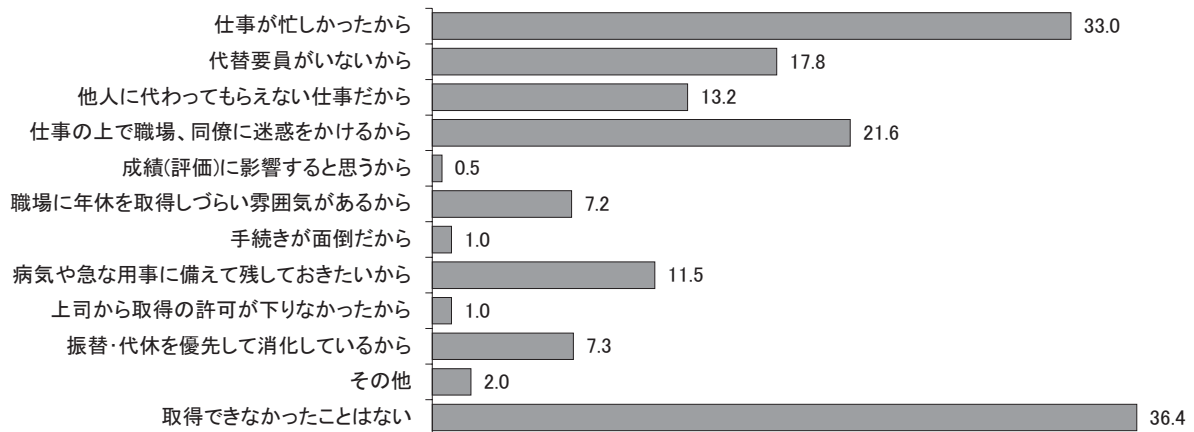
Q 6. 子休を取得できなかった理由－「仕事が忙しい」「職場、同僚に迷惑をかける」「代替要員がない」が上位3つ

Q 6. 年次有給休暇を取得できなかった理由を、以下から3つ選んでください。

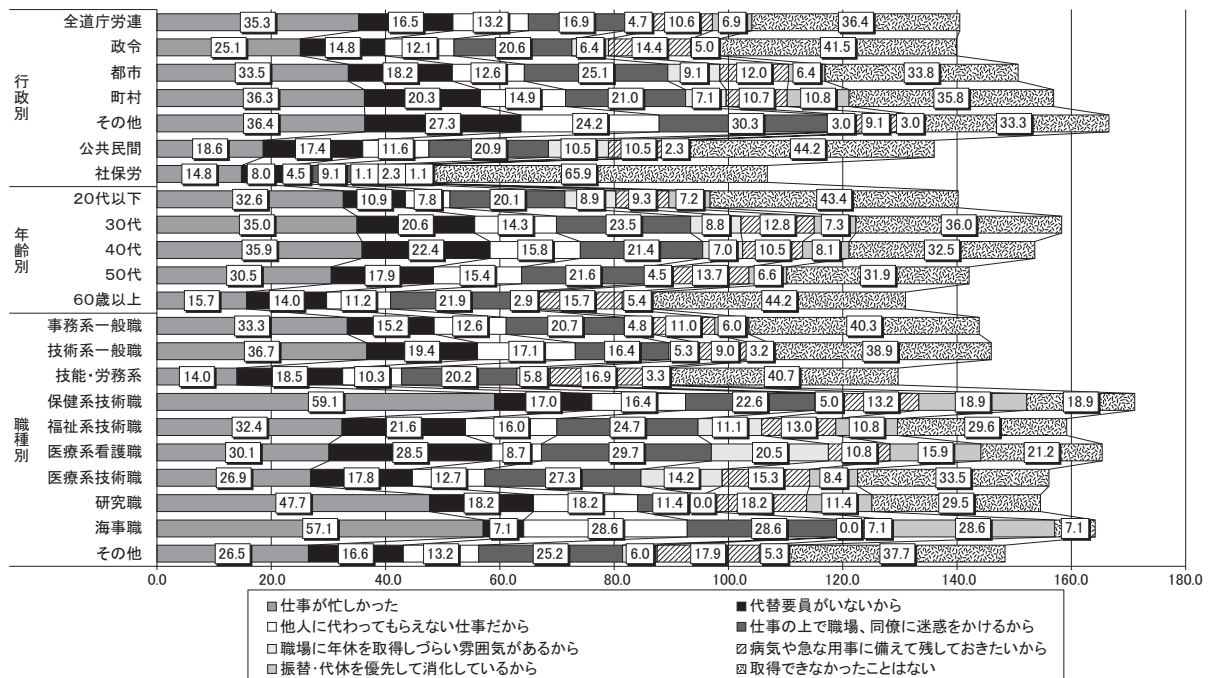
- | | |
|-----------------------|---------|
| ①仕事が忙しかったから | (33.0%) |
| ②代替要員がないから | (17.8%) |
| ③他人に代わってもらえない仕事だから | (13.2%) |
| ④仕事上で職場、同僚に迷惑をかけるから | (21.6%) |
| ⑤成績(評価)に影響すると思うから | (0.5%) |
| ⑥職場に子休を取得しづらい雰囲気があるから | (7.2%) |
| ⑦手続きが面倒だから | (1.0%) |
| ⑧病気や急な用事に備えて残しておきたいから | (11.5%) |
| ⑨上司から取得の許可が下りなかったから | (1.0%) |
| ⑩振替・代休を優先して消化しているから | (7.3%) |
| ⑪その他 | (2.0%) |
| ⑫取得できなかったことはない | (36.4%) |
| ⑬不明 | (8.5%) |

前年と同様に、Q 5「子休の取得日数」とあわせて、Q 6で「取得できなかった理由」を加えて質問し、12の選択肢から3つまで選んでもらった。なお、紙幅の都合で少数回答を抜いてQ 6-2を作成した。「取得できなかった理由」の一番は、やはり「仕事が忙しかったから」33.0%(前年34.9%)で、順に「仕事上で職場、同僚に迷惑をかけるから」21.6%(同23.5%)、「代替要員がないから」17.8%(同18.9%)となっているが、いずれの割合も前年よりは下がっている。なお、回答選択肢の1つである「取得できなかったことはない」について前年は29.3%であったが、今回は36.4%と7.1%増となった。

Q 6 - 1 年休を取得できなかった理由



Q 6 - 2 年休を取得できなかった理由－行政別、年齢別、職種別



「行政別」では、「仕事が忙しかったから」と回答した割合が全体平均を超えたのが、「その他」(36.4%)、「町村」(36.3%)、「全道庁労連」(35.3%)、「都市」(33.5%)の順となった。

「年齢別」で「仕事が忙しかったから」と回答する割合が全体平均を超えたのは、「40代」(35.9%)、「30代」(35%)である。その一方、「20代以下」(43.4%)、「60歳以上」(44.2%)、では「取得できなかったことはない」との回答割合が高い。

「職種別」では、「仕事が忙しかったから」との回答が全体平均を超えたのは、「保健系技術職」(59.1%)、「海事職」(57.1%)、「研究職」(47.1%)、「技術系一般職」(36.7%)、「事務系一般職」(33.3%)である。また、「代替要員がないから」と回答した割合が高かったのは、「医療系看護職」(28.5%)、「福祉系技術職」(21.6%)、「技術系一般職」(19.4%)で、この3職種のうち「福祉系技術職」と「医療系看護職」は「仕事上で職場、同僚に迷惑をかけるから」と回答した割合も高い。さらに「医療系看護職」では「職場に年休を取得しづらい雰囲気があるから」と回答した割合が20.5%で他職種と比較しても高い。

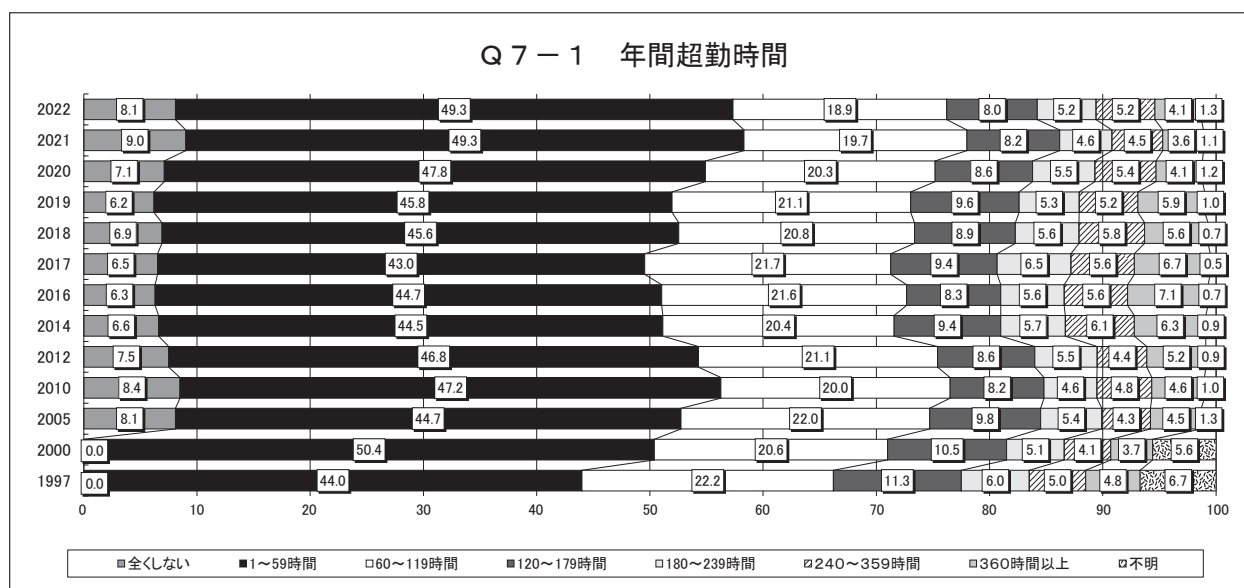
以上、Q5とQ6を通じて、年休取得の状況と年休が取れない理由を見てきたが、取得できない上位3つについては、いずれも前年の数値からは減少した。このようになったのは、2019年4月の労働基準法改正などを契機に、労務管理として年休を取得するよう働きかけが行われていることも要因と推察できるが、本当に年休を取得しやすい職場となっているかは、職場段階で検証が必要であろう。

また、「保健系技術職」では「仕事が忙しかった」と回答した割合が前年の49.2%から59.1%に増えるなど、新型コロナによる影響と思われる傾向も確認でき、引き続き、職場へのケアが求められている。

Q7. 1年間の超勤時間—長時間超勤が微増 新型コロナによる影響か

Q7. あなたは、この1年間でどれくらい超勤しましたか。(未払いを含む)

- | | | | |
|------------|---------|------------|---------|
| ①まったくしていない | (8.1%) | ②1～59時間 | (49.3%) |
| ③60～119時間 | (18.9%) | ④120～179時間 | (8.0%) |
| ⑤180～239時間 | (5.2%) | ⑥240～359時間 | (5.2%) |
| ⑦360時間以上 | (4.1%) | ⑧不明 | (1.3%) |

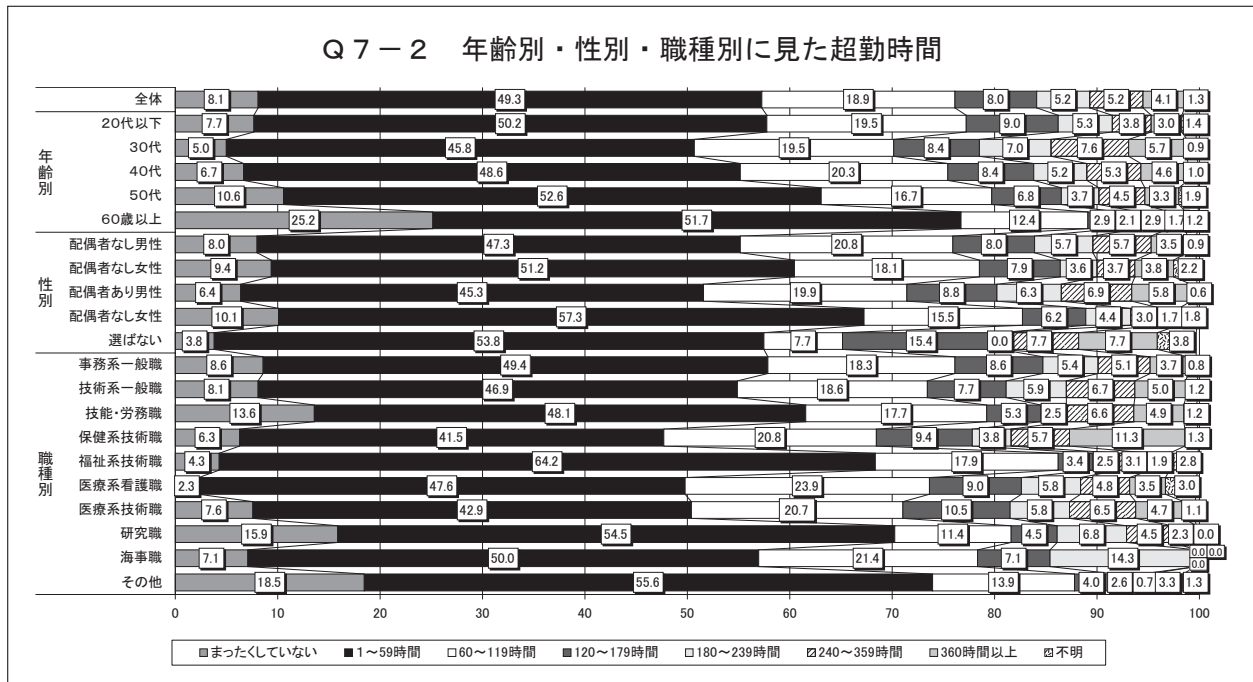


年休取得は微増する中で、超勤については前年と比べて、「全くしない」が0.9%減、「1～59時間」は同数、「60～119時間」が0.8%減となったが、「120～179時間」は0.2%増、「180～239時間」は0.6%増、「240～359時間」は0.7%増、「360時間以上」が0.5%増となり、120時間以上の超勤がわずかながら増加する結果となった。

年齢別で見ると、前年同様「30代」が最も超勤が多く、前年「全くない」が3割を超えていた「60歳以上」も25.2%（前年比9%減）となった。

職種別では、120時間以上の超勤となっているのは、「保健系技術職」（30.2%）、「医療系技術職」（27.5%）、「技術系一般職」（25.3%）、「医療系看護職」（23.1%）で高く、特に「保健系技術職」で360時間以上の超勤は前年の2.3%から11.3%と大幅に増加した。

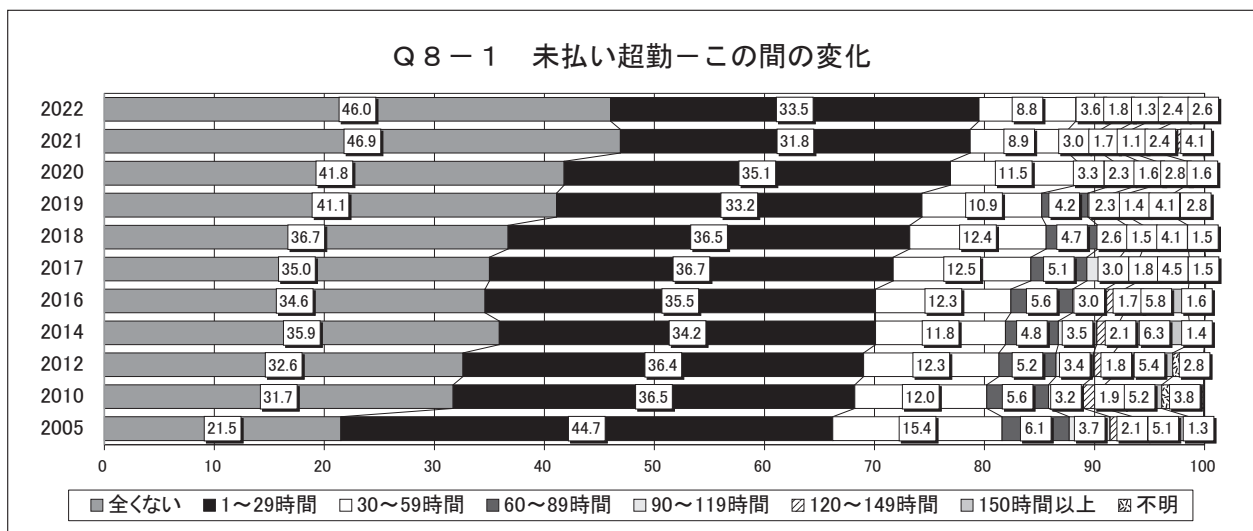
その他を含めて詳細は、巻末のクロス表を参照いただきたい。



Q 8 未払い超勤－２年ぶりに増加傾向

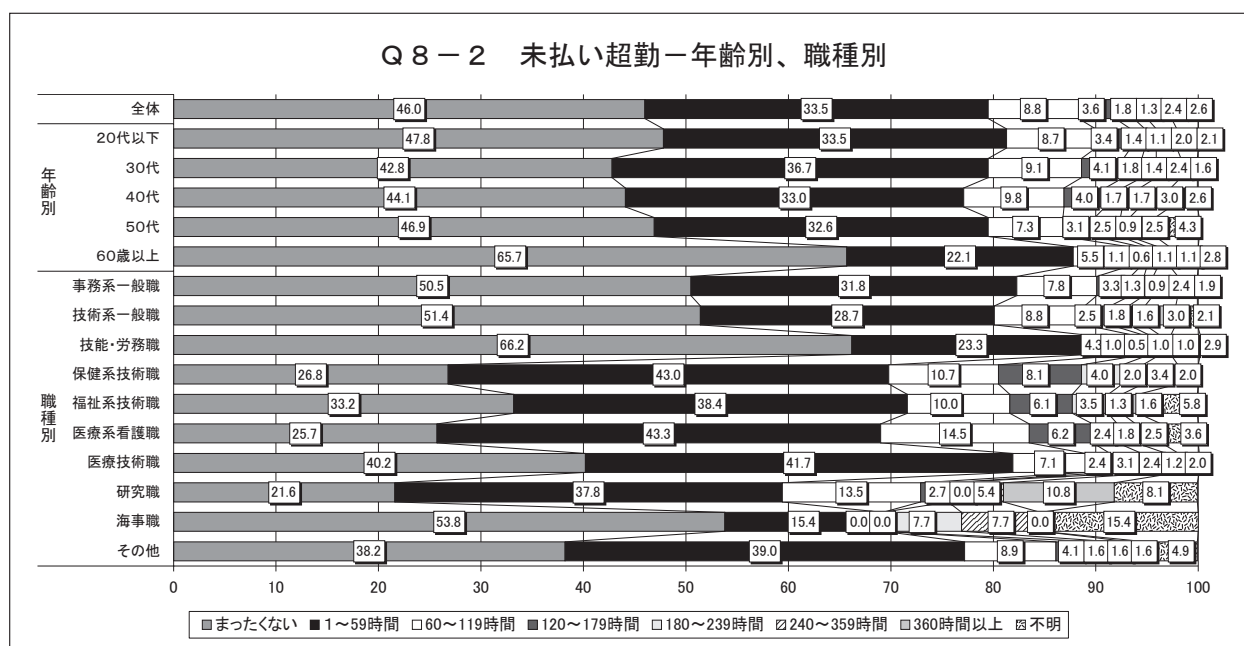
Q 8. Q 7 のうち、「未払い超勤」はどれぐらいですか。

- | | |
|------------------|-------------------|
| ①まったくない (46.0%) | ②1～29時間 (33.5%) |
| ③30～59時間 (8.8%) | ④60～89時間 (3.6%) |
| ⑤90～119時間 (1.8%) | ⑥120～149時間 (1.3%) |
| ⑦150時間以上 (2.4%) | ⑧不明 (2.6%) |



今回の「未払い超勤（サービス残業）あり」は51.4%で、前年（48.9%）より2.5%増となり、2年ぶりに半数を超えた。前年比で見ると、「1～29時間」で1.7%増、「30～59時間」は0.1%増、「60～89時間」は0.6%増、「90～119時間」は0.1%増、「120～149時間」が0.2%増となった。

未払い超勤の状況（時間区分を全て合算したもの）を年齢別で確認すると、「30代」が57.1%と



最も多く、次いで「40代」、「50代」、「20代以下」の順となっているが、今年は「60歳以上」を除く全ての年代でサービス残業が半数を超えるなど、全体的に悪化していることが確認できる。

職種別にみると、時間を問わず「未払いあり」の割合が高いのは、「保健系技術職」（71.2%）、「医療系看護職」（70.7%）、「研究職」（70.2%）、「福祉系技術職」（60.9%）である。特に「保健系技術職」は前年の62.5%から8.7%悪化、「研究職」は14.3%悪化している。

ここしばらくの間は超勤や未払い超勤が減少傾向であったが、Q 7 及び Q 8 で示したとおり、ここにきて再び増加に転じた。新型コロナによる影響が大きいと思われるが、超勤の未払いは問題であり、早急な対処が求められる。また、Q 5 で見たように、年休取得が改善する一方で超勤が増えたということは、実質的にトータルの労働時間は改善されていない可能性がある。働き方改革の目的は長時間労働の是正、年間総労働時間の短縮であり、改めて現場段階での検証が求められる結果と言えよう。

Q 9. 公務員の定年引き上げ—全体で「体力・健康面に不安」「賃金の不安」が高く、男性、30-40代、町村では職場への影響を懸念

【地方公共団体と独立行政法人、その他の公法人に勤務する方に伺います】

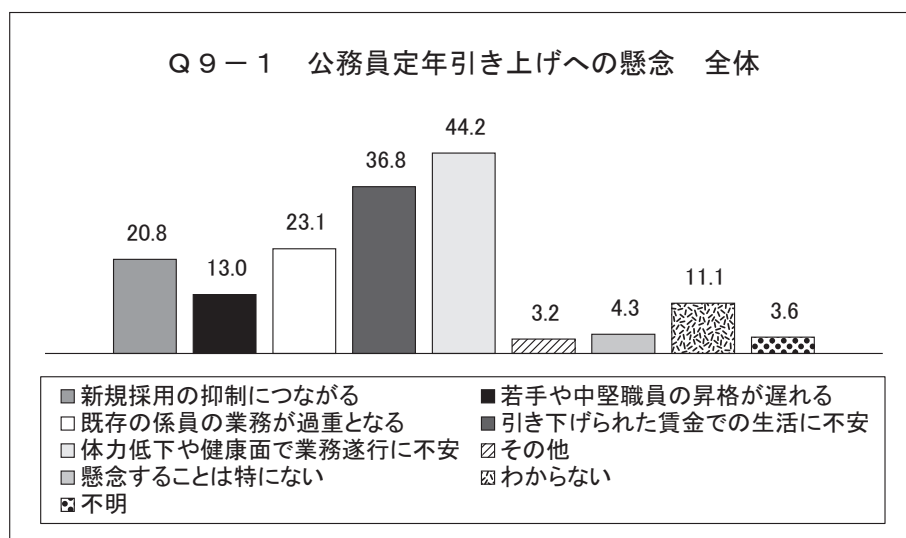
Q 9. 公務員の定年については、2023年から2年毎に1歳ずつ引き上げられ、2031年度に65歳となり、賃金は60歳時の7割水準になります。このことに伴って懸念や心配していることを、以下から「2つ以内」で選んでください。

- ①退職年齢が引き上がることによって、新規採用の抑制につながる (20.8%)
- ②（管理職だった人が）係長相当職に格付けされた場合、若手や中堅職員の係長への昇格が遅れる (13.0%)
- ③先輩が係長となることが、仕事の配分調整に影響し、既存の係員の業務が過重となる (23.1%)
- ④年金支給年齢の65歳に達するまで、引き下げられた賃金で生活していくことに不安

がある	(36.8%)
⑤体力の低下や健康面などから従前と同じように業務を遂行することに不安がある	(44.2%)
⑥その他	(3.2%)
⑦懸念することは特にない	(4.3%)
⑧わからない	(11.1%)

設問のとおり、公務員の定年は2023年度から段階的に引き上げられて、2031年度に65歳となる。このことを受けて、今後の取り組みの参考とするために、組合員個人や職場での懸念・心配される課題について聞いた。

なお、公務員（もしくは準じるもの）が対象となるため、地方公共団体と独立行政法人、その他の公法人（社保）に限定して聞いた。一方、そのなかで、定年延長が職場に及ぼす影響（①、②、③など）への回答肢もあるため、（直接的な対象は「正規職員」となるが）「再任用職員」「非正規職員」は除かず聞いた。そこで、まず全体（「再任用職員」「非正規職員」を含む）と正規職員、それぞれの回答総数を分母として100%換算してみたところ、ほぼ同様の傾向となり、大きな差異（影響）は見られなかった。そのため、全体平均と比較して回答の傾向を見ていくことにした。



Q 9 - 1 は全体の結果であるが、1 番は「体力・健康面で業務遂行に不安」で44.2%、続く2番は「賃金の不安」が36.8%で、やはり定年引き上げが自分自身に及ぼす影響（自身への影響）に関する回答が高い。そこから10%以上減少して、職場や他の職員などへ及ぼす影響（職場への

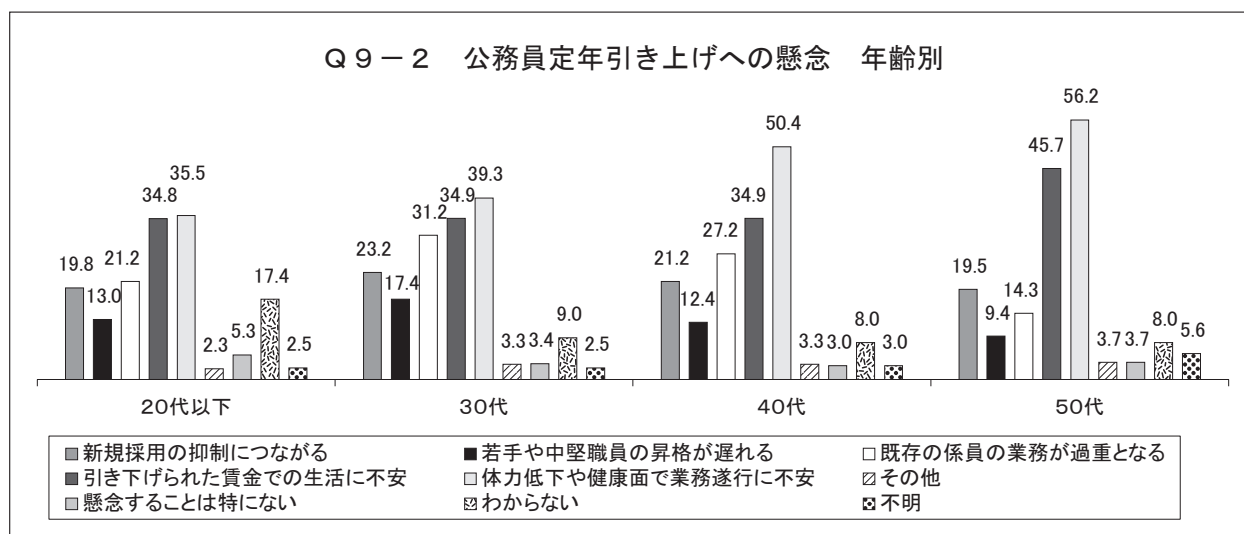
影響）である「既存の係員の業務が過重となる不安」が23.1%の3番、「新規採用の抑制につながる不安」が20.8%の4番でそれぞれ2割を超える回答となった。

また、自由記述の「その他」を見ると、「退職金はどうなるのか不安」とともに「7割水準の賃金ならば7割の仕事であるべき」という旨のコメントが多く見受けられた。

これらの全体結果から見えてくるものは、賃金面での不安はもちろん、体力・健康面と賃金に見合う仕事のモチベーションという意味で、定年引き上げ後の働き方（職務）がどうあるべきかということと、そうしたなかで、人員数や年齢構成、職階を含めた組織体制を検討していく必要があるということであろう。

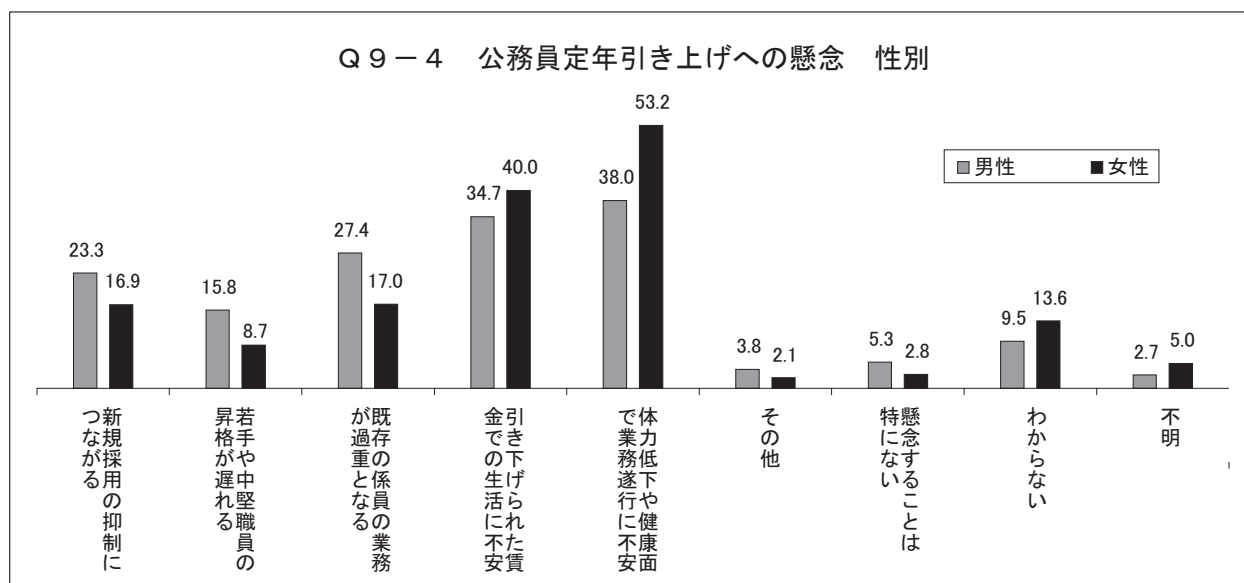
年齢別（Q 9 - 2）を見ると、どの年代でも「体力・健康面で業務遂行に不安」が1番、「賃金の不安」が2番で全体と同傾向にある。それぞれの割合（数値）を見ると定年に近づく50代、40代では「体力・健康面で業務遂行に不安」が半数以上で高く、年代が若くなるにつれて下がるが、「20代以下」でも35.5%となっている。また、「賃金の不安」でも「50代」で半数弱（45.7%）が選択しているが、

「20代以下～40代」でも約35%ある。



「既存の係員の業務が過重となる不安」は、「30代」で31.2%、「40代」で27.2%と全体平均より高い。この年齢層は管理職クラスで業務を差配する立場にも、中堅係員として業務を受ける立場にもなる世代だが、職場への影響を懸念していることがわかる。また、「30代」では全体平均（13%）より高い17.4%の人が「係長への昇格が遅れる」との懸念を持っている。

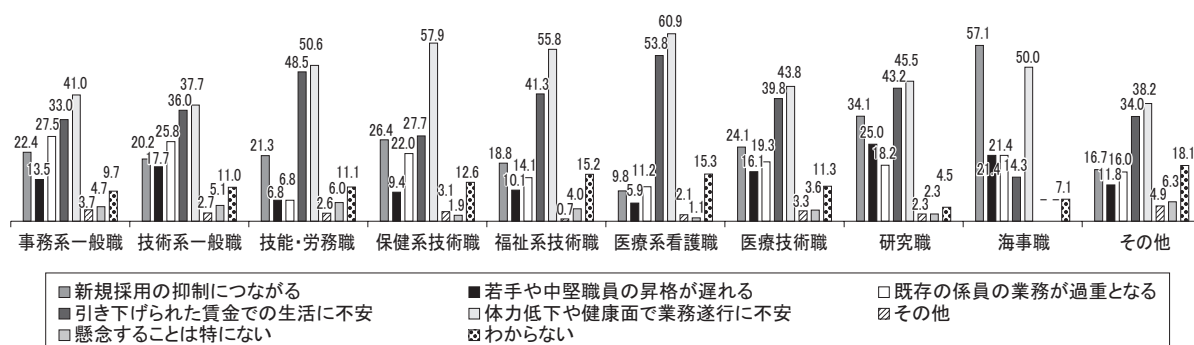
性別（Q 9 - 4）で見ると、「女性」で「体力・健康面で業務遂行に不安」が53.2%と高く、逆に「男性」では職場への影響を懸念する回答が女性と比較して高い。



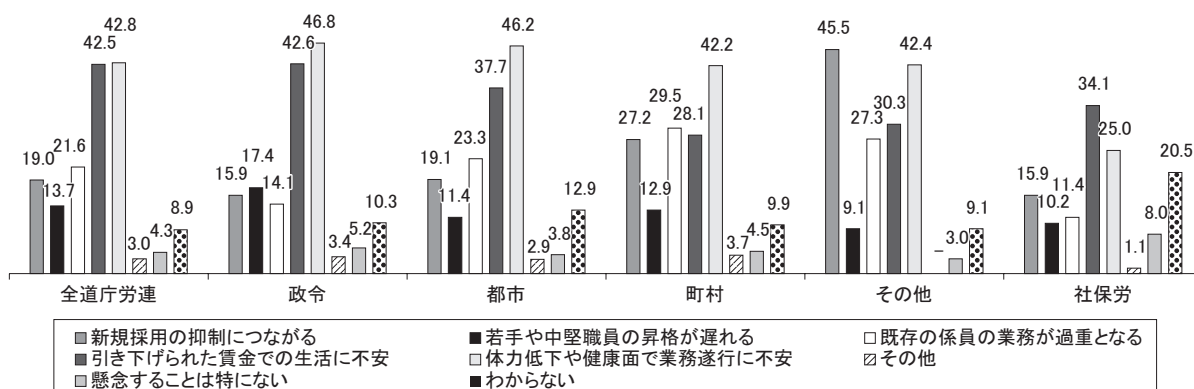
職種別（Q 9 - 5）の特徴的な点を見ると、「体力・健康面で業務遂行に不安」への回答が「医療系看護職」で60.9%、「保健系技術職」で57.9%、「福祉系技術職」で55.8%、「技能・労務職」で50.6%、「海事職」で50%と半数を超えている。また、「医療系看護職」と「技能・労務職」では「賃金の不安」もそれぞれ53.8%、48.5%と高い。

行政別（Q 9 - 6）の特徴的な点を見ると、「町村」で「既存の係員の業務が過重となる」が29.5%、「新規採用の抑制につながる不安」が27.3%と全体平均より高く、比較的人員規模が小さい「町村」で、職場への影響が懸念となっているようだ。

Q9-5 公務員定年引き上げへの懸念 職種別



Q9-6 公務員定年引き上げへの懸念 行政別



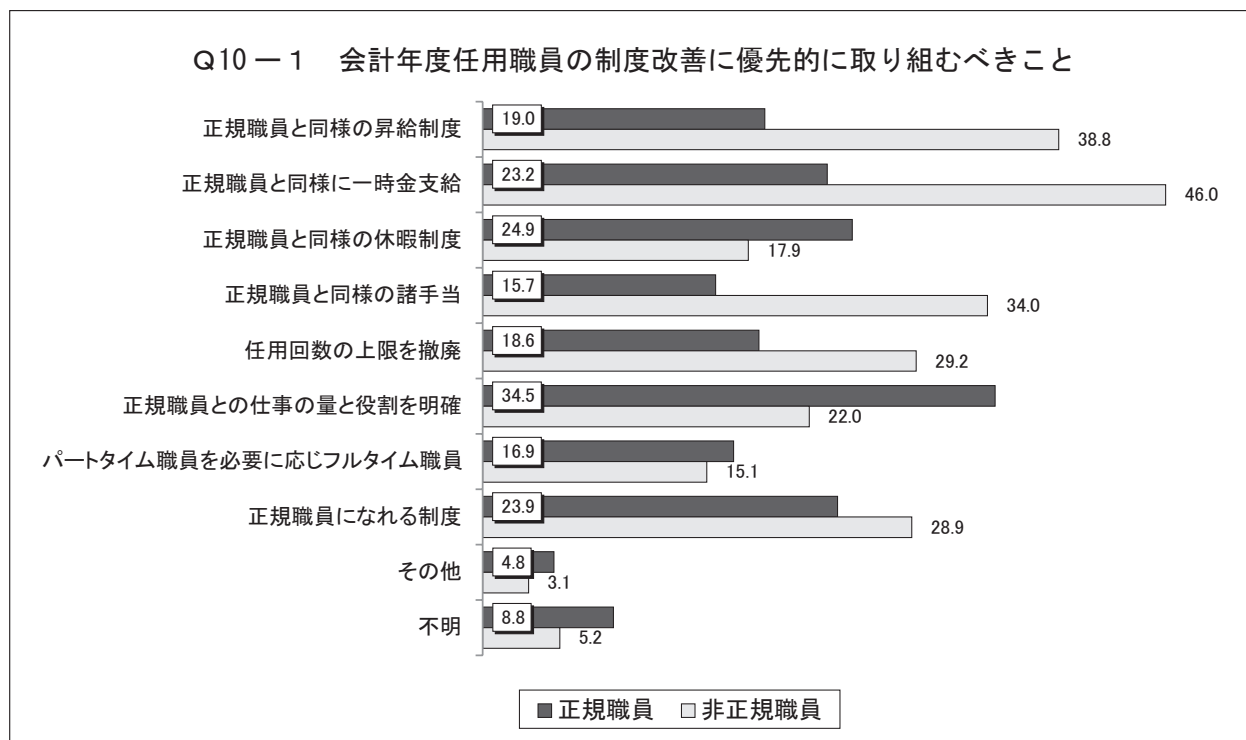
Q10. 会計年度任用職員の処遇改善と制度拡充—当事者は賃金課題が優先課題だが、正規職員は「仕事量と役割の明確化」が優先課題

Q10. 会計年度任用職員制度がスタートして1年半以上が経過しましたが、各自治体によって賃金労働条件に違いがあるのが現状です。今後も制度改善をしていくためにあなたは何を優先的に取り組むべきと考えますか。以下から「3つ以内」で選んでください。

- ①正規職員と同等の昇給制度にすべき (20.4%)
- ②正規職員と同様に一時金（期末・勤勉手当）を支給すべき (24.9%)
- ③正規職員と同様の休暇制度にすべき (24.6%)
- ④正規職員と同様の諸手当にすべき (17.0%)
- ⑤任用回数の上限を撤廃すべき (19.0%)
- ⑥正規職員との仕事の量と役割を明確にすべき (33.4%)
- ⑦パートタイム（短時間）職員を、必要に応じフルタイムにすべき (16.6%)
- ⑧経験年数や本人の希望により会計年度職員が正規職員になれる制度を設けるべき (23.9%)
- ⑨その他 (4.7%)
- ⑩不明 (8.7%)

2020年4月から導入された会計年度任用職員制度については、ここ数年少しずつ回答選択肢を精査しながら、「制度改善に取り組むべきこと」を聞いてきた。そのなかで明らかになったのは、正規職員と非正規職員で回答選択に大きな違いがあるということであった。

今回調査は回答選択肢に⑧「正規職員になれる制度を設けるべき」を設けるなど、さらに精査した上で、改めて調査を実施した。



まず、この設問に対する回答は「3つまで」選択できるのだが、Q10－1を見てもわかるとおり、非正規職員の回答割合が正規職員よりも多く、関心度の違いがうかがえた（回答対象者×3回答を100%として、非正規職員は78.4%なのに対し、正規職員は61.5%）。

その上で、正規職員と非正規職員の回答を優先順位の高い順から並べると（以下の表）、非正規職員は「一時金（期末・勤勉手当）」「昇給制度」「諸手当」の賃金課題が最優先となっているのに対して、正規職員は「仕事量と役割を明確化」で、前年調査同様に考え方の違いが浮き彫りになった。

	1位	2位	3位	4位	5位
正 規 職 員	仕事量・役割明確化 (34.5%)	休暇制度 (24.9%)	正規職員登用制度 (23.9%)	一時金 (23.2%)	昇給制度 (19%)
非正規職員	一時金 (46%)	昇給制度 (38.8%)	諸手当 (34.0%)	任用回数上限撤廃 (29.2%)	正規職員登用制度 (28.9%)

回答選択肢「その他」に書かれたコメントをみても、前年同様、正規職員は「正規職員の増員」や「(まずは) 正規職員の賃金・労働条件改善」を求めていることがうかがわれるとともに、回答の1位であるように会計年度任用職員とは「仕事量や役割（責任）」、「採用方法（任用試験）」の違いから、賃金格差はあって然るべきという意見が寄せられている。

また、正規職員の23.9%（3位）が「正規職員になれる制度を設けるべき」と回答しているのだが、上記のコメントを踏まえると、正規職員との均等・均衡で会計年度職員の賃金・労働条件を引き上げようとするならば、「正規職員」になるべきだという意味合いも含まれているのだろうと推察できる。

一方、非正規職員（会計年度任用職員）の立場からは、「正規職員と変わらない業務内容なのに賃金に大きな差がある」というコメントも少なからずあった。

また、非正規職員が「正規職員になれる制度を設けるべき」という回答を選択する割合は28.9%の5位に止まり、「任用回数の上限撤廃」がほぼ同じ割合だが29.2%の4位で、全体としては必ずしも正規職員化は優先事項ではないという実態も浮かび上がった。ただし、Q2で見たように、「非正規職員」のいまだ58.1%もの人が生活実感を「苦しい」としており、賃金改善が最優先となるのは率直な思いだろう。

こうした正規職員と非正規職員（会計年度任用職員）の率直な意見を踏まえると、会計年度任用職員の制度改善にむけては、まず、慢性的な人員不足の解消を正規職員での人員増員によって実現することや、正規職員の賃金改善を併せて進めていく必要があることが、改めて確認される結果になったと言えよう。

その上で、会計年度任用職員の働き方の実態とあり方について、同一労働同一賃金という視点から、再度、各職場段階で検証し（もちろん、同一労働にあれば同一の賃金が支払われるべきであり、その雇用形態も正規職員であるべき）、会計年度任用職員の賃金や雇用がどうあるべきなのかということを、正規職員と非正規職員（会計年度任用職員）との間に意見の違いがあるという現実を受け止めて、互いに話し合うことが求められるだろう。

その際、職場内の格差や分断は、労働者全体の労働条件向上にはつながらず、逆に処遇引き下げの圧力として使われてきたことを踏まえ、春闘の意義である労働者全体の賃金・処遇を底上げしていくという視点を持って取り組んでいくことが必要だ。

自治労北海道本部「2022国民春闘アンケート」によせて

釧路短期大学教授 杉 本 龍 紀

1. “シュントウ”って中国語ですか？－消えゆく「春闘」

自治労北海道本部が長年にわたって取り組んでいる国民春闘アンケート調査の結果に、はじめにコメントを書かせていただいたのは「2003国民春闘アンケート」だった。この小稿は20回目となる。これまでずいぶんと駄文を書き連ねてきたと忸怩たる気持ちになりながら集計結果をチェックしていると、この調査は「春闘」という日本の労働者たちによる、世界的にも希有で、半世紀を超える闘いの方針に関わるものだという事に改めて想いが至り、そこから離れられなくなった。

学生たちへの講義に、近年の経済状態・経済政策と労働経済の動向に係る事項を盛り込んでいる。普段からあまり聴いてはもらえないのだが、「春闘」などという彼ら彼女らには聞き慣れない言葉を発すると、疑問符付きの怪訝な表情に出会うことができる。学生たちには「春闘」は“シュントウ”という外国語に聞こえるらしく、“シュントウ”って中国語ですか？と真顔で質問されたりもする。

もちろんそれは19・20歳の若者たちだけではない。「ストライキ」「スト権スト」「順法闘争（遵法闘争）」などの恐ろしげな？言葉たちも含めて、死語になっている。いや、死語になったのではなく、言葉によって認識する事象（春闘、ストライキ……）そのものが小さくなり希薄化しつつあるゆえに、「春闘」「ストライキ」といった言葉が存する基盤を失う危機に直面しているのだ。むしろ、労使の対立や争いが消滅したのではなく、個別化・内部化・潜在化あるいは柔化し、外部からは不可視な状態が形成されてきたことが背景にあると考えるべきなのだが、言葉が消滅の危機にあるほどまでに認識対象である事象が不可視化すると、個別化・内部化・潜在化したものをあぶり出して可視化し、その基盤を再建するのは容易ではない。おそらくは同じ形では再建されないのだろうと感じている。

さて「春闘」である。手元にある1972年発行の某国語辞典で「春闘（春季闘争）」を引くと、「春に行う賃上げのための闘争」、さらに「闘争」は「賃上げ・人員整理反対などのために、労働組合が使用者などと争うこと」だと説明される。“賃上げをめぐる労働組合と使用者などの春の争い”が「春闘」であり、賃金引き上げを求めストライキを含む争議行為も辞さない労働組合の闘いは、様々な毀誉褒貶があったものの年中行事の一つとして認識されていたと考えられる。

この辞典の出版から半世紀が経過し、様相は大きく変わった。図表1に1972年からほぼ10年ごとの争議行為の件数や参加人数を示した。

図表1 争議行為の推移

年	争議合計		争議行為を伴わない争議		争議行為を伴う争議		半日以上ストライキ			半日未満ストライキ	
	件数	総参加人員	件数	総参加人員	件数	行為参加人員	件数	行為参加人員	労働損失日数	件数	行為参加人員
1972	5,808	9,630,133	812	3,250,652	4,996	2,656,666	2,489	1,542,754	5,074,438	3,531	1,553,352
1982	7,477	5,356,949	698	1,187,629	6,779	2,385,675	941	215,563	535,125	6,171	2,234,962
1992	1,138	1,655,693	350	831,768	788	409,947	261	109,268	227,196	640	317,135
2002	1,002	1,004,833	698	844,745	304	65,892	74	7,015	12,262	253	60,004
2012	596	125,992	517	75,802	79	12,361	38	1,233	3,839	52	11,284
2020	303	57,426	246	24,990	57	6,013	35	806	1,817	34	5,324

2020年の争議件数は1972年のわずか5.2%になり、同じ期間で参加人数も0.6%へと激減した。ストライキを主とする争議行為を伴う争議件数は1.1%、参加人数は0.2%、うち半日以上ストライキ件数：1.4%、参加人数：0.1%、半日未満ストライキ件数：1.0%、参加人数：0.3%と

なった。半日以上のストライキによる労働損失日数（ストライキによって業務が行われなかった合計時間を労働日数に換算したもの）は、2020年ではわずか1817日である。1人が1日のストライキをしたと仮定すると、全国合計でもわずか1817人が参加した計算になる。もはや労使の「争い」の存在を外部者が認識することは困難だろう。

なお、2020年の争議件数計303件のうち、最も多いのは賃金に関するもの154件で（総件数の50.8%）、次いで経営・雇用・人事が74件（24.4%）だが、そのうちの41件は解雇反対などによるものだった。少ないながらも賃上げや人員削減を争点とする争議は起こっている。また、同年に行われた民営企業での争議行為を伴う争議について企業規模別では1000人以上での争議が28件、300～999人では27件、100～299人は45件、99人以下が28件と、中小企業での争議が多い。主な労働団体別では連合がわずか5件（半日以上のストライキ1件）、全労連が35件（同22件）、全労協が5件（同3件）、それらに加盟していない労組が12件と、産別・単組数、組合員数が圧倒的に多い連合加盟組合での争議行為を伴う争議はゼロに限りなく近い。労使間の「争い」は不可視状態になってきた。

その背景などはここで述べるものではないが、かような変化を受けてか、「春闘」＝賃金をはじめとする労働条件に係る労使交渉、と説明されるようになった。

たとえば政府（厚労省）は、「各企業等の労働組合は、全国中央組織の労働団体や産業別組織の指導・調整のもとに、毎年春に賃金引き上げ等を中心とする要求を各企業等に提出し、団体交渉を行います。これを一般に『春闘』呼んでいます」と、労働者側の連合は「連合では『春季生活闘争』を正式名称としています。多くの企業にとって新年度となる4月に向けて、労働組合が労働条件について要求し、使用者（経営者）と交渉し決定することをいいます」と説明している。使用者（経営者）側は、かねてより「春季労使交渉」との呼称を用いてきたが、直近には連合の「春季生活闘争」の「闘争」を批判しながら、「春闘」という言葉自体を見直して「春季労使『交渉・協議』」とすべきと主張している。

政府や経営側の説明等から見えるのは、賃金制度や水準の決定は闘争・争いを通してなされるものではなく、「交渉・協議」によるという考えである。それは、春闘とは「毎年春に各産業の労働組合が経営側に対し、一斉に賃上げ（ベアや定期昇給など）や労働条件の改善を要求する運動」であるとする自治労本部の説明から「運動」を取り除くものである。

1997年から2001年まで連合の会長を担った鷲尾悦也氏（鉄鋼労連出身、故人）は、会長退任後、春闘の役割について「組合が『内需拡大のために賃上げ』と言い出してから、本来の『生活が苦しい。だから賃上げしてくれ』といった要求の素朴さが失われ、企業の経営論理の中の経済論争になった」と語ったという。生活のための賃上げ要求こそが春闘であり、企業経営や経済状況について認識を共有するために協議するものではないとの思いだろう。氏はまた、「春闘が持つ社会的横断的な賃率形成という役割は、未だ破綻していない」と、春闘を通じて社会的賃金水準を形成・改善すべきことを主張している。

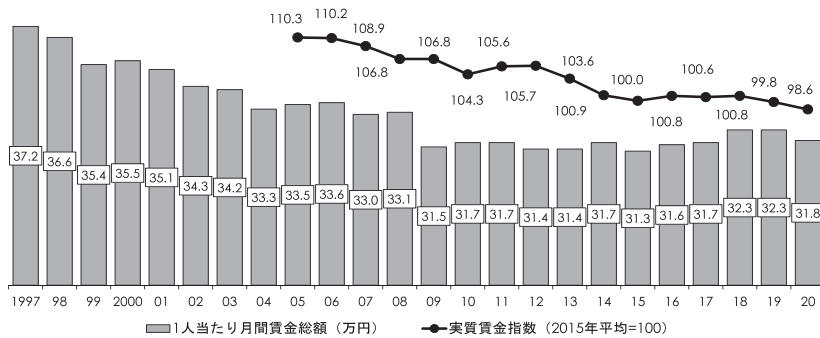
それは、生活のための賃上げを要求・実現し、それらを個別の産業・企業等のレベルでとどめるのではなく、社会的賃金水準として拡張していくのが春闘の主眼なのだとすることを意味する。賃金のまっとうな社会的規準を形成し波及させることである。残念ながら、産別の賃金水準決定が次第に退けられ、企業別のそれへと後退させられてきた、あるいは後退してきたが、改めて生活状況・生活感覚を踏まえた賃金要求と実現の運動、その社会的拡張への意思確認が必要だと感じている。

2. 賃金をめぐるマクロ状況

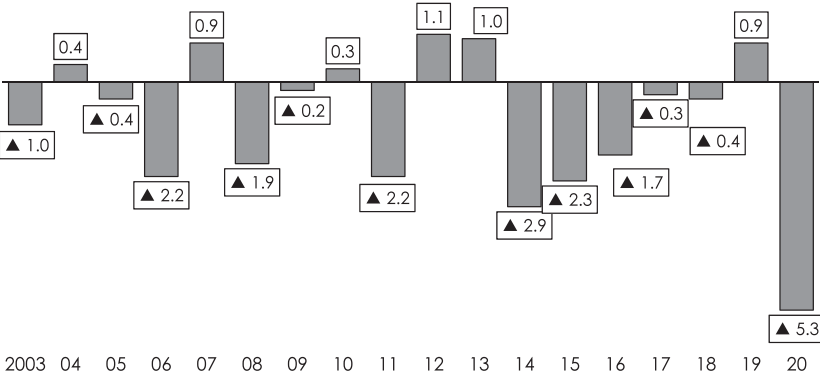
周知のように、日本の労働者の賃金は、ほぼ四半世紀前から、多少の上下はあるものの傾向的に

減少し続けている。実質賃金も同じく、上下しながら低下を続けている(図表2)。この20年近くの間で、労働者世帯をはじめとする家計の消費支出が増えた年は1/3程度に過ぎないとともに増加率も低く、他の2/3の年は消費支出を減らしながら生活してきた(図表3：2020年はコロナ禍による急減)。いささか乱暴ではあるが、総体としてこの国の労働者は、生活水準の傾向的低下に個別的に対応しながら、春闘が「労使交渉・協議」の場へと変わっていくなか、争議行為はもとより争議さえも起こせずに生きざるを得なかったのだ。

図表2 賃金(1人当たり月間現金給与額一賞与等含む)と実質賃金の推移



図表3 実質消費支出・対前年増減率の推移(2人以上世帯、%)

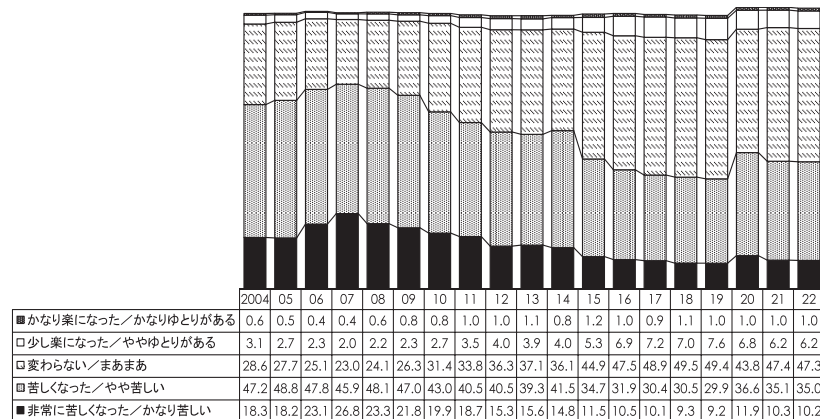


3. 北海道の地方公務労働者たちの生活変化意識と生活実感

このような時期に、北海道の地方公務労働者は自らの生活をどのように感じていたのかを図表4で見てみよう(以下の文章及び図表で示す2012などの年表記は、アンケート実施年ではなくアンケートの結果の活用が想定されている調査翌年を意味する。たとえば2022調査とする場合は2021年実施の調査結果である。なお、前項までの文章及び図表で用いた年表記はそれぞれの統計調査が対象とした年を示す)。

図表4のうち、2004～2019調査の結果は「2～3年前と比べた生活の変化」、つまり、以前と比較した相対的な生活状況を問うた設問の回答状況を、2020～2022調査の結果は「今の生活実感」、つまり、調査時点の(絶対的な)生活実感を問うている。回答の選択肢も異なることもあって、本来、こ

図表4 生活変化意識・生活実感の推移

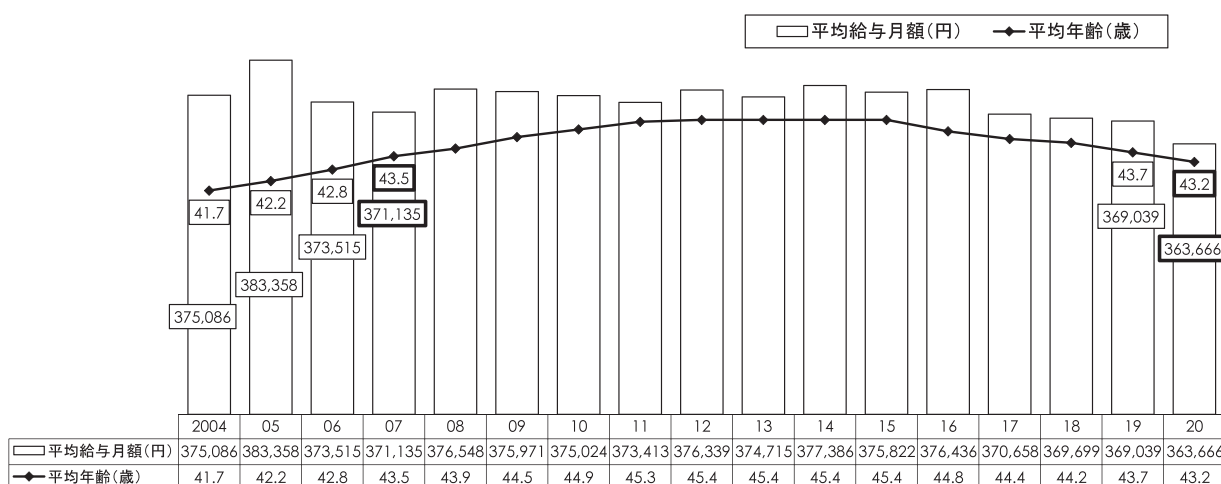


れらを同じ意味を持つデータとして扱うわけにはいかないが、同時に二つの間が設けられていた2016～2019調査の回答の傾向は極めて類似しているため、あわせて作図した。また、ここで示される期間のうち、2016調査(調査そのものは2015年)までは、多くの自治体で、ときには10%にも達した削減率を変えながらもいわゆる独自削減が実施されていた。2015年度末をもって道職員などの独自削減が終了したので、その影響がある場合は2017調査以降に表れただろう。

回答状況はいささか特異である。「2～3年前に比べて生活が苦しくなった」と答えた割合は2007調査で最大となり、その後は2019調査まで傾向的に低下し、設問が異なる2020調査で「苦しい」とする割合が上昇した後、若干減少した。代わって上昇したのが、「変わらない」「まあまあ」といった中位的回答の割合である。2007調査（2006年実施）あたりにピークを迎えた独自削減が、その後、削減率の縮小から削減の終了へと向かうなかで、賃金面での改善（減少幅の縮小とそれによる定期昇給を含む賃金引き上げ）が進み、「苦しくなった」「苦しい」といった回答比率が減り、中位的回答へと移動したのだろうか。

だが、図表5はそのような推論を必ずしも許容しない。一般行政職の道職員に絞って各年の平均年齢と月額平均給与額を示したこの図から、平均年齢が43.2歳だった2020調査での月平均給与額は、平均年齢が0.3歳程度しか変わらない2007年調査での額よりも7千5百円程度少ないこと、それよりさかのぼるほど金額差は拡大し、2004年調査では2020調査より平均年齢が1.5歳低い、平均給与は2020調査より1万1千円以上多いことがわかる。もちろん、初任給や勤続年数等の労働者構成は時期によって異なるため、平均年齢と平均給与額が比例的に変化するとは言えないが、それでもなお、とりわけ2000年代に入ってから進んだ民間企業の賃金減をうけた公務労働者の賃金抑制あるいは減少に加えて独自削減の強化が進み、その後の独自削減終了とわずかな回復によっても、15年ほど前の給与額に戻るどころか、それを下回ったままで、直近ではその差が広がってさえいると見なすことはできよう。

図表5 北海道職員（一般行政職）の月額平均給与と平均年齢各年4月1日現在



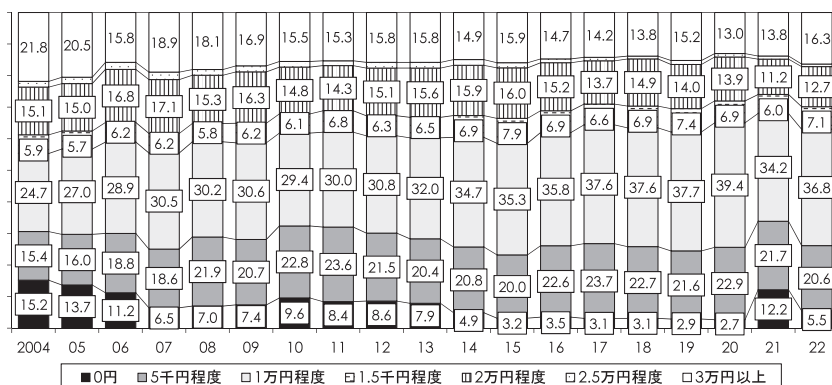
この間、デフレが進んだ時期があったものの、実質賃金の低下とともに家計支出の減少もあった。一般論としては、賃金引き上げ要求が高まる時期でもあった。生活変化意識・生活実感の動向はそれとは異なっている。次に、生活変化意識・生活実感と「春闘」での要求額の動向をみることにする。

4. 春闘要求額と生活変化意識・生活実感の動向

春闘での要求額の動向について図表6をご覧ください。

前項で示したように、2004調査以降、生活変化意識・生活実感に関して、「苦しくなった」「苦しい」と

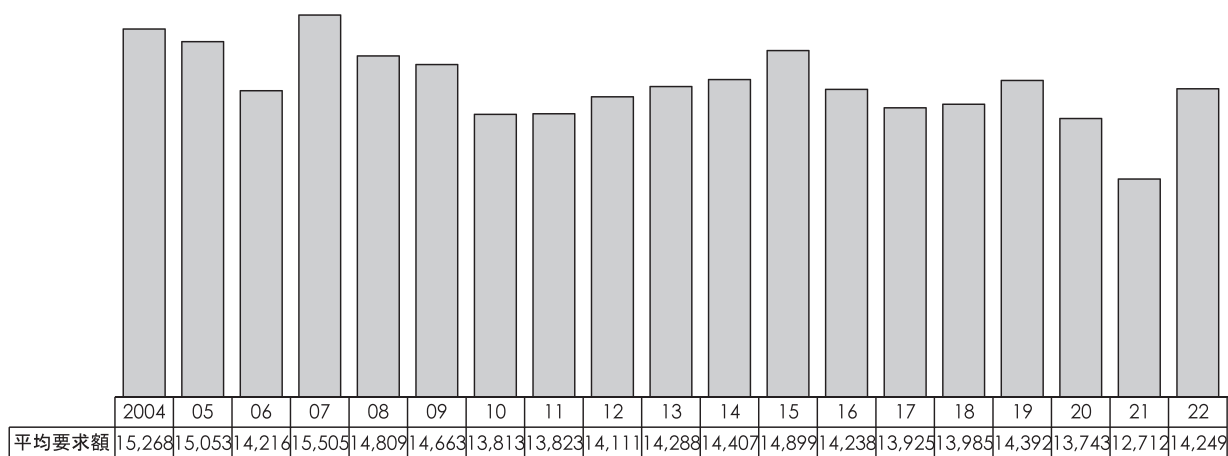
図表6 賃金引き上げ要求額の推移



する回答割合の傾向的な減少とともに、生活が「楽になった」「ゆとりがある」場合に選択されやすいと考えられる要求額を0円とする割合もまた減少を続けた（2001調査では急増：コロナ禍による解雇・失業増、賃金減少が進んだ民間労働者への「忖度」なのだろうか）。2万円程度の選択割合は、2017調査以降、低下傾向にある。逆に、選択割合が上昇傾向を見せたのが1万円程度で、大きな変動がないのが5千円程度である。3万円以上の選択割合も2010調査以降、大きな変動はない。

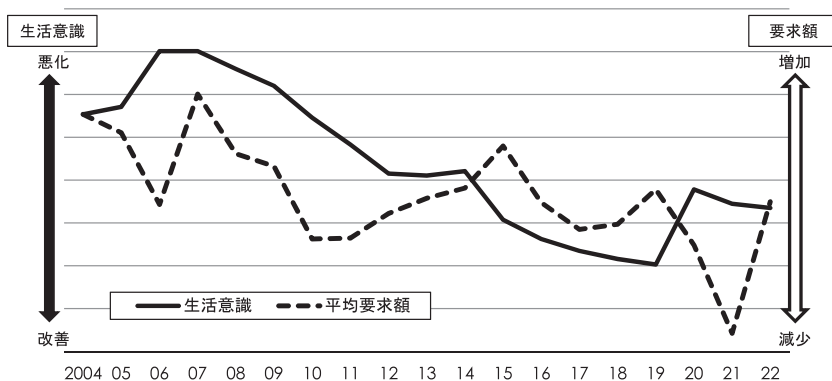
平均要求額によって変化を示したのが図表7である（調査は具体的な賃上げ要求金額を問うものではないが、変化の傾向を見るための便宜的な処理により作成した¹⁾）。2004～2009調査までは、増減が比較的激しいものの高めの要求額だったが、独自削減が強まる2010調査で大きく下がった。その後、2015調査にかけて増加を続けたが、2016調査で再び減少し、以降、コロナ禍での2021調査を除き、大きな増減はない。

図表7 平均要求額の推移



要求額（平均要求額）と生活変化意識・生活実感の変化の関係、総じて生活意識の変化が要求額の変化に影響する程度を図表8で視覚的に示してみた²⁾。生活意識が悪化するほど要求額が増え、改善するほど要求額は減ると仮定して作図した。

図表8 生活意識・平均要求額変化動向の比較



両者の変化は一樣ではない。仮定したような動き、つまり生活意識悪化→要求額増加、生活意識改善→要求額減少という関連が大きな流れとしては見えるが、それとは異なる動きをとった年も少なくない。生活意識が悪化したのに要求額が減少したのが、2006、2005、2020調査である。とくに2006と2020調査では顕著だ。生活意識が改善しているのに要求額が増えたのは、2011-2013、2015、2018-2019、2022調査である。この動きは、2015と2022調査で目立っている。異なる動きを見せた年が、ここで示した期間の半数を超えている³⁾。

賃上げ要求額は、生活意識（生活の変化、生活実感）という個々の家計状態についての判断を大きな基盤としながらも、ときには社会状況や民間労働者の賃金動向を感じながら、ときには公務員政策や自らが働く自治体の財政状態をうけた賃金政策を横目で見ながら、あるいはいくばくかのあきらめを感じながら、要求額を複雑に選択していると推察する。

東日本大震災発生年に実施された2010年調査と、コロナ禍が始まった年の2021調査の要求額の激減は、その証左の一つだと思う。また、独自削減が強まった時期には要求額が増加する傾向があるものの、その程度は必ずしも大きくはなく、独自削減が終わり始めた時期以降は、それによる不利益の回復を強く求めるような動きにはなっていないと考えられる。それでもなお、「怒り」が込められたような年もある。たとえば、独自削減が強まった年の要求額の増加あるいは減少からの反転がそう見える。

5. “シュントウ”を「春闘」に

近年の賃上げ要求は、かつて鷺尾悦也氏が語った「本来の『生活が苦しい。だから賃上げしてくれ』といった要求」を基盤としつつ、社会状況や民間労働者の処遇などの問題を意識的または無意識に勘案しながら判断されたものだと思う。生活意識と要求額の関連が弱いことが、かような推定をもたらす。これには、長きにわたって展開された公務員バッシングが影響した可能性があるだろう。民間労働者との対比が求められてきたからだ。自治体の財務状態が賃金決定に強い影響を与えざるを得ないことも、独自削減などの形で強制的に認識させられてきたことも大きく作用しただろう。社会全体を、地域状況を、民間職場を想起して、自らの要求額を判断する傾向が生まれてきたのだと思う。しかし、北海道の地方公務員の賃金動向は、もはや特別の状態ではないし、民間労働者と同じく長きにわたって減少または抑制が続き、現実的な生活状態はけっして改善できていないだろう。

集团的行為によって賃上げ実現を求める「春闘」、改善した賃金水準を社会的に拡張し、社会的水準へと押し上げていく「春闘」は、生活改善が頓挫し、賃金水準決定が個別的なものにとどまってきた近年だからこそ、改めて問われるべきことと思う。春季生活闘争と呼称するとしても、支柱は賃上げであるし、そのことを強く意識しなければならない。生活改善のための賃金要求とその実現への取り組み、ときには「争い」「闘い」を再構想すべきだと思う。賃金を含めた地方公務員の労働条件を地域的規準として、地域社会に拡張する取り組みも再構想するべきと考える。道職員、市町村職員の賃金決定方法と水準を直接または間接的に用いている職場は、意外なほど多い。その多くは、地方公務労働者の賃金切り下げがあればそれに追随した上で、さらなる切り下げを上乗せしている。地方公務労働者の踏ん張りが、地域の労働者の助けとなる。

外国語とさえ受け止められるようになってしまった“シュントウ”を再び「春闘」にするためにも、皆さんの「春闘」に期待する。

-
- 1) 「0円選択は0円のままとし、「5千円程度」選択：5千円要求、「1万円程度」：1万円要求などとみなし、「3万円以上」選択はすべて3万5千円要求として、それぞれのみなし要求額に当該選択肢の選択者数を乗じて、その合計から1人あたりの平均要求額を算出した。
 - 2) 「平均要求額」は図表7のデータを用い、「生活意識」は図表4のデータをスコア化して用いた。「非常に苦しくなった／かなり苦しい」10点、「苦しくなった／やや苦しい」8点、……「かなり楽になった／かなりゆとりがある」2点とし、それらに各選択肢の選択数を乗じ、その合計を平均化した。また、二つのデータの動きを見やすくするために、起点（2004調査）が同じくなるよう調整した。
 - 3) 二つのデータの動きの関連性の強弱を示す相関係数は0.456である。生活意識の改善には要求額の減少が、生活意識の悪化には要求額の増加が対応するという関係があるが、その程度は強くはないことになる。逆の関係などの異なる対応関係も色濃く存在しているのだ。

2022国民春闘アンケート調査結果

設 問	分 類 項 目	道 本 部 全 体	年 齢 別										性 別				
			19	20	25	30	35	40	45	50	55	60	女 (配 偶 者 な し) 性	男 (配 偶 者 な し) 性	女 (配 偶 者 あ り) 性	男 (配 偶 者 あ り) 性	選 ば な い
< F 1 > あなたの年齢は	① ～19歳	1.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1.7	3.2	0.3	—	—
	②20～24歳	9.9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	19.3	20.3	1.2	1.1	7.7
	③25～29歳	14.7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	18.9	25.9	8.8	7.2	7.7
	④30～34歳	11.7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	10.7	11.9	10.2	13.1	7.7
	⑤35～39歳	10.4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	6.1	7.9	13.6	13.2	15.4
	⑥40～44歳	12.9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	8.2	7.2	17.4	17.6	3.8
	⑦45～49歳	15.4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	11.6	10.3	19.5	19.1	26.9
	⑧50～54歳	11.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	11.2	6.5	12.5	13.4	15.4
	⑨55～59歳	8.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	8.6	5.0	12.2	9.0	11.5
	⑩60歳以上	4.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3.7	1.8	4.0	6.4	—
	⑪N・A	0.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.1	—	3.8
< F 2 > あなたの性別は	①女性(配偶者なし)	22.0	30.4	42.9	28.4	20.1	12.9	13.9	16.6	22.2	22.3	19.4	—	—	—	—	—
	②男性(配偶者なし)	24.6	65.2	50.6	43.4	25.0	18.7	13.8	16.5	14.5	14.3	10.3	—	—	—	—	—
	③女性(配偶者あり)	18.2	4.3	2.3	10.9	15.9	23.7	24.6	23.1	20.6	26.0	17.4	—	—	—	—	—
	④男性(配偶者あり)	34.6	—	3.7	17.1	38.7	44.0	47.4	42.9	41.9	36.7	52.5	—	—	—	—	—
	⑤選ばない	0.5	—	0.4	0.2	0.3	0.7	0.1	0.8	0.6	0.6	—	—	—	—	—	—
	⑥N・A	0.1	—	0.2	—	—	—	0.1	0.1	0.2	—	0.4	—	—	—	—	—
< F 3 > あなたの扶養家族は	①0人(独身者含む)	59.4	91.3	95.2	87.2	63.7	47.7	38.4	43.1	44.6	59.0	50.4	84.4	90.8	67.0	17.2	61.5
	②1人	15.0	1.4	2.8	6.9	14.4	11.5	15.6	17.3	22.8	23.8	38.4	9.7	5.3	12.8	26.5	15.4
	③2人	13.5	2.9	0.7	4.6	12.6	19.4	20.6	21.3	18.1	10.2	9.5	3.9	2.4	12.5	28.1	3.8
	④3人	8.2	1.4	0.4	0.9	7.1	15.4	15.6	12.8	10.4	3.9	1.7	1.0	1.0	4.5	19.7	15.4
	⑤4人	3.0	2.9	0.7	0.4	1.6	4.7	7.6	4.4	3.3	1.8	—	0.6	0.5	1.8	7.0	—
	⑥5人	0.7	—	—	—	0.1	1.3	2.3	1.1	0.3	0.6	—	0.2	—	1.1	1.3	3.8
	⑦6人以上	0.1	—	0.2	—	0.3	—	—	—	0.2	0.4	—	0.1	—	0.3	0.1	—
	⑧N・A	0.1	—	—	—	—	—	—	—	0.3	0.2	—	0.1	—	—	0.1	—
< F 4 > あなたの任用・雇用元は	①地方公共団体	93.6	98.6	96.6	96.0	96.7	95.3	90.7	92.3	90.9	92.6	87.6	92.3	95.0	90.8	94.9	96.2
	②独立行政法人	2.7	—	1.1	1.5	1.5	2.0	4.2	2.5	4.9	4.3	4.1	2.9	2.2	3.5	2.5	3.8
	③民間企業および②以外の団体・法人	3.3	1.4	1.6	2.0	1.8	2.7	5.0	4.9	3.9	2.5	8.3	4.1	2.8	5.0	2.5	—
	④N・A	0.3	—	0.7	0.5	—	—	0.1	0.3	0.3	0.6	—	0.6	—	0.7	0.1	—
< F 5 > あなたの任用・雇用形態は	①正規職員	92.4	100.0	99.5	99.1	97.9	96.5	95.3	95.1	92.1	86.7	19.0	89.6	97.4	86.1	94.1	84.6
	②再任用(再雇用)職員	2.5	—	0.2	0.1	0.4	0.2	0.1	—	—	—	56.2	0.9	1.3	1.6	4.8	3.8
	③非正規職員(会計年度、任期付、臨時、嘱託職員など)	5.1	—	0.4	0.8	1.6	3.3	4.6	4.9	7.7	13.3	24.8	9.4	1.3	12.3	1.1	11.5
	④N・A	0.1	—	—	—	—	—	—	—	0.2	—	—	0.1	—	—	—	—

自治労北海道本部

扶養家族数別							任用・雇用元			任用・雇用形態			家計収入			職 種 別													
0 人	1 人	2 人	3 人	4 人	5 人	6以 上人	地共 方団 公体	独 立 法 人	民 間 企 業 お よ び 団 体 法 人	正 職 規 員	再 職 任 用 員	非 職 正 規 員	自 入 己 の 収 み	共 働 き	そ の 他	事 一 務 般 系 職	技 一 術 般 系 職	技 能 ・ 職	保 健 系 職	福 祉 系 職	医 療 系 職	医 療 系 職	研 究 職	海 事 職	そ の 他				
1.8	0.1	0.3	0.2	1.2	—	—	1.3	—	0.5	1.3	—	—	1.7	0.2	4.0	1.7	1.9	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
15.8	1.9	0.5	0.4	2.3	—	16.7	10.2	3.8	4.7	10.6	0.7	0.7	15.2	1.6	20.7	11.1	8.2	3.7	3.1	10.2	13.1	8.0	2.3	—	5.3				
21.6	6.7	5.0	1.7	1.7	—	—	15.1	8.3	8.9	15.7	0.7	2.4	19.5	8.3	17.5	16.6	13.3	1.2	12.6	12.0	13.6	18.5	15.9	14.3	9.3				
12.6	11.2	11.0	10.3	6.4	2.4	33.3	12.1	6.4	6.3	12.4	2.1	3.8	11.6	12.6	6.0	13.0	11.1	4.5	14.5	8.0	6.7	17.8	11.4	—	14.6				
8.4	8.0	15.0	19.7	16.2	19.5	—	10.6	7.7	8.3	10.9	0.7	6.9	8.4	13.7	5.2	10.3	10.2	6.6	10.7	11.4	12.2	13.8	4.5	—	7.3				
8.3	13.3	19.6	24.6	32.4	41.5	—	12.5	19.9	19.3	13.3	0.7	11.7	9.3	18.3	6.0	12.2	13.8	8.2	13.2	18.8	14.0	10.5	15.9	28.6	14.6				
11.2	17.7	24.3	24.1	22.5	24.4	—	15.2	14.1	22.4	15.9	—	14.8	12.7	19.5	11.2	15.3	19.3	12.8	22.6	14.2	14.5	10.5	15.9	14.3	7.9				
8.3	16.8	14.9	14.1	12.1	4.9	16.7	10.7	19.9	13.0	11.0	—	16.8	9.7	12.7	10.3	9.7	11.1	18.9	12.6	10.8	12.9	11.3	20.5	28.6	13.2				
8.4	13.4	6.5	4.1	5.2	7.3	33.3	8.4	13.5	6.3	8.0	—	22.3	7.6	9.0	12.6	6.4	7.5	27.2	8.8	10.5	10.4	6.9	9.1	14.3	16.6				
3.6	10.8	3.0	0.9	—	—	—	3.9	6.4	10.4	0.9	94.4	20.6	4.1	4.0	6.3	3.7	3.5	16.9	1.9	3.7	2.5	2.5	4.5	—	11.3				
—	0.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.7	—	—	—	—	—	—	—	—	0.3	—	—	—	—	—				
31.2	14.2	6.3	2.6	4.6	7.3	16.7	21.7	23.7	27.1	21.3	7.6	40.9	34.1	2.4	51.1	18.2	8.4	11.5	39.6	41.0	47.4	25.8	6.8	—	37.1				
37.6	8.7	4.4	3.0	4.0	—	—	25.0	19.9	20.3	25.9	12.5	6.5	41.4	2.3	33.3	30.4	32.4	20.2	2.5	6.8	4.4	22.2	34.1	35.7	8.6				
20.5	15.5	16.9	10.0	11.0	26.8	50.0	17.6	23.7	27.1	17.0	11.8	44.0	1.6	40.6	7.5	13.0	7.5	9.9	48.4	38.3	42.3	16.4	13.6	—	41.1				
10.1	61.1	72.2	83.5	80.3	63.4	33.3	35.1	32.1	25.5	35.3	66.7	7.2	22.3	54.2	6.6	37.9	51.2	57.2	9.4	13.3	5.7	35.3	43.2	64.3	12.6				
0.5	0.5	0.1	0.9	—	2.4	—	0.5	0.6	—	0.4	0.7	1.0	0.4	0.3	1.4	0.4	0.6	1.2	—	0.6	0.2	0.4	2.3	—	0.7				
0.1	—	—	—	—	—	—	0.1	—	—	0.1	0.7	0.3	0.1	0.1	—	0.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—				
—	—	—	—	—	—	—	59.5	53.2	62.5	59.1	42.4	73.5	70.2	43.0	78.4	60.6	46.8	46.5	76.1	65.4	65.7	63.3	52.3	21.4	70.9				
—	—	—	—	—	—	—	15.0	16.0	15.1	14.2	44.4	16.2	12.5	18.7	12.4	14.3	17.7	28.8	8.2	16.7	13.3	10.9	9.1	35.7	11.9				
—	—	—	—	—	—	—	13.3	17.9	14.1	14.0	11.1	6.2	9.1	20.3	4.9	13.4	16.8	13.6	8.2	9.9	12.2	16.0	20.5	14.3	7.9				
—	—	—	—	—	—	—	8.3	9.6	3.6	8.6	2.1	2.7	5.6	12.2	2.6	8.0	13.0	7.0	6.9	5.2	5.0	6.9	15.9	14.3	5.3				
—	—	—	—	—	—	—	3.0	2.6	3.6	3.2	—	0.3	2.0	4.6	0.9	2.9	4.4	3.3	—	1.9	2.7	2.5	2.3	7.1	4.0				
—	—	—	—	—	—	—	0.7	0.6	0.5	0.7	—	0.7	0.5	1.0	0.6	0.6	1.3	0.8	0.6	0.6	1.1	0.4	—	7.1	—				
—	—	—	—	—	—	—	0.1	—	0.5	0.1	—	0.3	0.1	0.1	—	0.1	—	—	—	0.3	0.2	—	—	—	—				
—	—	—	—	—	—	—	0.1	—	—	0.1	—	—	—	—	0.3	0.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—				
93.7	93.4	92.5	95.3	93.6	95.1	83.3	—	—	—	94.4	88.9	81.4	93.9	93.5	92.5	95.2	97.7	90.9	97.5	86.4	90.6	94.2	9.1	64.3	94.0				
2.4	2.9	3.6	3.2	2.3	2.4	—	—	—	—	2.5	4.9	5.5	2.8	2.8	2.0	1.4	0.9	2.5	1.3	0.6	7.1	3.3	90.9	35.7	—				
3.5	3.4	3.5	1.5	4.0	2.4	16.7	—	—	—	2.8	6.3	12.0	3.0	3.5	5.2	3.3	1.2	6.2	1.3	11.7	1.9	1.8	—	—	6.0				
0.3	0.3	0.4	—	—	—	—	—	—	—	0.3	—	1.0	0.3	0.3	0.3	0.2	0.2	0.4	—	1.2	0.4	0.7	—	—	—				
91.9	87.2	95.6	97.6	99.4	95.1	83.3	93.2	85.3	77.1	—	—	—	94.1	91.9	81.3	93.2	96.4	80.7	98.1	87.0	96.8	97.5	95.5	100.0	52.3				
1.8	7.4	2.1	0.6	—	—	—	2.4	4.5	4.7	—	—	—	2.6	2.3	2.6	2.4	2.7	10.3	1.3	0.9	0.9	2.2	4.5	—	1.3				
6.3	5.4	2.3	1.7	0.6	4.9	16.7	4.4	10.3	18.2	—	—	—	3.3	5.7	16.1	4.4	0.9	9.1	0.6	12.0	2.3	0.4	—	—	46.4				
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—				

設 問 項 目		分 類	道 本 部 全 体	年 齢 別											性 別				
				19	20	25	30	35	40	45	50	55	60	女 (配 偶 者 な し) 性	男 (配 偶 者 な し) 性	女 (配 偶 者 あ り) 性	男 (配 偶 者 あ り) 性	選 ば な い	
< F 6 > あなたの家計収入は	①あなたの収入のみ	52.2	73.9	80.4	69.2	51.9	42.1	37.9	42.9	46.0	46.9	51.2	81.1	87.8	4.6	33.6	50.0		
	②共働き	41.6	5.8	6.9	23.5	44.9	54.8	59.1	52.6	47.9	44.1	39.7	4.5	4.0	92.9	65.2	30.8		
	③その他	6.1	20.3	12.7	7.2	3.1	3.0	2.8	4.4	5.7	9.0	9.1	14.1	8.2	2.5	1.2	19.2		
	④N・A	0.1	—	—	0.1	—	—	0.1	0.1	0.5	—	—	0.3	0.1	—	0.1	—		
< F 7 > あなたの職種は	①事務系一般職	53.8	76.8	60.7	61.0	59.7	53.2	50.9	53.4	46.9	40.4	47.1	44.5	66.4	38.3	58.9	46.2		
	②技術系一般職	15.0	23.2	12.5	13.6	14.3	14.7	16.1	18.8	15.1	13.3	12.4	5.7	19.7	6.2	22.2	19.2		
	③技能・労務職	4.2	—	1.6	0.4	1.6	2.7	2.7	3.5	7.2	13.5	16.9	2.2	3.5	2.3	7.0	11.5		
	④保健系技術職	2.8	—	0.9	2.4	3.4	2.8	2.8	4.1	3.1	2.9	1.2	5.0	0.3	7.4	0.8	—		
	⑤福祉系技術職	5.6	—	5.8	4.6	3.9	6.2	8.3	5.2	5.5	7.0	5.0	10.5	1.6	11.9	2.2	7.7		
	⑥医療系看護職	9.8	—	13.1	9.1	5.7	11.5	10.7	9.3	11.5	12.1	5.8	21.2	1.8	22.9	1.6	3.8		
	⑦医療系技術職	4.8	—	3.9	6.0	7.3	6.4	3.9	3.3	4.9	3.9	2.9	5.6	4.3	4.3	4.9	3.8		
	⑧研究職	0.8	—	0.2	0.8	0.7	0.3	0.9	0.8	1.4	0.8	0.8	0.2	1.1	0.6	1.0	3.8		
	⑨海事職	0.2	—	—	0.2	—	—	0.5	0.2	0.6	0.4	—	—	0.4	—	0.5	—		
	⑩その他	2.6	—	1.4	1.7	3.3	1.8	3.0	1.4	3.1	5.1	7.0	4.4	0.9	5.9	1.0	3.8		
	⑪N・A	0.3	—	—	0.1	0.1	0.3	0.1	0.1	0.5	0.6	0.8	0.5	0.1	0.2	0.2	—		
< Q 1 >新型コロナ ウイルス感染症 の影響について	①賃金・諸手当の減少	34.9	37.7	50.3	49.6	41.4	32.1	25.8	26.9	29.4	28.9	20.2	29.9	44.7	23.0	37.3	46.2		
	②休業・解雇(雇い止め)	3.2	4.3	1.8	2.5	1.5	2.0	3.9	3.3	4.3	5.5	6.6	4.0	2.8	3.6	2.8	7.7		
	③感染予防や感染者発生時の対応など衛生管理	51.8	31.9	38.4	45.0	51.2	51.0	54.1	54.8	61.4	62.3	52.1	60.5	38.6	65.5	48.8	42.3		
	< Q 1 > (1) ④出勤時間や人との接触抑制などに伴う自身の仕事のやりくり(調整)	27.4	14.5	19.0	22.7	22.8	31.9	31.1	32.1	31.5	28.7	26.4	26.6	23.6	32.8	27.7	30.8		
	⑤業務量の増加	36.4	26.1	31.4	37.8	39.0	39.6	39.9	39.6	39.2	27.0	21.1	36.1	35.2	38.6	36.6	30.8		
	⑥休暇や業務調整に対する職場管理職の対応	15.0	11.6	12.9	12.9	17.3	14.2	14.3	16.7	16.9	16.8	12.4	16.7	13.1	17.7	13.9	19.2		
	⑦在宅勤務・テレワークなどの環境整備	14.0	13.0	12.3	14.7	15.6	11.9	14.7	14.7	16.2	12.3	10.3	9.7	17.2	10.5	16.4	15.4		
	⑧その他	2.0	—	0.7	1.8	1.5	2.2	3.0	2.4	1.9	1.8	3.7	2.1	1.6	2.6	1.8	3.8		
	⑨不安や影響を感じていることは特でない	13.1	34.8	18.3	12.5	10.7	12.2	12.0	12.6	8.0	13.9	22.3	11.6	16.6	8.9	13.7	7.7		
	⑩N・A	0.7	—	0.7	0.2	0.4	0.8	0.3	1.1	0.5	0.8	2.1	0.9	0.8	1.1	0.2	3.8		
< Q 1 > (2) 現在、あなたが新 型コロナ感染症に ついて、生活面で 不安や影響を感じ ていることをそれ ぞれ「3つ以内」 で選んでください	①感染時の医療体制	29.6	24.6	18.3	21.0	25.9	24.9	29.6	32.2	41.9	43.2	40.5	33.9	23.9	32.0	29.8	30.8		
	②ワクチン接種などの感染予防体制	12.1	11.6	9.3	7.8	12.2	10.0	10.3	12.3	15.6	19.1	19.0	10.8	10.6	11.5	14.3	7.7		
	③自身や家族が感染した際の生活維持	42.0	33.3	31.9	34.3	39.4	47.0	48.4	46.9	43.6	44.1	43.4	42.5	30.5	51.6	44.7	50.0		
	④感染対策に伴う生活費の増加	12.1	11.6	14.5	13.2	11.9	12.4	12.6	10.7	11.5	10.0	11.6	11.3	14.0	9.4	12.4	30.8		
	⑤物価の上昇	25.6	17.4	28.7	30.0	25.4	20.7	22.7	25.9	27.4	23.8	25.2	21.8	29.6	21.8	27.4	19.2		
	⑥行動自粛による精神的ストレス	40.4	37.7	44.1	49.5	44.8	43.3	40.1	36.1	34.6	35.2	24.0	46.8	39.8	46.1	33.9	34.6		
	⑦行動制限の解除による感染再拡大への不安	29.3	23.2	26.6	29.9	27.1	28.4	26.4	30.9	31.5	32.6	34.7	35.0	24.1	35.0	26.4	34.6		
	⑧子育て、家事の負担増加	7.0	2.9	1.6	5.5	9.8	15.1	12.0	6.6	4.7	1.8	—	1.7	0.9	12.5	11.8	—		
	⑨ワクチン接種の有無や感染による差別	11.5	13.0	12.9	11.2	12.8	13.5	12.2	11.7	9.6	8.6	9.5	12.4	12.1	10.9	10.7	23.1		
	⑩その他	1.3	—	0.4	0.6	1.5	1.5	1.5	1.9	2.2	1.6	0.4	1.3	1.1	1.6	1.4	—		
	⑪不安や影響を感じていることは特でない	7.8	17.4	13.2	8.8	7.3	6.0	7.8	6.7	4.4	6.6	9.5	5.7	13.0	3.4	7.6	11.5		
	⑫N・A	4.8	2.9	3.5	3.6	5.7	5.4	4.2	4.8	5.7	5.7	7.9	5.4	4.5	4.8	4.8	3.8		

扶養家族数別							任用・雇用元			任用・雇用形態			家計収入			職 種 別												
0人	1人	2人	3人	4人	5人	6人以上	地方公共団体	独立行政法人	民間企業および団体	正職正規員	再職任用員	非職正正規員	自入己の収み	共働き	その他	事務系職	一般系職	技術系職	労務・技能職	保健系職	福祉系職	医療系職	看護系職	技術系職	研究職	海事職	その他	
61.7	43.4	35.1	35.7	34.7	34.1	66.7	52.4	53.2	47.4	53.2	54.9	33.7	—	—	—	53.5	58.4	54.3	39.6	43.8	46.2	53.5	56.8	35.7	37.7			
30.1	51.6	62.7	62.4	63.6	61.0	33.3	41.6	42.3	43.2	41.4	38.9	47.1	—	—	—	39.4	38.4	43.6	56.6	48.5	46.5	43.3	43.2	57.1	50.3			
8.0	5.0	2.2	1.9	1.7	4.9	—	6.0	4.5	9.4	5.3	6.3	19.2	—	—	—	7.0	3.2	2.1	3.8	7.7	7.3	2.9	—	7.1	11.9			
0.2	—	—	—	—	—	—	0.1	—	—	0.1	—	—	—	—	—	0.1	—	—	—	—	—	0.4	—	—	—	—		
54.8	51.2	53.5	52.8	52.6	41.5	66.7	54.7	26.9	53.1	54.3	52.1	46.7	55.1	50.9	62.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
11.8	17.7	18.7	23.9	22.0	26.8	—	15.7	5.1	5.2	15.7	16.0	2.7	16.8	13.9	8.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
3.3	8.1	4.3	3.6	4.6	4.9	—	4.1	3.8	7.8	3.7	17.4	7.6	4.4	4.4	1.4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
3.5	1.5	1.7	2.4	—	2.4	—	2.9	1.3	1.0	2.9	1.4	0.3	2.1	3.8	1.7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
6.2	6.3	4.1	3.6	3.5	4.9	16.7	5.2	1.3	19.8	5.3	2.1	13.4	4.7	6.6	7.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
10.9	8.7	8.9	6.0	8.7	14.6	16.7	9.5	25.6	5.7	10.3	3.5	4.5	8.7	11.0	11.8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
5.1	3.5	5.7	4.1	4.0	2.4	—	4.8	5.8	2.6	5.1	4.2	0.3	4.9	5.0	2.3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
0.7	0.5	1.2	1.5	0.6	—	—	0.1	25.6	—	0.8	1.4	—	0.8	0.8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
0.1	0.6	0.3	0.4	0.6	2.4	—	0.2	3.2	—	0.3	—	—	0.2	0.3	0.3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
3.1	2.1	1.6	1.7	3.5	—	—	2.6	—	4.7	1.5	1.4	24.1	1.9	3.2	5.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
0.4	—	0.1	—	—	—	—	0.2	1.3	—	0.2	0.7	0.3	0.3	0.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
36.0	33.2	32.7	35.7	31.2	26.8	66.7	35.3	29.5	28.6	35.7	24.3	26.1	39.3	30.2	29.9	36.1	38.9	44.0	20.1	23.1	31.5	32.0	40.9	50.0	29.8			
3.3	3.7	2.1	2.8	6.4	—	16.7	3.0	3.2	8.9	2.3	6.3	19.2	3.2	3.3	3.2	2.9	2.9	7.4	1.9	1.9	3.5	1.5	2.3	—	12.6			
51.2	53.5	54.3	50.2	48.0	63.4	33.3	51.4	59.0	57.8	51.6	49.3	56.7	48.9	55.2	53.7	47.5	42.2	56.4	67.3	72.5	65.5	60.0	47.7	71.4	60.3			
25.6	28.4	30.1	33.8	28.3	29.3	16.7	26.8	44.2	29.2	27.7	27.1	22.0	26.3	29.0	25.6	23.6	34.1	23.5	28.9	31.5	36.5	25.1	47.7	35.7	25.2			
36.0	35.9	38.2	36.5	41.0	39.0	16.7	36.7	30.8	34.4	37.7	19.4	21.6	35.8	38.0	31.3	35.8	30.2	19.8	71.7	35.2	53.6	32.0	13.6	—	32.5			
14.9	15.0	14.6	15.6	16.8	26.8	—	15.0	19.2	15.1	15.2	12.5	14.1	14.5	15.8	14.9	12.9	12.8	13.2	13.8	17.6	28.8	18.9	11.4	14.3	13.9			
13.4	15.3	14.2	15.4	15.6	17.1	—	14.1	12.8	15.1	14.4	13.2	8.9	14.5	14.2	9.2	17.1	23.2	2.5	6.9	4.0	1.8	3.3	36.4	28.6	6.0			
2.0	2.0	2.7	1.7	1.2	—	—	2.0	3.2	1.0	1.9	4.9	1.7	1.8	2.2	2.0	1.5	1.9	3.7	5.0	4.3	2.1	1.8	—	7.1	1.3			
13.5	13.5	12.4	10.9	11.6	7.3	16.7	13.1	9.6	15.1	12.7	23.6	14.1	13.6	11.9	16.7	14.7	14.8	15.2	4.4	7.7	6.9	13.5	15.9	7.1	10.6			
0.9	0.3	0.1	0.6	0.6	—	—	0.7	0.6	0.5	0.6	—	2.1	0.7	0.7	0.6	0.3	0.1	2.9	0.6	1.9	0.9	1.1	—	—	2.6			
29.5	32.8	28.8	28.0	27.2	22.0	—	29.0	41.7	40.1	29.2	38.9	33.0	29.2	29.5	34.5	28.8	28.3	32.5	25.2	30.6	35.2	24.0	54.5	57.1	32.5			
11.5	13.8	13.0	10.9	13.3	14.6	—	11.9	16.0	15.1	11.9	21.5	9.6	11.4	12.8	12.6	11.9	12.9	17.7	9.4	13.6	12.4	6.5	15.9	14.3	9.3			
37.7	47.1	49.4	46.6	52.0	61.0	33.3	42.0	39.7	43.8	41.3	41.0	55.7	37.7	47.7	39.9	40.7	39.8	37.4	42.1	46.0	47.4	44.7	45.5	42.9	51.7			
11.1	12.8	14.3	12.0	17.9	12.2	16.7	12.1	10.3	12.5	11.7	12.5	17.9	13.9	10.5	7.2	12.0	14.4	15.2	11.3	8.0	12.7	8.7	6.8	7.1	9.3			
25.5	27.2	24.7	27.4	20.2	24.4	50.0	25.5	23.7	30.2	25.3	28.5	30.9	26.7	24.9	21.8	24.6	27.6	34.2	23.3	26.2	24.6	26.2	27.3	14.3	25.2			
43.2	34.8	37.2	37.8	35.3	36.6	50.0	40.8	35.9	32.3	41.2	25.0	33.0	40.7	40.2	39.9	38.1	34.5	35.0	44.7	46.6	54.3	52.7	34.1	21.4	43.0			
30.8	30.9	26.6	22.4	19.7	43.9	16.7	29.1	34.0	30.7	29.4	33.3	25.8	28.0	30.4	33.6	27.9	24.1	28.0	37.7	34.9	38.9	30.9	22.7	35.7	33.1			
3.2	7.8	13.8	16.7	16.8	17.1	16.7	7.2	4.5	3.6	7.4	—	1.7	3.8	11.8	1.1	6.3	8.6	3.7	11.3	7.4	9.0	5.8	4.5	—	7.3			
11.9	10.5	12.5	9.6	10.4	12.2	16.7	11.6	9.0	12.0	11.6	9.0	12.0	12.1	10.6	12.6	12.5	10.9	10.7	8.8	11.1	8.7	13.1	9.1	7.1	9.9			
1.2	1.5	1.6	1.9	1.2	—	16.7	1.4	0.6	1.0	1.3	0.7	2.1	1.4	1.3	1.1	1.2	1.6	0.8	3.8	0.9	0.9	1.8	—	—	2.6			
8.6	6.6	5.7	7.9	7.5	2.4	16.7	7.8	7.7	7.8	7.8	11.8	5.8	9.1	5.7	10.1	8.9	10.3	4.9	5.0	4.6	2.8	6.9	4.5	7.1	5.3			
4.7	6.0	4.3	4.5	5.8	4.9	—	4.8	5.1	5.2	4.7	6.3	6.5	4.9	4.9	4.3	4.5	4.9	8.2	2.5	5.9	5.0	4.4	4.5	14.3	6.6			

設 問		分 類	道 本 部 全 体	年 齢 別											性 別				
				19	20	25	30	35	40	45	50	55	60	女 (配 偶 者 な し 性)	男 (配 偶 者 な し 性)	女 (配 偶 者 あ り 性)	男 (配 偶 者 あ り 性)	選 ば な い	
＜Q 2＞ あなたの今の生活 実感は、次のどれ に最も近いですか	①かなり苦しい	10.2	4.3	10.4	10.2	6.8	7.5	6.9	10.7	13.4	15.2	17.4	7.4	10.5	5.7	14.0	15.4		
	②やや苦しい	35.0	29.0	29.6	32.7	32.4	31.3	33.6	37.9	41.9	39.1	40.5	29.6	33.8	30.0	41.6	53.8		
	③まあまあだ	47.3	52.2	51.0	49.7	52.7	51.3	51.4	44.0	39.1	40.8	38.8	52.8	47.0	55.4	40.2	23.1		
	④ややゆとりがある	6.2	11.6	7.6	6.5	6.7	7.9	7.4	5.7	4.4	3.9	2.5	8.2	6.8	7.8	3.8	3.8		
	⑤かなりゆとりがある	1.0	1.4	1.2	0.7	1.2	1.7	0.5	1.2	0.6	0.8	0.4	1.5	1.7	0.6	0.4	—		
	⑥N・A	0.3	1.4	0.2	0.1	0.1	0.3	0.1	0.5	0.6	0.2	0.4	0.5	0.1	0.6	0.1	3.8		
＜Q 3＞ 生活・家計の状況 で、特に負担に感 じている費目を、 以下から「3つ以 内」で選んでくだ さい	①食費	30.8	39.1	35.1	30.8	30.4	33.3	34.4	29.0	26.6	24.0	33.5	25.8	32.1	33.7	31.5	30.8		
	②光熱水費	42.1	37.7	27.5	38.0	39.1	41.0	45.2	43.7	50.7	46.9	55.4	42.6	34.2	45.8	45.5	42.3		
	③住宅関係費	31.8	21.7	25.6	35.3	38.5	38.1	29.5	26.2	33.1	32.6	24.0	26.7	26.0	33.4	38.3	19.2		
	④教養・娯楽費	6.5	18.8	12.0	8.9	6.1	6.7	5.3	5.7	4.3	2.7	3.3	6.7	9.8	3.6	5.7	3.8		
	⑤交際費	4.9	10.1	9.9	7.0	5.7	4.0	3.1	3.2	3.5	3.9	2.1	5.7	8.5	2.3	3.2	3.8		
	⑥教育費	16.2	1.4	0.9	0.9	7.4	15.1	26.3	34.6	28.8	16.0	5.0	6.3	2.8	26.8	26.3	15.4		
	⑦被服費	2.0	1.4	4.1	1.9	1.8	2.3	1.8	1.1	0.8	2.3	2.9	2.5	2.1	1.7	1.7	3.8		
	⑧通信費	11.9	21.7	11.5	12.5	9.1	10.7	12.0	13.1	12.9	13.7	8.3	13.5	13.7	10.4	10.6	7.7		
	⑨交通・車両費	22.4	36.2	30.3	25.3	20.7	19.1	21.0	20.8	20.3	20.3	22.3	21.5	28.4	20.7	19.7	19.2		
	⑩医療・介護費	11.5	—	4.8	6.9	6.7	9.7	8.5	11.4	17.2	24.2	33.5	14.9	9.2	12.5	10.5	15.4		
	⑪税金・社会保険料	32.8	23.2	33.2	36.9	41.5	35.8	30.2	26.7	27.6	32.2	34.3	37.8	32.1	31.6	30.8	30.8		
	⑫生命保険や損保の掛け金	12.5	11.6	9.9	10.1	12.9	12.0	12.7	10.5	14.3	17.2	19.4	14.2	10.5	13.8	12.4	3.8		
	⑬奨学金の返済	6.6	1.4	13.8	17.0	11.6	4.3	0.8	1.9	2.0	3.3	1.2	8.6	10.3	4.1	4.1	7.7		
	⑭その他	1.7	1.4	1.8	1.4	1.3	2.2	2.2	2.5	1.1	1.4	0.4	1.6	2.1	1.9	1.3	11.5		
	⑮N・A	2.3	—	2.3	1.4	2.2	2.2	3.2	2.1	2.0	2.3	5.0	2.9	2.8	1.9	1.8	3.8		
＜Q 4＞ 2022春闘での賃上 げ要求について、 あなたは要求額 （定期昇給分を除 いた金額）をいく らにすべきだと思 いますか	①0円	5.4	4.3	3.5	3.9	5.8	7.5	8.8	6.7	3.1	3.9	3.3	4.6	6.6	3.7	5.9	11.5		
	②5千円程度	20.3	14.5	15.0	14.9	18.2	21.6	23.8	25.7	23.9	18.4	20.7	19.8	19.8	21.7	20.3	15.4		
	③1万円程度	36.3	37.7	34.4	38.7	38.7	33.9	36.1	35.0	36.4	40.0	28.9	36.1	35.0	39.7	35.7	19.2		
	④1.5万円程度	7.0	8.7	9.7	9.5	7.3	6.2	6.0	5.5	6.1	5.5	7.4	9.4	6.4	6.8	6.1	11.5		
	⑤2万円程度	12.5	13.0	13.1	13.6	12.1	12.7	11.0	11.0	12.3	15.2	13.6	13.2	12.5	13.1	12.0	3.8		
	⑥2.5万円程度	0.8	—	0.7	1.1	0.7	0.5	0.8	0.6	0.8	1.6	1.2	1.1	0.7	0.7	0.9	—		
	⑦3万円以上	16.0	20.3	22.2	17.3	16.5	16.4	12.6	13.3	15.1	13.5	21.1	13.3	18.3	11.7	18.3	34.6		
	⑧N・A	1.5	1.4	1.4	0.9	0.7	1.2	0.9	2.3	2.2	1.8	3.7	2.5	0.8	2.6	0.9	3.8		

扶養家族数別							任用・雇用元			任用・雇用形態			家計収入			職 種 別												
0人	1人	2人	3人	4人	5人	6人以上	地方公共団体	独立法人	民間企業および団体	正職正規員	再職任用員	非職正正規員	自入己の収み	共働き	その他	事務一般系職	技術一般系職	労働能務・職	保健系職	技術系職	福祉系職	医療系職	看護療養系職	研究職	海事職	その他		
7.7	12.7	13.0	15.6	16.2	22.0	16.7	10.0	10.3	15.6	9.5	20.8	18.6	11.7	8.7	7.8	9.6	13.6	19.3	3.8	9.0	7.3	6.5	—	35.7	17.2			
30.3	37.7	43.2	46.8	44.5	41.5	50.0	34.9	36.5	35.9	34.5	43.1	39.5	35.9	35.0	26.4	34.8	39.7	41.6	25.2	32.4	33.6	27.6	45.5	50.0	28.5			
52.4	44.1	39.7	34.0	37.0	34.1	16.7	47.4	48.1	43.8	48.1	33.3	39.5	45.2	49.0	54.6	47.3	41.3	37.0	58.5	53.4	50.8	57.1	47.7	14.3	47.0			
7.9	4.9	3.5	2.8	1.2	2.4	16.7	6.4	3.2	3.6	6.5	2.1	2.1	5.7	6.4	9.2	7.0	4.8	1.6	10.7	4.6	6.0	6.5	4.5	—	5.3			
1.4	0.1	0.3	0.4	1.2	—	—	0.9	1.9	1.0	1.0	—	0.3	1.2	0.6	2.0	1.0	0.7	—	1.9	0.3	1.2	1.5	2.3	—	1.3			
0.2	0.5	0.4	0.4	—	—	—	0.3	—	—	0.3	0.7	—	0.3	0.3	—	0.2	—	0.4	—	0.3	1.1	0.7	—	—	0.7			
29.2	29.5	31.4	35.0	46.8	53.7	83.3	30.7	32.1	31.3	30.4	37.5	34.0	31.9	30.6	22.7	29.2	32.8	31.7	24.5	30.9	39.6	320	22.7	7.1	25.8			
39.5	47.6	46.8	41.7	47.4	39.0	16.7	41.9	46.2	43.2	41.3	56.9	49.1	41.6	44.2	31.9	40.9	41.3	52.7	43.4	41.0	45.8	41.1	40.9	57.1	39.7			
29.8	37.4	33.6	34.0	30.6	22.0	33.3	32.0	31.4	25.5	32.4	25.7	23.4	29.7	37.1	12.4	31.1	31.1	35.8	33.3	28.1	33.3	39.6	31.8	42.9	28.5			
7.4	4.1	4.7	7.5	6.4	9.8	—	6.8	2.6	1.0	6.8	4.9	2.7	7.2	5.3	8.6	7.1	6.8	3.7	6.9	5.6	6.2	4.4	4.5	7.1	4.6			
6.3	3.0	2.7	1.7	4.6	4.9	—	5.1	2.6	2.1	4.9	2.1	5.5	6.2	2.8	7.5	5.9	5.1	6.2	4.4	2.2	1.9	2.2	2.3	—	4.6			
5.7	16.3	36.4	44.9	43.9	48.8	50.0	16.1	17.3	18.2	16.6	5.6	12.7	8.0	28.1	4.3	14.2	20.9	14.8	23.3	17.3	18.4	14.5	18.2	50.0	13.9			
2.1	1.6	1.6	1.7	3.5	2.4	—	1.9	0.6	3.6	1.9	3.5	1.4	2.2	1.6	2.6	2.1	2.4	1.6	0.6	1.9	1.8	0.7	2.3	—	2.0			
12.5	11.3	10.6	10.9	12.7	12.2	16.7	12.1	7.1	10.9	12.0	8.3	12.0	13.2	10.1	14.1	12.4	13.2	9.1	12.6	11.4	10.4	10.2	9.1	—	10.6			
24.8	19.7	17.3	19.9	18.5	19.5	16.7	22.5	18.6	22.9	22.4	20.1	22.3	23.7	20.2	25.9	23.0	23.2	23.9	22.0	22.8	17.9	17.1	27.3	28.6	24.5			
11.2	16.2	11.1	8.3	6.4	7.3	—	11.3	15.4	13.5	10.5	29.2	21.6	12.1	10.0	16.4	10.3	10.2	20.6	9.4	16.0	11.0	10.5	20.5	35.7	17.9			
35.1	32.6	30.4	27.1	17.9	24.4	16.7	32.5	34.0	41.1	32.5	33.3	38.5	34.0	30.6	38.2	33.3	27.5	32.9	32.1	33.6	35.9	34.2	25.0	28.6	42.4			
12.4	14.6	12.7	12.0	5.8	12.2	16.7	12.6	12.2	10.4	12.1	14.6	18.9	11.7	13.1	15.2	10.8	11.3	17.7	8.8	17.3	18.1	13.5	11.4	7.1	17.2			
8.9	4.9	2.1	3.2	1.2	2.4	—	6.6	5.8	6.8	7.0	1.4	3.1	8.1	4.5	8.3	7.0	5.0	4.5	6.3	9.6	6.4	9.5	9.1	—	2.6			
1.8	1.0	2.3	1.1	2.9	—	—	1.7	1.3	1.6	1.8	1.4	0.7	1.8	1.5	2.0	1.6	1.6	0.8	0.6	1.5	1.9	2.9	2.3	—	3.3			
2.5	2.8	1.4	1.7	1.7	—	—	2.3	1.3	2.1	2.2	4.2	2.4	2.1	2.0	6.0	2.3	2.2	2.1	3.1	2.2	2.1	1.8	2.3	—	5.3			
5.5	5.8	4.3	6.0	6.9	4.9	—	5.5	2.6	5.2	5.6	2.1	3.4	5.4	5.4	5.5	7.2	4.5	2.9	6.3	3.4	1.4	2.2	4.5	7.1	3.3			
21.1	18.6	20.7	19.0	16.8	14.6	—	20.4	15.4	24.5	20.2	22.2	22.7	19.4	21.1	23.0	23.1	18.3	18.1	30.2	17.9	9.9	18.5	29.5	7.1	15.9			
36.2	36.5	36.8	34.8	37.6	39.0	50.0	36.3	38.5	32.3	36.6	29.2	33.0	34.9	38.3	34.2	36.0	34.5	37.4	37.7	36.7	36.1	40.7	36.4	21.4	42.4			
7.8	5.8	4.8	7.7	8.1	—	33.3	7.0	9.0	7.3	7.1	6.3	6.9	7.4	6.6	6.9	6.5	7.0	5.8	6.3	10.2	8.3	9.1	6.8	—	6.6			
12.2	14.4	12.3	11.1	12.7	22.0	—	12.5	14.7	12.0	12.4	15.3	14.1	13.2	11.7	12.4	11.5	12.4	12.3	6.9	13.0	18.1	13.8	9.1	35.7	15.9			
0.7	1.0	1.2	0.6	1.2	—	—	0.8	3.2	0.5	0.9	1.4	—	0.9	0.8	0.9	0.8	0.9	0.8	1.9	0.6	0.5	0.7	—	14.3	—			
14.8	16.4	18.7	19.4	15.6	19.5	16.7	16.0	16.7	17.2	15.9	22.2	15.1	17.3	14.6	15.2	13.5	21.3	21.4	6.9	17.0	23.7	12.7	13.6	7.1	13.9			
1.7	1.5	1.3	1.3	1.2	—	—	1.6	—	1.0	1.4	1.4	4.8	1.4	1.6	2.0	1.4	1.0	1.2	3.8	1.2	1.9	2.2	—	7.1	2.0			

設 問	項 目	分 類	道 本 部 全 体	年 齢 別										性 別				
				19	20	25	30	35	40	45	50	55	60	女 (配 偶 者 な し) 性	男 (配 偶 者 な し) 性	女 (配 偶 者 あ り) 性	男 (配 偶 者 あ り) 性	選 ば な い
				19	20	25	30	35	40	45	50	55	60	女 (配 偶 者 な し) 性	男 (配 偶 者 な し) 性	女 (配 偶 者 あ り) 性	男 (配 偶 者 あ り) 性	選 ば な い
< Q 5 > あなたは、この1 年間で何日くらい 年休を取りました か	① 0 日		0.8	4.3	1.9	1.2	0.6	0.5	0.8	0.9	0.3	0.2	—	0.9	1.4	0.8	0.5	—
	② 1～4 日		16.6	27.5	24.7	19.3	16.4	17.7	15.3	15.8	14.5	9.4	9.5	22.2	20.4	11.6	12.9	23.1
	③ 5～9 日		35.9	42.0	38.3	39.6	38.2	34.9	39.6	34.4	33.5	28.9	26.0	39.1	35.7	39.5	32.4	19.2
	④ 10～12 日		18.6	14.5	15.2	16.4	19.3	18.7	19.8	19.8	19.7	21.3	17.8	16.5	18.3	21.1	19.0	11.5
	⑤ 13～15 日		10.3	10.1	7.8	10.3	9.5	12.0	8.7	10.9	10.4	12.3	13.6	8.2	9.8	10.9	11.6	19.2
	⑥ 16～18 日		7.7	1.4	6.0	5.6	6.8	6.7	7.0	8.5	10.1	11.5	11.2	5.8	6.4	6.7	10.4	15.4
	⑦ 19～20 日		6.5	—	3.4	4.2	4.9	6.9	6.2	7.5	7.2	10.5	14.5	4.7	5.1	6.2	8.7	7.7
	⑧ 21日以上		3.0	—	1.8	3.1	3.6	2.0	2.3	2.1	3.3	5.1	7.4	1.9	2.7	2.5	4.2	—
	⑨ N・A		0.5	—	1.1	0.4	0.6	0.5	0.3	0.1	0.9	0.8	—	0.7	0.3	0.8	0.4	3.8
< Q 6 > 年休を取得できな かった理由を、以 下から「3つ以内」 で選んでください	① 仕事が忙しかったから		33.0	17.4	30.3	35.3	35.1	34.8	37.3	34.7	33.1	27.3	15.7	30.7	35.6	31.1	33.5	30.8
	② 代替要員がいらないから		17.8	2.9	7.6	13.8	20.2	20.9	20.7	23.9	18.9	16.6	14.0	15.4	17.6	17.5	19.8	11.5
	③ 他人に代わってもらえない仕事だから		13.2	2.9	6.5	9.1	14.1	14.4	13.9	17.4	17.3	12.9	11.2	9.4	12.7	10.7	17.1	11.5
	④ 仕事の上で職場、同僚に迷惑をかけるから		21.6	18.8	19.6	20.6	21.7	25.6	20.7	21.9	23.9	18.6	21.9	24.0	19.5	26.2	19.3	11.5
	⑤ 成績（評価）に影響すると思うから		0.5	1.4	0.5	0.4	0.7	1.0	0.3	0.6	0.3	0.8	—	0.4	0.7	0.7	0.4	3.8
	⑥ 職場に年休を取得しづらい雰囲気があるから		7.2	4.3	8.6	9.5	10.4	7.0	6.8	7.2	5.5	3.1	2.9	11.0	7.1	7.3	4.9	7.7
	⑦ 手続きが面倒だから		1.0	4.3	1.8	2.0	0.6	1.3	0.4	0.5	0.3	0.8	0.8	1.1	1.4	0.5	0.9	—
	⑧ 病気や急な用事に備えて残しておきたいから		11.5	17.4	9.5	8.4	12.4	13.2	10.3	10.7	14.5	12.7	15.7	14.9	7.5	15.7	10.1	11.5
	⑨ 上司から取得の許可が下りなかったから		1.0	—	0.9	0.9	1.2	1.0	1.2	0.6	1.4	1.0	0.4	1.8	0.7	1.4	0.4	—
	⑩ 振替・代休を優先して消化しているから		7.3	4.3	6.0	8.2	7.9	6.7	8.1	8.0	6.1	7.2	5.4	10.1	5.2	9.8	5.7	—
	⑪ その他		2.0	2.9	1.4	3.0	1.3	2.2	1.8	2.1	2.2	1.4	1.2	2.1	1.8	2.8	1.4	7.7
	⑫ 取得できなかったことはない		36.4	55.1	45.9	40.8	36.0	36.0	33.4	31.8	30.4	33.8	44.2	31.1	41.0	32.6	38.7	42.3
	⑬ N・A		8.5	4.3	6.0	4.5	7.0	5.5	8.4	8.3	12.3	16.2	15.7	10.1	7.0	9.0	8.0	15.4
< Q 7 > あなたは、この1 年間でどれくらい 超勤をしましたか (未払いを含む)	① まったくしていない		8.1	29.0	10.1	4.4	4.8	5.4	6.2	7.0	8.3	13.5	25.2	9.4	8.0	10.1	6.4	3.8
	② 1～59時間		49.3	50.7	53.1	48.3	44.9	46.8	45.6	51.0	49.9	56.1	51.7	51.2	47.3	57.3	45.3	53.8
	③ 60～119時間		18.9	10.1	16.4	22.4	19.9	19.1	23.5	17.5	18.7	13.9	12.4	18.1	20.8	15.5	19.9	7.7
	④ 120～179時間		8.0	7.2	8.3	9.6	8.8	8.0	8.4	8.4	8.0	5.1	2.9	7.9	8.0	6.2	8.8	15.4
	⑤ 180～239時間		5.2	—	4.1	6.6	7.9	6.0	5.7	4.8	4.6	2.5	2.1	3.6	5.7	4.4	6.3	—
	⑥ 240～359時間		5.2	1.4	3.9	3.9	7.7	7.5	5.0	5.5	5.2	3.7	2.9	3.7	5.7	3.0	6.9	7.7
	⑦ 360時間以上		4.1	—	2.6	3.6	5.4	6.0	4.5	4.8	3.8	2.7	1.7	3.8	3.5	1.7	5.8	7.7
	⑧ N・A		1.3	1.4	1.6	1.2	0.6	1.2	1.1	1.0	1.4	2.5	1.2	2.2	0.9	1.8	0.6	3.8

扶養家族数別							任用・雇用元			任用・雇用形態			家計収入			職 種 別												
0人	1人	2人	3人	4人	5人	6人以上	地方公共団体	独立法人	民間企業および団体	正職正規員	再職任用員	非職正規員	自入己の収み	共働き	その他	事務一般系職	技術一般系職	労務・職能・職	保健技術系職	福祉技術系職	医療看護系職	医療技術系職	研究職	海事職	その他			
1.0	0.7	0.6	0.2	1.2	2.4	—	0.8	0.6	0.5	0.9	—	0.3	1.0	0.6	1.4	0.9	0.5	0.4	0.6	0.9	1.1	0.4	4.5	—	1.3			
19.1	12.4	12.1	14.3	13.9	19.5	33.3	17.2	7.1	7.8	17.1	9.0	12.0	18.9	13.0	21.6	18.6	13.0	6.6	23.9	22.5	13.6	12.4	13.6	7.1	13.9			
37.4	34.1	34.8	29.5	37.6	39.0	16.7	35.7	42.3	38.0	36.4	25.0	31.6	35.5	36.3	37.1	33.8	31.7	17.3	41.5	45.1	49.4	49.8	43.2	21.4	31.1			
17.9	18.6	18.9	21.8	22.5	17.1	16.7	18.4	25.0	20.3	18.4	12.5	26.1	18.0	19.7	16.7	19.0	20.0	13.6	18.9	15.4	19.6	14.2	20.5	21.4	21.2			
9.5	10.9	12.3	12.4	10.4	4.9	16.7	10.4	7.7	8.9	10.2	16.0	10.0	10.0	11.1	7.2	10.4	13.3	14.4	3.8	6.5	7.1	10.2	11.4	14.3	13.2			
6.6	10.0	10.1	8.3	6.9	4.9	16.7	7.6	10.9	8.9	7.4	12.5	10.3	7.1	8.5	7.5	8.0	9.2	14.0	5.7	3.1	3.7	7.3	4.5	35.7	8.6			
5.3	8.4	7.2	10.0	6.4	9.8	—	6.5	5.1	7.8	6.3	15.3	6.2	6.2	7.1	4.9	5.7	9.2	25.5	5.0	3.4	3.0	2.5	2.3	—	7.3			
2.6	4.4	3.9	2.8	1.2	2.4	—	2.9	1.3	6.8	2.9	9.7	2.1	2.7	3.2	3.4	3.0	3.1	7.8	0.6	2.5	1.9	2.5	—	—	2.6			
0.6	0.5	0.1	0.6	—	—	—	0.5	—	1.0	0.5	—	1.4	0.6	0.5	0.3	0.6	0.1	0.4	—	0.6	0.5	0.7	—	—	0.7			
32.3	31.4	35.3	36.8	34.1	41.5	—	33.4	35.9	20.3	34.5	18.8	12.4	33.5	32.4	32.5	33.3	36.7	14.0	59.1	32.4	30.1	26.9	47.7	57.1	26.5			
15.7	19.7	21.4	23.1	19.7	17.1	33.3	17.8	23.1	14.1	18.4	15.3	8.6	17.9	18.6	11.5	15.2	19.4	18.5	17.0	21.6	28.5	17.8	18.2	7.1	16.6			
11.1	13.4	16.8	18.4	19.1	22.0	16.7	13.2	12.8	13.0	13.4	13.9	8.6	12.9	13.9	10.9	12.6	17.1	10.3	16.4	16.0	8.7	12.7	18.2	28.6	13.2			
21.9	22.1	21.6	21.2	17.9	7.3	16.7	21.9	21.8	13.5	21.8	22.2	18.2	21.0	22.7	19.5	20.7	16.4	20.2	22.6	24.7	29.7	27.3	11.4	28.6	25.2			
0.5	0.7	0.6	0.2	1.2	—	—	0.5	0.6	1.6	0.5	—	0.7	0.7	0.3	0.3	0.8	0.2	0.4	—	—	0.2	0.7	—	—	—			
7.9	6.9	5.8	5.1	7.5	4.9	—	7.3	3.8	6.8	7.5	3.5	4.8	8.0	6.2	7.5	4.8	5.3	5.8	5.0	11.1	20.5	14.2	—	—	6.0			
1.2	1.0	0.5	—	1.2	2.4	—	1.0	0.6	0.5	1.0	0.7	1.0	1.3	0.6	1.1	1.1	0.5	1.2	0.6	1.2	0.9	1.5	2.3	—	0.7			
11.3	13.7	11.2	10.5	7.5	17.1	16.7	11.6	11.5	8.9	11.0	13.2	21.0	10.5	12.5	13.5	11.0	9.0	16.9	13.2	13.0	10.8	15.3	18.2	7.1	17.9			
0.9	1.4	1.6	0.2	—	—	—	1.0	—	0.5	1.0	1.4	0.3	0.8	1.0	2.0	0.3	0.5	0.4	0.6	1.2	6.0	0.7	—	—	0.7			
7.5	7.4	5.9	6.4	9.8	7.3	16.7	7.2	12.2	3.6	7.6	5.6	2.4	7.3	7.4	6.6	6.0	3.2	3.3	18.9	10.8	15.9	8.4	11.4	28.6	5.3			
2.1	1.5	1.8	1.5	2.9	—	—	1.9	3.2	2.1	2.0	—	2.7	1.8	1.8	4.9	1.9	1.3	—	2.5	1.2	4.4	1.1	2.3	—	3.3			
37.5	35.9	33.9	34.2	35.3	39.0	50.0	36.2	30.8	50.0	35.7	44.4	46.0	36.5	36.6	34.2	40.3	38.9	40.7	18.9	29.6	21.2	33.5	29.5	7.1	37.7			
8.2	9.5	8.1	8.8	9.2	4.9	—	8.2	10.3	11.5	7.9	13.2	15.8	8.7	8.0	9.2	7.2	8.9	16.0	6.9	12.7	8.8	8.0	6.8	21.4	10.6			
9.2	8.7	4.8	5.8	5.2	7.3	—	7.9	9.0	13.0	6.7	25.7	25.4	8.1	7.6	11.2	8.6	8.1	13.6	6.3	4.3	2.3	7.6	15.9	7.1	18.5			
49.9	50.2	49.2	43.4	48.6	43.9	100.0	49.2	44.9	54.2	48.5	54.2	61.5	47.1	51.5	53.7	49.4	46.9	48.1	41.5	64.2	47.6	42.9	54.5	50.0	55.6			
18.9	18.3	19.1	19.0	18.5	29.3	—	19.2	18.6	9.4	19.9	9.7	4.5	20.2	17.7	15.8	18.3	18.6	17.7	20.8	17.9	23.9	20.7	11.4	21.4	13.9			
8.0	6.9	7.5	10.0	10.4	4.9	—	8.0	9.6	7.8	8.3	3.5	4.1	8.0	7.8	8.9	8.6	7.7	5.3	9.4	3.4	9.0	10.5	4.5	7.1	4.0			
5.1	4.7	4.0	7.9	6.4	9.8	—	5.2	9.0	3.6	5.5	1.4	0.7	5.0	5.6	4.0	5.4	5.9	2.5	3.8	2.5	5.8	5.8	6.8	14.3	2.6			
4.0	7.2	7.5	6.2	5.8	2.4	—	5.1	7.1	5.2	5.5	3.5	0.3	5.9	4.8	2.0	5.1	6.7	6.6	5.7	3.1	4.8	6.5	4.5	—	0.7			
3.3	2.9	7.1	6.8	4.6	2.4	—	4.1	1.9	4.2	4.3	2.1	0.3	4.4	3.8	3.2	3.7	5.0	4.9	11.3	1.9	3.5	4.7	2.3	—	3.3			
1.5	1.0	0.8	0.9	0.6	—	—	1.2	—	2.6	1.2	—	3.1	1.3	1.2	1.1	0.8	1.2	1.2	1.3	2.8	3.0	1.1	—	—	1.3			

設 問		項 目	分 類	道 本 部 全 体	年 齢 別											性 別				
					19	20	25	30	35	40	45	50	55	60	女 (配 偶 者 な し 性)	男 (配 偶 者 な し 性)	女 (配 偶 者 あ り 性)	男 (配 偶 者 あ り 性)	選 ば な い	
< Q 8 > Q 7の超勤のうち、 「未払い超勤」 （「サービス残業」 と呼ばれる不払い 労働）はどれぐら いですか	①まったくない	46.0	61.2	48.0	46.8	43.9	41.5	43.3	44.8	46.4	47.6	65.7	38.8	51.5	39.7	49.7	6.0			
	②1～29時間	33.5	24.5	33.5	34.0	34.1	39.8	33.8	32.4	31.3	34.4	22.1	37.4	30.0	38.7	31.0	8.0			
	③30～59時間	8.8	4.1	8.4	9.2	10.6	7.4	10.2	9.5	7.6	6.9	5.5	10.1	8.3	9.4	8.0	—			
	④60～89時間	3.6	4.1	2.9	3.7	4.1	4.2	3.9	4.1	4.0	1.9	1.1	4.3	3.7	3.2	3.4	—			
	⑤90～119時間	1.8	2.0	1.8	1.1	1.9	1.8	1.7	1.7	2.9	1.9	0.6	2.0	1.4	2.3	1.6	—			
	⑥120～149時間	1.3	—	1.2	1.1	1.7	1.1	1.7	1.7	1.2	0.5	1.1	1.7	1.1	1.3	1.3	—			
	⑦150時間以上	2.4	2.0	2.0	2.0	2.2	2.7	2.6	3.3	2.4	2.6	1.1	1.6	2.8	1.4	3.1	8.0			
	⑧N・A	2.6	2.0	2.2	2.1	1.6	1.6	2.7	2.6	4.3	4.3	2.8	4.0	1.2	4.0	1.8	8.0			
< Q 9 > 公務員の定年につ いては、2023年か ら2年ごとに1歳 ずつ引き上げら れ、2031年度に65 歳となり、賃金は 60歳時の7割水準 になります。この ことに伴って懸念 や心配をしている ことを「2つ以内」 で選んでください	①退職年齢が引き上がることによって、新規採用の抑制につながる	20.8	11.6	16.8	22.4	24.2	22.0	21.6	20.9	21.8	16.5	17.8	15.6	22.6	18.6	23.8	26.9			
	②（管理職だった人が）係長相当職に格付けされた 場合、若手や中堅職員の係長への昇格が遅れる	13.0	11.6	10.8	14.7	16.7	18.2	13.1	11.9	9.8	9.0	9.3	9.0	15.0	8.4	16.3	23.1			
	③先輩が係員となることで、仕事の配分調整 に影響し、既存の係員の業務が過重となる	23.1	13.0	18.4	23.7	34.4	27.6	28.6	26.1	16.6	11.3	6.8	15.6	26.8	18.6	27.9	11.5			
	④年金支給年齢が65歳に達するまで、引き下げ られた賃金で生活していくことに不安がある	36.8	31.9	34.0	35.6	34.4	35.4	35.2	34.6	46.1	45.2	31.4	40.0	33.0	40.0	35.9	34.6			
	⑤体力の低下や健康面などから、従前と同じ ように業務を遂行することに不安がある	44.2	26.1	33.8	37.4	38.3	40.5	45.3	54.7	58.7	52.9	26.3	49.0	36.0	58.4	39.4	61.5			
	⑥その他	3.2	—	1.8	2.9	4.2	2.4	3.6	3.1	4.2	3.1	3.8	2.4	3.1	1.7	4.4	7.7			
	⑦懸念することは特にない	4.3	7.2	5.8	4.8	3.7	3.1	2.8	3.2	1.9	6.1	14.4	3.1	6.7	2.5	4.4	3.8			
	⑧わからない	11.1	30.4	22.7	12.9	8.1	10.1	8.8	7.4	7.4	8.8	17.8	16.3	11.5	10.3	8.1	3.8			
	⑨N・A	3.6	2.9	2.3	2.6	2.1	2.9	3.1	3.0	4.0	7.7	11.4	5.0	2.4	5.0	2.9	3.8			
< Q 10 > 会計年度任用職員 制度について、各 自治体によって賃 金労働条件に違い があるのが現状で す。今度も制度改 善をしていくため にあなたは何を優 先的に取り組むべ きと考えますか。 「3つ以内」で選 んでください	①正規職員と同様の昇給制度にすべき	20.4	15.9	23.5	17.6	15.9	19.1	19.4	20.1	22.0	23.6	33.1	17.7	21.4	18.8	22.2	19.2			
	②正規職員と同様に一時金（期末・勤勉手当）を支給すべき	24.9	18.8	19.2	22.4	21.4	22.4	23.1	23.1	29.8	34.0	45.5	25.0	22.9	26.9	25.2	23.1			
	③正規職員と同様の休暇制度にすべき	24.6	21.7	29.8	25.9	25.0	26.6	24.9	23.9	20.2	21.1	23.6	24.1	26.2	25.2	23.4	34.6			
	④正規職員と同様の諸手当にすべき	17.0	20.3	14.6	17.2	15.3	12.9	13.8	16.3	15.7	28.3	29.3	17.0	16.8	18.3	16.4	30.8			
	⑤任用回数の上限を撤廃すべき	19.0	20.3	13.6	19.3	21.1	19.4	19.8	19.8	19.4	17.2	21.1	18.2	19.7	16.3	20.4	23.1			
	⑥正規職員との仕事の量と役割を明確にすべき	33.4	24.6	31.4	33.3	39.4	37.6	35.6	34.4	32.1	28.3	18.6	33.9	32.1	32.7	34.6	30.8			
	⑦パートタイム（短時間）職員を必要に応じフルタイムにすべき	16.6	10.1	14.3	15.9	15.6	17.1	15.7	17.8	17.8	22.1	12.4	16.3	17.5	16.5	16.3	7.7			
	⑧経験年数や本人の希望により会計年度任用 職員が正規職員になれる制度を設けるべき	23.9	31.9	23.5	24.6	25.3	24.6	21.9	25.2	22.8	23.6	19.8	26.5	24.3	25.2	21.2	23.1			
	⑨その他	4.7	4.3	2.8	4.0	6.3	5.4	4.9	4.4	6.0	3.7	3.7	3.5	4.5	5.2	5.2	7.7			
	⑩N・A	8.7	7.2	7.2	8.1	7.3	8.7	9.2	9.2	9.1	9.8	11.2	9.6	6.7	10.4	8.5	11.5			

扶養家族数別							任用・雇用元			任用・雇用形態			家計収入			職 種 別																																			
0 人	1 人	2 人	3 人	4 人	5 人	6以 上人	地 方 公 団 体	共 立 法 人	政 立 法 人	民 営 企 業 お よ び 団 体 法 人	正 職 規 員	再 職 任 用 員	非 職 正 規 員	自 入 己 の 収 み	共 働 き	そ の 他	事 務 系 職	一 般 系 職	技 術 系 職	技 術 系 職	保 健 系 職	福 祉 系 職	技 術 系 職	医 療 系 職	医 療 系 職	技 術 系 職	研 究 職	海 事 職	そ の 他																						
46.1	47.5	45.3	41.5	53.0	31.6	83.3	45.5	44.4	63.5	44.9	65.4	62.2	45.9	45.3	52.4	50.5	51.4	66.2	26.8	33.2	25.7	40.2	21.6	53.8	38.2	33.8	33.8	33.2	33.8	28.7	34.2	16.7	34.1	26.1	22.2	33.9	26.2	27.6	32.8	35.0	30.1	31.8	28.7	23.3	43.0	38.4	43.3	41.7	37.8	15.4	39.0
8.6	7.9	8.8	10.4	9.1	21.1	—	8.7	14.1	6.0	9.1	6.5	2.3	9.4	8.2	7.4	7.8	8.8	4.3	10.7	10.0	14.5	7.1	13.5	—	8.9	3.8	3.8	3.0	3.2	3.7	2.6	—	3.7	2.8	3.0	3.8	0.9	0.9	3.9	3.3	3.6	3.3	2.5	1.0	8.1	6.1	6.2	2.4	2.7	—	4.1
1.7	1.4	1.8	2.9	1.8	2.6	—	1.8	2.1	1.8	1.9	—	—	1.7	1.9	1.3	1.3	1.8	0.5	4.0	3.5	2.4	3.1	—	7.7	1.6	1.3	1.3	1.8	1.4	—	—	1.3	2.1	0.6	1.4	—	—	1.3	1.3	1.0	0.9	1.6	1.0	2.0	1.3	1.8	2.4	5.4	7.7	1.6	
2.2	2.3	3.4	3.2	1.2	5.3	—	2.5	3.5	—	2.6	0.9	—	2.5	2.4	2.3	2.4	3.0	1.0	3.4	1.6	2.5	1.2	10.8	—	1.6	2.6	2.0	2.7	3.6	2.4	2.6	—	2.4	4.9	3.0	2.4	—	6.9	2.6	2.7	1.9	1.9	2.1	2.9	2.0	5.8	3.6	2.0	8.1	15.4	4.9
20.1	21.5	19.3	24.2	28.4	26.8	16.7	20.8	25.6	17.6	21.2	22.2	11.4	19.2	22.8	21.2	22.4	20.2	21.3	26.4	18.8	9.8	24.1	34.1	57.1	16.7	12.0	12.9	14.0	16.8	18.3	14.6	16.7	13.1	14.1	9.9	13.3	12.5	7.2	13.1	13.3	9.4	13.5	17.7	6.8	9.4	10.1	5.9	16.1	25.0	21.4	11.8
21.2	23.7	26.3	30.7	24.9	22.0	33.3	23.5	17.9	15.3	24.4	10.4	5.7	23.1	23.9	18.8	27.5	25.8	6.8	22.0	14.1	11.2	19.3	18.2	21.4	16.0	36.2	39.0	39.7	34.1	31.4	41.5	16.7	36.7	41.7	35.1	37.3	31.3	29.7	37.4	36.9	30.6	33.0	36.0	48.5	27.7	41.3	53.8	39.8	43.2	14.3	34.0
44.1	45.8	45.2	43.2	36.7	46.3	16.7	44.4	46.8	32.1	45.5	27.1	28.1	42.1	47.1	42.6	41.0	37.7	50.6	57.9	55.8	60.9	43.8	45.5	50.0	38.2	2.8	2.2	4.2	4.8	7.1	—	—	3.2	2.6	2.3	3.2	4.9	1.9	3.5	2.9	2.4	3.7	2.7	2.6	3.1	0.7	2.1	3.3	2.3	—	4.9
4.7	4.7	3.7	2.4	1.8	2.4	16.7	4.4	3.8	3.1	3.8	13.9	9.9	4.8	3.5	5.3	4.7	5.1	6.0	1.9	4.0	1.1	3.6	2.3	—	6.3	12.6	9.4	8.1	8.6	10.7	9.8	16.7	11.0	12.2	10.7	10.2	16.0	25.5	11.7	9.4	17.9	9.7	11.0	11.1	12.6	15.2	15.3	11.3	4.5	7.1	18.1
3.7	4.0	3.4	2.8	3.0	2.4	16.7	3.2	1.9	20.6	2.9	7.6	15.2	3.7	3.3	4.7	3.6	3.0	6.4	1.9	2.5	4.1	1.5	4.5	7.1	8.3	19.7	21.5	22.0	20.9	19.1	14.6	50.0	19.9	25.0	29.2	19.0	34.7	38.8	20.4	20.9	16.7	18.3	18.7	33.3	20.8	24.4	23.5	22.5	18.2	50.0	25.2
24.9	25.9	25.2	23.5	26.0	9.8	16.7	24.7	26.9	29.2	23.2	45.1	46.0	24.0	26.0	26.4	21.0	21.6	39.1	29.6	36.1	33.1	27.6	15.9	57.1	38.4	25.4	23.5	22.1	22.6	31.2	22.0	50.0	24.6	22.4	26.6	24.9	28.5	17.9	24.1	24.7	28.7	24.5	24.1	25.5	32.1	23.8	26.4	23.6	27.3	28.6	17.2
17.1	18.1	17.4	13.5	19.7	14.6	33.3	16.9	21.8	18.2	15.7	31.9	34.0	16.7	17.3	18.7	15.2	16.2	26.7	18.2	20.4	18.9	17.8	15.9	35.7	25.8	19.1	19.6	17.4	20.7	20.2	14.6	—	19.4	18.6	10.4	18.6	16.0	29.2	19.8	18.2	18.1	21.8	20.5	17.7	13.2	14.5	7.8	14.9	31.8	7.1	19.9
32.6	33.6	34.6	38.0	30.6	46.3	33.3	33.8	30.1	28.6	34.5	17.4	22.0	33.2	34.3	29.9	36.2	30.5	28.0	35.8	33.0	28.0	33.1	36.4	—	25.2	16.5	17.8	16.7	16.0	12.7	17.1	—	16.9	14.7	9.4	16.9	9.7	15.1	16.9	16.2	16.7	17.2	19.1	10.3	15.1	15.4	13.5	15.6	27.3	7.1	17.9
24.5	24.8	21.6	22.9	18.5	31.7	16.7	23.9	29.5	19.3	23.9	16.0	28.9	24.1	23.3	27.3	23.4	19.6	24.3	26.4	28.1	26.0	29.8	25.0	7.1	29.1	4.4	3.9	6.5	4.7	4.0	7.3	—	4.6	5.1	5.2	4.8	3.5	3.1	4.3	5.1	4.6	5.0	4.6	3.3	2.5	3.4	5.0	2.5	4.5	14.3	5.3
8.2	9.3	9.3	10.3	9.2	4.9	—	8.3	9.0	17.2	8.8	11.1	5.2	8.5	8.9	8.0	8.1	9.9	8.2	9.4	7.1	11.7	6.5	9.1	7.1	7.3																										

設 問		分 類	道 本 部 全 体	行 政 別						地方本部別		
				全 道 道 庁 連	政 令	都 市	町 村	そ の 他	公 共 民 間	社 保	札 幌	札 幌 (旧 石 狩)
＜ F 1 ＞ あなたの年齢は	① ～19歳	1.2	2.3	0.4	0.7	1.7	－	－	－	0.8	0.7	1.3
	②20～24歳	9.9	11.5	5.7	9.2	12.9	－	2.3	3.4	6.3	5.0	10.7
	③25～29歳	14.7	12.6	12.8	15.8	16.8	15.2	4.7	4.5	14.6	13.9	16.8
	④30～34歳	11.7	5.9	11.8	13.2	14.8	21.2	3.5	4.5	12.8	12.4	14.0
	⑤35～39歳	10.4	6.4	12.1	10.9	12.0	12.1	12.8	8.0	11.3	11.4	11.2
	⑥40～44歳	12.9	10.2	12.3	13.2	13.7	9.1	24.4	20.5	11.4	11.8	9.9
	⑦45～49歳	15.4	17.0	13.8	14.0	16.7	24.2	22.1	13.6	14.9	15.2	13.7
	⑧50～54歳	11.1	15.2	13.2	10.8	6.6	15.2	11.6	15.9	13.0	13.9	10.2
	⑨55～59歳	8.5	11.8	12.5	8.3	3.9	－	11.6	12.5	10.2	11.0	7.1
	⑩60歳以上	4.2	6.8	5.4	4.0	0.8	3.0	7.0	17.0	4.8	4.6	5.3
	⑪N・A	0.1	0.3	－	－	0.1	－	－	－	－	－	－
＜ F 2 ＞ あなたの性別は	①女性(配偶者なし)	22.0	17.1	19.0	25.1	22.0	18.2	24.4	31.8	21.9	21.1	24.9
	②男性(配偶者なし)	24.6	32.3	20.8	20.3	28.0	21.2	19.8	15.9	21.5	20.4	25.1
	③女性(配偶者あり)	18.2	13.5	19.3	20.1	16.7	15.2	38.4	26.1	19.5	19.4	20.1
	④男性(配偶者あり)	34.6	36.4	39.8	34.1	32.7	45.5	17.4	26.1	36.4	38.3	29.7
	⑤選ばない	0.5	0.5	0.8	0.3	0.5	－	－	－	0.5	0.6	0.3
	⑥N・A	0.1	0.3	0.4	－	0.1	－	－	－	0.2	0.2	－
＜ F 3 ＞ あなたの扶養家族 は	①0人（独身者含む）	59.4	59.0	56.9	59.5	60.6	54.5	60.5	63.6	59.1	58.0	63.2
	②1人	15.0	17.5	16.0	15.2	12.1	12.1	18.6	17.0	15.1	14.5	17.0
	③2人	13.5	12.3	15.3	14.0	12.9	18.2	10.5	12.5	14.6	15.5	11.4
	④3人	8.2	7.8	9.1	7.3	9.7	9.1	5.8	3.4	8.2	8.9	6.1
	⑤4人	3.0	2.4	2.3	3.0	3.7	6.1	4.7	2.3	2.3	2.5	1.8
	⑥5人	0.7	0.8	0.1	0.8	0.9	－	－	－	0.5	0.4	0.5
	⑦6人以上	0.1	－	－	0.2	0.1	－	－	1.1	0.1	0.1	－
	⑧N・A	0.1	0.2	0.3	－	－	－	－	－	0.1	0.1	－
＜ F 4 ＞ あなたの任用・雇 用元は	①地方公共団体	93.6	87.1	97.4	98.8	99.2	57.6	27.9	3.4	92.3	90.1	99.7
	②独立行政法人	2.7	9.4	0.4	0.4	0.1	3.0	－	37.5	3.7	4.6	0.3
	③民間企業および(②以外の)団体・法人	3.3	2.9	2.0	0.6	0.4	39.4	70.9	58.0	3.8	4.9	－
	④N・A	0.3	0.6	0.1	0.2	0.3	－	1.2	1.1	0.3	0.4	－
＜ F 5 ＞ あなたの任用・雇 用形態は	①正規職員	92.4	92.9	87.2	92.8	98.4	97.0	67.4	44.3	91.5	91.2	92.4
	②再任用（再雇用）職員	2.5	5.2	3.1	2.1	0.4	3.0	－	9.1	2.7	2.8	2.3
	③非正規職員(会計年度、任期付、臨時、嘱託職員など)	5.1	1.6	9.6	5.2	1.2	－	32.6	46.6	5.8	6.0	5.3
	④N・A	0.1	0.3	－	－	－	－	－	－	－	－	－

地 方 本 部 別										
道 北	道(旧 上川 北)	道(旧 留萌 北)	道(旧 宗谷 北)	道 南	空 知	胆 振	日 高	網 走	十 勝	釧 根
1.2	0.5	2.3	3.1	0.6	1.4	0.9	1.0	2.4	2.2	2.2
11.6	12.4	8.0	12.2	10.1	12.1	11.6	10.5	12.5	11.9	13.6
12.5	11.6	12.1	17.6	14.9	19.9	14.7	15.2	16.8	13.5	15.9
10.6	9.7	9.2	16.8	11.1	12.1	12.3	14.3	9.1	12.6	11.7
11.7	10.8	12.1	15.3	9.2	8.4	10.3	3.8	10.1	10.9	9.7
14.7	15.5	12.6	13.7	12.4	11.2	16.1	17.1	11.2	11.7	14.8
17.3	18.5	17.8	10.7	16.9	13.7	11.8	22.9	15.2	16.3	13.9
10.6	10.1	15.5	6.1	10.5	10.7	10.5	10.5	10.4	8.7	7.8
7.6	8.4	6.9	4.6	9.1	7.5	7.1	3.8	8.8	6.3	7.8
2.4	2.6	3.4	—	4.8	3.0	4.7	1.0	3.5	5.7	2.2
—	—	—	—	0.3	—	—	—	—	0.2	0.3
20.6	20.1	19.0	25.2	24.1	24.4	25.4	25.7	18.4	20.7	16.4
27.4	26.7	27.6	30.5	24.0	23.7	23.4	22.9	32.0	23.7	32.9
18.1	18.5	19.0	15.3	16.3	20.8	20.1	14.3	13.3	16.9	15.9
33.4	34.0	34.5	29.0	35.1	30.1	30.6	36.2	36.3	37.8	34.3
0.4	0.6	—	—	0.3	0.9	0.4	—	—	0.6	0.6
—	—	—	—	0.1	—	—	1.0	—	0.4	—
56.9	56.0	54.6	64.1	56.6	63.7	58.7	65.7	61.3	61.1	60.4
15.1	15.5	18.4	9.2	17.8	14.4	17.9	4.8	14.1	11.7	15.3
14.4	14.0	16.1	13.7	14.0	11.0	13.8	10.5	13.6	12.0	10.6
8.3	9.5	5.2	6.9	7.8	7.1	5.1	12.4	6.9	11.1	9.7
4.3	4.3	4.6	3.8	2.5	2.5	3.6	4.8	3.7	3.1	2.8
0.8	0.5	0.6	2.3	1.0	1.4	0.9	1.0	0.3	0.7	0.8
0.2	0.2	0.6	—	—	—	—	1.0	—	—	0.3
—	—	—	—	0.3	—	—	—	—	0.2	—
96.2	95.3	98.3	97.7	96.0	96.3	94.2	100.0	97.9	96.3	96.7
0.5	0.6	—	0.8	0.7	3.0	0.2	—	1.6	3.1	3.1
2.8	3.7	1.1	0.8	3.0	0.7	4.9	—	0.3	—	0.3
0.4	0.3	0.6	0.8	0.3	—	0.7	—	0.3	0.6	—
94.8	95.0	90.8	99.2	92.8	97.9	89.7	99.0	93.1	92.8	94.7
1.2	1.3	1.1	0.8	3.0	1.6	3.1	—	2.1	4.1	1.4
3.9	3.5	8.0	—	4.0	0.5	7.1	1.0	4.8	3.0	3.9
0.1	0.2	—	—	0.1	—	—	—	—	0.2	—

設 問	分 類 項 目	道 本 部 全 体	行 政 別							地方本部別		
			全 道 庁 連	政 令	都 市	町 村	そ の 他	公 共 民 間	社 保	札 幌	札 （旧 石狩）	札 （旧 後志）
< F 6 > あなたの家計収入は	①あなたの収入のみ	52.2	64.4	48.6	47.5	52.7	45.5	36.0	51.1	50.8	49.9	53.8
	②共働き	41.6	32.5	44.6	45.3	41.2	48.5	54.7	34.1	43.8	44.7	40.9
	③その他	6.1	2.8	6.4	7.1	6.1	6.1	9.3	14.8	5.2	5.2	5.3
	④N・A	0.1	0.3	0.4	—	—	—	—	—	0.2	0.3	—
< F 7 > あなたの職種は	①事務系一般職	53.8	46.8	44.0	52.4	66.6	66.7	15.1	92.0	51.4	50.5	54.3
	②技術系一般職	15.0	31.4	21.6	9.4	7.9	30.3	8.1	1.1	18.0	19.6	12.4
	③技能・労務職	4.2	0.9	15.7	4.0	1.3	—	9.3	—	7.4	8.7	2.8
	④保健系技術職	2.8	1.7	1.2	2.5	5.1	—	—	2.3	2.1	2.0	2.5
	⑤福祉系技術職	5.6	0.4	1.6	5.1	10.2	—	55.8	—	3.2	2.1	6.9
	⑥医療系看護職	9.8	7.1	5.6	17.1	4.2	—	2.3	—	9.1	7.8	13.5
	⑦医療系技術職	4.8	5.5	4.2	7.1	1.6	—	1.2	—	4.4	4.4	4.6
	⑧研究職	0.8	3.8	—	—	—	—	—	—	0.7	0.8	0.3
	⑨海事職	0.2	1.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	⑩その他	2.6	0.7	6.1	2.0	2.9	3.0	8.1	4.5	3.6	3.9	2.5
	⑪N・A	0.3	0.5	—	0.3	0.2	—	—	—	0.2	0.1	0.3
< Q 1 > 新型コロナ ウイルス感染症 の影響について	①賃金・諸手当の減少	34.9	37.9	33.9	34.0	35.3	48.5	24.4	27.3	34.3	34.7	32.7
	②休業・解雇（雇い止め）	3.2	2.8	4.6	3.3	2.3	—	7.0	8.0	3.7	3.8	3.3
	③感染予防や感染者発生時の対応など衛生管理	51.8	43.9	50.1	54.8	53.4	51.5	67.4	53.4	50.0	48.9	54.1
	< Q 1 > (1) ④出勤時間や人との接触抑制などに伴う自身の仕事のやりくり（調整）	27.4	36.1	30.7	24.3	22.3	33.3	33.7	37.5	30.5	31.2	28.2
	⑤業務量の増加	36.4	29.9	37.0	37.6	40.4	30.3	38.4	25.0	35.9	35.6	36.8
	⑥休暇や業務調整に対する職場管理職の対応	15.0	12.2	17.5	16.3	14.2	6.1	18.6	14.8	15.9	15.8	16.2
	⑦在宅勤務・テレワークなどの環境整備	14.0	26.4	14.9	10.5	9.4	36.4	2.3	12.5	18.0	19.5	12.7
	⑧その他	2.0	1.7	1.6	1.8	2.8	—	1.2	4.5	1.9	2.0	1.5
	⑨不安や影響を感じていることは特でない	13.1	11.4	12.5	13.2	14.4	9.1	12.8	15.9	12.1	12.1	12.2
	⑩N・A	0.7	0.4	0.7	0.7	0.8	—	1.2	—	0.8	0.6	1.5
< Q 1 > (2) 現在、あなたが新 型コロナ感染症に ついて、生活面で 不安や影響を感じ ていることをそれ ぞれ「3つ以内」 で選んでください	①感染時の医療体制	29.6	33.3	31.1	29.5	24.7	42.4	33.7	43.2	32.1	32.2	31.7
	②ワクチン接種などの感染予防体制	12.1	14.0	14.0	11.6	10.0	21.2	12.8	11.4	13.8	14.2	12.7
	③自身や家族が感染した際の生活維持	42.0	38.7	42.6	43.2	42.4	27.3	48.8	40.9	42.1	41.3	44.7
	④感染対策に伴う生活費の増加	12.1	12.2	13.7	11.5	11.9	6.1	14.0	13.6	12.5	12.1	14.0
	⑤物価の上昇	25.6	25.3	25.8	23.4	28.5	30.3	38.4	23.9	24.8	24.2	27.2
	⑥行動自粛による精神的ストレス	40.4	33.6	38.8	43.9	41.9	45.5	33.7	33.0	38.7	38.1	40.9
	⑦行動制限の解除による感染再拡大への不安	29.3	29.7	28.0	29.2	30.0	30.3	32.6	22.7	28.3	28.2	28.4
	⑧子育て、家事の負担増加	7.0	5.5	8.0	8.0	6.4	9.1	5.8	—	8.0	8.6	5.8
	⑨ワクチン接種の有無や感染による差別	11.5	11.5	9.9	11.6	12.3	12.1	10.5	12.5	11.2	10.5	14.0
	⑩その他	1.3	1.3	1.2	1.0	1.8	3.0	1.2	2.3	1.0	1.1	0.5
	⑪不安や影響を感じていることは特でない	7.8	7.6	7.9	7.2	8.6	3.0	5.8	14.8	7.7	7.4	8.6
	⑫N・A	4.8	5.3	4.2	4.8	4.9	—	7.0	3.4	4.8	4.6	5.3

地 方 本 部 別										
道 北	道(旧 上川 北)	道(旧 留萌 北)	道(旧 宗谷 北)	道 南	空 知	胆 振	日 高	網 走	十 勝	釧 根
52.9	52.2	52.3	57.3	51.6	49.8	52.9	55.2	58.4	53.1	51.8
41.6	42.5	43.1	35.1	39.3	43.8	40.6	40.0	36.3	42.2	40.9
5.4	5.2	4.6	7.6	9.0	6.4	6.3	4.8	5.3	4.4	7.2
0.1	0.2	—	—	0.1	—	0.2	—	—	0.2	—
56.0	56.7	52.9	57.3	50.1	46.8	48.4	64.8	61.3	54.8	60.2
12.9	13.7	13.2	8.4	13.0	11.4	13.2	15.2	20.3	13.9	15.9
1.8	2.1	1.7	0.8	4.9	1.6	2.5	1.0	1.3	5.9	1.4
3.6	3.2	4.6	3.8	2.5	3.9	2.2	5.7	1.1	3.5	3.9
8.5	11.0	2.9	4.6	4.8	4.6	6.3	6.7	5.3	10.4	7.0
8.6	6.1	14.9	12.2	16.8	21.0	15.6	1.0	4.0	4.1	2.2
6.0	4.8	7.5	9.9	5.6	7.8	8.9	1.0	2.1	2.2	1.9
0.2	0.3	—	—	0.3	2.3	0.2	—	0.8	1.3	1.9
—	—	—	—	0.4	—	0.2	—	1.3	—	1.4
1.8	1.8	2.3	1.5	1.3	0.5	2.2	4.8	2.4	3.1	3.9
0.4	0.3	—	1.5	0.3	0.2	0.2	—	—	0.7	0.3
36.9	36.4	32.2	45.8	36.3	29.5	35.0	30.5	37.3	39.1	31.8
2.9	2.9	3.4	2.3	3.5	1.4	3.3	1.9	2.1	3.7	2.8
52.4	52.8	52.9	49.6	52.3	55.9	54.7	48.6	53.3	49.4	52.4
24.7	24.5	25.9	24.4	28.5	26.3	29.5	28.6	25.1	20.2	25.9
36.6	35.1	32.8	48.9	35.1	42.9	42.2	39.0	35.2	36.9	29.2
13.4	14.0	11.5	13.0	16.3	15.3	19.6	11.4	12.3	13.1	13.4
13.3	14.3	11.5	10.7	9.2	11.4	14.5	10.5	14.7	11.7	12.8
2.4	2.4	1.7	3.1	1.4	1.6	1.3	1.0	1.9	3.1	2.2
13.3	13.7	17.2	6.1	14.5	13.2	10.9	18.1	13.3	13.3	14.2
0.4	0.5	0.6	—	0.7	0.9	1.1	—	0.3	0.7	0.3
28.2	31.2	20.1	24.4	30.2	28.3	32.1	26.7	26.4	24.3	27.9
10.9	11.1	12.1	8.4	10.7	9.4	12.1	13.3	13.3	12.8	9.7
42.2	43.0	42.5	38.2	42.8	43.4	46.2	41.9	40.5	39.4	38.4
10.9	11.4	6.9	13.7	13.3	11.6	11.2	11.4	11.7	12.2	12.0
24.8	24.6	21.3	30.5	26.7	26.5	26.8	26.7	22.4	29.1	25.1
41.6	39.8	48.9	40.5	42.6	46.6	46.0	47.6	38.7	36.7	33.7
27.3	27.4	26.4	28.2	28.5	35.2	32.1	30.5	28.0	31.1	30.4
6.3	7.4	2.3	6.1	6.6	6.6	8.3	5.7	5.9	7.6	5.3
13.3	13.7	12.6	12.2	9.4	10.3	12.9	10.5	10.7	13.9	9.7
1.3	1.4	0.6	1.5	1.2	1.8	1.1	2.9	1.3	1.5	2.5
8.1	7.7	10.3	6.9	9.2	5.5	3.6	5.7	11.2	8.0	7.8
5.6	5.5	8.0	3.1	3.9	5.3	3.8	2.9	5.1	4.8	6.4

設 問	分 類 項 目	道 本 部 全 体	行 政 別							地方本部別		
			全 道 道 庁 連	政 令	都 市	町 村	そ の 他	公 共 民 間	社 保	札 幌	札 （旧 石狩） 幌	札 （旧 後志） 幌
< Q 2 > あなたの今の生活 実感は、次のどれ に最も近いですか	①かなり苦しい	10.2	13.5	10.7	8.4	9.5	9.1	18.6	12.5	10.9	11.1	10.2
	②やや苦しい	35.0	37.7	33.1	35.1	33.1	36.4	39.5	37.5	34.3	33.8	36.0
	③まあまあだ	47.3	41.1	48.6	48.8	50.0	48.5	38.4	45.5	46.6	46.8	45.9
	④ややゆとりがある	6.2	6.0	6.8	6.5	5.9	6.1	3.5	4.5	6.8	7.2	5.3
	⑤かなりゆとりがある	1.0	1.6	0.8	0.7	1.1	—	—	—	1.2	0.9	2.3
	⑥N・A	0.3	0.2	—	0.5	0.3	—	—	—	0.2	0.2	0.3
< Q 3 > 生活・家計の状況 で、特に負担に感 じている費目を、 以下から「3つ以 内」で選んでくだ さい	①食費	30.8	32.4	27.5	33.5	26.9	18.2	31.4	34.1	29.8	30.1	28.7
	②光熱水費	42.1	42.6	38.1	44.3	39.1	48.5	45.3	55.7	38.8	38.0	41.6
	③住宅関係費	31.8	30.0	35.5	33.5	29.6	30.3	24.4	21.6	37.0	37.3	36.0
	④教養・娯楽費	6.5	6.1	5.4	6.3	8.6	—	—	2.3	6.2	6.2	6.1
	⑤交際費	4.9	3.7	5.3	4.2	7.1	—	3.5	2.3	4.6	4.4	5.6
	⑥教育費	16.2	14.7	20.2	16.0	15.7	24.2	16.3	9.1	18.1	20.0	11.4
	⑦被服費	2.0	2.3	2.3	2.1	1.3	3.0	1.2	1.1	2.0	2.1	1.5
	⑧通信費	11.9	14.4	9.6	10.8	13.2	9.1	10.5	10.2	10.9	10.5	12.2
	⑨交通・車両費	22.4	24.2	13.4	20.7	28.6	18.2	29.1	13.6	16.8	13.9	26.9
	⑩医療・介護費	11.5	13.1	15.7	10.6	9.0	9.1	18.6	11.4	13.1	13.9	10.2
	⑪税金・社会保険料	32.8	28.2	39.8	32.6	32.2	54.5	37.2	38.6	35.3	36.5	31.2
	⑫生命保険や損保の掛け金	12.5	10.2	12.5	14.2	11.9	6.1	18.6	5.7	12.1	11.4	14.7
	⑬奨学金の返済	6.6	6.0	5.8	6.6	7.6	3.0	8.1	6.8	7.1	6.6	8.9
	⑭その他	1.7	2.0	1.8	1.1	2.3	3.0	1.2	3.4	1.2	1.5	0.5
	⑮N・A	2.3	2.9	3.3	1.9	1.9	3.0	1.2	2.3	2.8	3.1	1.8
< Q 4 > 2022春闘での賃上 げ要求について、 あなたは要求額 （定期昇給分を除 いた金額）をいく らにすべきだと思 いますか	①0円	5.4	4.0	4.1	5.7	7.0	3.0	1.2	6.8	4.9	4.5	6.1
	②5千円程度	20.3	19.0	19.8	21.4	20.4	24.2	14.0	19.3	19.0	20.0	15.2
	③1万円程度	36.3	34.3	38.7	36.6	35.7	45.5	32.6	42.0	38.2	38.4	37.6
	④1.5万円程度	7.0	6.7	6.0	6.9	8.1	3.0	8.1	8.0	6.9	6.5	8.6
	⑤2万円程度	12.5	14.9	12.1	11.6	12.6	6.1	14.0	9.1	12.0	11.7	12.9
	⑥2.5万円程度	0.8	1.6	0.1	0.8	0.6	—	—	1.1	0.5	0.5	0.5
	⑦3万円以上	16.0	18.1	17.2	15.6	13.8	18.2	29.1	12.5	16.7	16.3	17.8
	⑧N・A	1.5	1.5	2.0	1.3	1.8	—	1.2	1.1	1.9	2.0	1.3

地 方 本 部 別										
道 北	道(旧 上川 北)	道(旧 留萌 北)	道(旧 宗谷 北)	道 南	空 知	胆 振	日 高	網 走	十 勝	釧 根
9.7	8.2	12.6	13.0	12.6	5.7	7.4	5.7	13.9	10.7	8.9
34.9	34.9	33.3	36.6	37.6	34.7	37.3	27.6	33.6	33.9	35.9
48.4	49.6	47.1	44.3	44.5	51.4	48.7	54.3	44.5	47.2	47.9
6.0	6.3	6.3	4.6	5.1	7.1	4.9	9.5	6.1	5.9	6.7
0.8	0.8	0.6	0.8	0.1	0.7	0.7	2.9	1.9	1.7	0.6
0.2	0.2	—	0.8	0.1	0.5	1.1	—	—	0.6	—
32.0	33.5	28.7	29.0	32.5	29.5	31.5	26.7	29.6	31.1	31.5
47.4	46.9	50.0	46.6	40.8	48.6	37.1	34.3	42.9	45.4	38.4
30.8	29.6	35.1	30.5	31.1	28.8	30.1	29.5	22.9	29.3	31.8
6.0	6.8	4.6	4.6	5.9	8.2	6.0	3.8	7.5	8.0	7.8
5.3	5.3	5.7	4.6	3.9	3.7	4.9	10.5	7.7	4.3	5.6
16.0	16.9	16.1	11.5	15.2	17.6	15.8	16.2	15.2	13.5	14.5
1.9	2.1	1.1	2.3	1.3	1.6	2.7	1.0	2.1	2.8	1.7
13.6	11.8	18.4	16.0	12.1	10.7	13.4	12.4	13.3	10.7	12.5
25.8	26.4	21.8	28.2	23.8	21.9	25.7	32.4	22.9	26.3	27.3
9.3	9.5	8.0	9.9	12.1	9.8	12.5	7.6	14.1	9.8	9.7
29.0	30.9	24.7	26.0	36.3	31.7	28.6	33.3	30.9	34.6	28.1
11.2	11.0	16.1	6.1	15.0	15.3	11.8	14.3	13.3	12.6	10.3
5.9	4.8	6.3	10.7	6.8	8.7	7.6	4.8	7.2	4.6	5.3
2.2	1.9	2.9	2.3	1.9	1.4	1.3	1.9	1.9	2.0	2.2
1.8	1.8	2.3	1.5	1.4	1.4	4.2	1.9	1.3	2.2	2.5
4.6	4.8	3.4	5.3	5.9	5.5	4.5	11.4	6.4	6.1	6.1
21.3	20.6	23.6	21.4	19.9	25.8	18.1	17.1	20.5	22.6	18.9
36.1	37.2	33.9	33.6	34.7	31.3	37.3	28.6	36.8	33.3	39.8
6.3	6.0	6.3	7.6	6.8	7.8	6.5	8.6	5.9	9.1	7.2
13.4	12.4	15.5	15.3	11.3	12.8	15.8	18.1	11.7	13.0	10.6
1.2	1.1	1.7	0.8	0.4	0.7	0.9	1.0	1.6	1.1	1.1
15.7	15.8	14.9	16.0	20.1	14.4	15.8	12.4	16.0	12.6	15.6
1.5	2.1	0.6	—	0.9	1.8	1.1	2.9	1.1	2.2	0.6

設 問	分 類 項 目	道 本 部 全 体	行 政 別							地方本部別		
			全 道 道 庁 連	政 令	都 市	町 村	そ の 他	公 共 民 間	社 保	札 幌	札 石 狩 （旧）	札 後 志 （旧）
< Q 5 > あなたは、この1 年間で何日くらい 年休を取りました か	① 0 日	0.8	0.3	0.1	0.8	1.8	—	—	—	0.5	0.4	1.0
	② 1～4 日	16.6	9.2	7.1	19.0	24.7	9.1	18.6	4.5	12.0	9.6	20.3
	③ 5～9 日	35.9	30.8	24.4	41.9	36.3	42.4	39.5	33.0	32.1	29.6	40.9
	④ 10～12 日	18.6	23.2	20.4	17.3	15.9	18.2	20.9	19.3	20.2	21.6	15.2
	⑤ 13～15 日	10.3	15.1	13.2	8.1	9.0	9.1	3.5	10.2	12.1	12.7	9.9
	⑥ 16～18 日	7.7	11.4	10.4	6.2	5.2	9.1	5.8	18.2	8.9	9.9	5.3
	⑦ 19～20 日	6.5	6.8	18.7	4.0	3.7	9.1	3.5	8.0	10.8	12.0	6.6
	⑧ 21 日以上	3.0	2.7	4.7	2.4	2.9	3.0	7.0	5.7	2.9	3.5	0.8
	⑨ N・A	0.5	0.5	0.9	0.4	0.5	—	1.2	1.1	0.6	0.8	—
< Q 6 > 年休を取得できな かった理由を、以 下から「3 つ以内」 で選んでください	① 仕事が忙しかったから	33.0	35.3	25.1	33.5	36.3	36.4	18.6	14.8	31.7	30.4	36.3
	② 代替要員がいらないから	17.8	16.5	14.8	18.2	20.3	27.3	17.4	8.0	19.2	17.5	25.1
	③ 他人に代わってもらえない仕事だから	13.2	13.2	12.1	12.6	14.9	24.2	11.6	4.5	13.6	12.8	16.2
	④ 仕事の上で職場、同僚に迷惑をかけるから	21.6	16.9	20.6	25.1	21.0	30.3	20.9	9.1	21.5	20.3	25.9
	⑤ 成績（評価）に影響すると思うから	0.5	0.8	0.4	0.6	0.4	—	—	1.1	0.5	0.5	0.3
	⑥ 職場に年休を取得しづらい雰囲気があるから	7.2	4.7	6.4	9.1	7.1	3.0	10.5	1.1	7.1	6.9	7.9
	⑦ 手続きが面倒だから	1.0	0.6	0.4	0.9	1.7	3.0	1.2	1.1	0.7	0.5	1.3
	⑧ 病気や急な用事に備えて残しておきたいから	11.5	10.6	14.4	12.0	10.7	9.1	10.5	2.3	13.0	12.9	13.5
	⑨ 上司から取得の許可が下りなかったから	1.0	0.7	0.4	1.5	0.6	—	3.5	—	0.7	0.4	1.8
	⑩ 振替・代休を優先して消化しているから	7.3	6.9	5.0	6.4	10.8	3.0	2.3	1.1	5.8	6.4	3.8
	⑪ その他	2.0	1.4	2.8	1.6	2.7	3.0	—	2.3	2.3	2.5	1.8
	⑫ 取得できなかったことはない	36.4	36.4	41.5	33.8	35.8	33.3	44.2	65.9	36.3	37.6	31.5
	⑬ N・A	8.5	10.7	9.4	7.9	6.4	9.1	17.4	11.4	9.3	9.3	9.4
< Q 7 > あなたは、この1 年間でどれくらい 超勤をしましたか （未払いを含む）	① まったくしていない	8.1	16.3	8.8	5.8	4.2	6.1	11.6	13.6	8.1	8.6	6.3
	② 1～59 時間	49.3	52.2	43.0	48.4	50.5	63.6	70.9	42.0	45.7	46.3	43.7
	③ 60～119 時間	18.9	13.6	17.6	20.9	22.0	24.2	7.0	6.8	19.1	18.5	21.3
	④ 120～179 時間	8.0	6.7	9.2	7.9	8.2	3.0	3.5	20.5	8.4	8.6	7.6
	⑤ 180～239 時間	5.2	3.3	7.1	6.2	4.3	—	2.3	9.1	5.6	5.7	5.3
	⑥ 240～359 時間	5.2	3.7	6.8	5.6	5.2	—	1.2	5.7	6.0	5.8	6.9
	⑦ 360 時間以上	4.1	3.3	6.1	3.9	4.3	3.0	1.2	1.1	5.9	5.2	8.1
	⑧ N・A	1.3	1.0	1.4	1.4	1.3	—	2.3	1.1	1.1	1.2	0.8

地 方 本 部 別										
道 北	道(旧 上川 北)	道(旧 留萌 北)	道(旧 宗谷 北)	道 南	空 知	胆 振	日 高	網 走	十 勝	釧 根
0.9	1.0	—	1.5	0.3	1.4	1.1	1.0	1.6	0.7	1.9
19.2	18.0	17.8	26.7	17.5	21.2	17.2	30.5	20.0	17.6	18.4
40.5	39.6	47.7	35.1	38.2	38.6	39.1	29.5	38.7	35.2	31.8
15.7	16.3	16.1	12.2	18.9	18.9	18.1	21.9	17.6	18.9	17.8
10.2	10.8	9.2	8.4	8.7	8.9	9.6	5.7	8.5	10.4	11.4
6.5	7.2	2.9	7.6	7.9	5.3	6.0	2.9	5.6	8.7	9.5
3.0	3.2	3.4	1.5	4.0	5.0	5.1	5.7	4.0	6.1	5.3
3.7	3.9	2.9	3.8	3.6	0.7	3.6	2.9	3.2	1.9	3.6
0.4	—	—	3.1	0.9	—	0.2	—	0.8	0.6	0.3
34.1	32.5	30.5	46.6	30.1	32.2	33.9	36.2	36.8	36.9	35.4
18.9	18.7	17.2	22.1	18.5	16.0	16.5	17.1	17.1	18.9	12.3
13.7	13.4	12.6	16.8	12.4	10.3	12.1	15.2	16.8	13.7	13.1
23.3	23.3	22.4	24.4	22.0	21.7	26.3	20.0	17.9	23.1	15.9
0.3	0.2	1.1	—	0.3	0.5	0.9	1.0	1.6	0.7	—
7.3	6.4	6.3	13.0	8.8	9.4	10.3	5.7	4.8	5.4	5.3
0.9	1.0	0.6	0.8	1.0	1.1	2.2	1.0	0.5	0.9	1.7
10.6	11.3	8.6	9.9	12.0	9.8	14.1	4.8	8.3	12.6	10.6
0.5	0.3	0.6	1.5	1.7	1.1	2.9	—	0.8	0.7	0.3
8.0	6.9	8.6	12.2	8.4	8.7	5.6	8.6	10.7	9.1	5.6
1.9	1.3	1.7	5.3	1.2	2.3	1.3	1.9	1.6	1.5	3.3
35.1	35.6	42.0	23.7	36.3	35.2	33.3	41.9	37.3	35.7	37.9
8.5	9.0	8.0	6.9	9.1	8.7	7.1	7.6	7.2	7.0	7.5
7.7	8.9	6.9	3.1	10.3	8.9	5.1	3.8	9.6	5.0	10.9
53.3	52.7	59.2	48.9	50.7	50.5	46.7	59.0	46.7	50.7	55.2
18.6	17.6	16.7	26.0	18.5	18.9	17.2	20.0	21.1	21.9	16.7
6.6	6.9	5.2	6.9	8.2	7.3	9.4	8.6	7.2	7.6	6.7
5.0	5.5	4.6	3.1	4.2	4.1	6.7	1.9	6.4	5.0	3.9
4.4	4.0	4.6	6.1	4.2	4.8	7.8	3.8	4.5	4.8	3.3
3.0	3.7	1.1	2.3	2.5	3.2	5.6	2.9	3.7	3.5	2.5
1.4	0.8	1.7	3.8	1.4	2.3	1.6	—	0.8	1.5	0.8

設 問	分 類 項 目	道 本 部 全 体	行 政 別							地方本部別		
			全 道 庁 連	政 令	都 市	町 村	そ の 他	公 共 民 間	社 保	札 幌	札 （旧 石狩）	札 （旧 後志）
< Q 8 > Q 7の超勤のうち、 「未払い超勤」 （「サービス残業」 と呼ばれる不払い 労働）はどれぐら いですか	①まったくない	46.0	49.6	58.8	42.2	39.7	61.3	55.3	88.2	48.3	53.3	31.2
	② 1～29時間	33.5	30.3	27.1	37.4	34.8	32.3	26.3	7.9	32.3	31.0	36.6
	③30～59時間	8.8	9.1	6.3	8.1	11.5	6.5	5.3	1.3	8.4	7.0	13.0
	④60～89時間	3.6	2.0	2.1	4.2	4.9	—	3.9	—	2.7	2.5	3.5
	⑤90～119時間	1.8	1.4	1.2	2.0	1.9	—	2.6	—	2.0	1.1	4.9
	⑥120～149時間	1.3	1.1	1.2	1.4	1.5	—	1.3	—	1.5	1.1	3.0
	⑦150時間以上	2.4	2.5	1.3	2.2	3.5	—	—	1.3	2.5	1.4	6.2
	⑧N・A	2.6	3.9	2.1	2.5	2.1	—	5.3	1.3	2.4	2.6	1.6
< Q 9 > 公務員の定年につ いては、2023年か ら2年ごとに1歳 ずつ引き上げら れ、2031年度に65 歳となり、賃金は 60歳時の7割水準 になります。この ことに伴って懸念 や心配をしている ことを「2つ以内」 で選んでください	①退職年齢が引き上がることによって、新規採用の抑制につながる	20.8	19.0	15.9	19.1	27.2	45.5	—	15.9	18.3	17.7	20.6
	②（管理職だった人が）係長相当職に格付けされた場合、若手や中堅職員の係長への昇格が遅れる	13.0	13.7	17.4	11.4	12.9	9.1	—	10.2	14.1	14.7	11.9
	③先輩が係員となることで、仕事の配分調整に影響し、既存の係員の業務が過重となる	23.1	21.6	14.1	23.3	29.5	27.3	—	11.4	20.3	19.9	21.8
	④年金支給年齢が65歳に達するまで、引き下げられた賃金で生活していくことに不安がある	36.8	42.5	42.6	37.7	28.1	30.3	—	34.1	40.5	40.4	40.9
	⑤体力の低下や健康面などから、従前と同じように業務を遂行することに不安がある	44.2	42.8	46.8	46.2	42.2	42.4	—	25.0	45.3	45.1	45.9
	⑥その他	3.2	3.0	3.4	2.9	3.7	—	—	1.1	3.7	3.8	3.6
	⑦懸念することは特にない	4.3	4.3	5.2	3.8	4.5	3.0	—	8.0	4.4	4.5	4.1
	⑧わからない	11.1	8.9	10.3	12.9	9.9	9.1	—	20.5	9.7	9.6	10.4
	⑨N・A	3.6	4.5	4.7	3.1	2.6	6.1	—	13.6	4.9	5.1	4.1
< Q 10 > 会計年度任用職員 制度について、各 自治体によって賃 金労働条件に違い があるのが現状で す。今度も制度改 善をしていくため にあなたは何を優 先的に取り組むべ きと考えますか。 「3つ以内」で選 んでください	①正規職員と同様の昇給制度にすべき	20.4	20.6	16.1	20.6	20.4	21.2	36.0	31.8	18.1	16.8	22.6
	②正規職員と同様に一時金（期末・勤勉手当）を支給すべき	24.9	26.1	26.7	24.0	23.5	12.1	38.4	30.7	24.4	23.7	26.9
	③正規職員と同様の休暇制度にすべき	24.6	24.2	18.0	23.8	29.5	33.3	25.6	21.6	21.5	19.4	28.7
	④正規職員と同様の諸手当にすべき	17.0	19.0	17.5	15.4	16.7	21.2	30.2	21.6	17.6	16.6	20.8
	⑤任用回数の上限を撤廃すべき	19.0	22.8	24.6	19.3	13.6	30.3	3.5	14.8	22.0	23.4	17.3
	⑥正規職員との仕事の量と役割を明確にすべき	33.4	27.3	25.8	36.7	38.2	27.3	23.3	31.8	29.4	29.0	30.5
	⑦パートタイム（短時間）職員を必要に応じフルタイムにすべき	16.6	18.1	22.5	17.2	12.6	12.1	10.5	4.5	20.4	21.1	17.8
	⑧経験年数や本人の希望により会計年度任用職員が正規職員になれる制度を設けるべき	23.9	21.4	20.6	24.6	26.8	12.1	26.7	22.7	23.0	22.4	24.9
	⑨その他	4.7	3.6	5.3	3.9	6.0	12.1	3.5	8.0	5.0	4.9	5.3
	⑩N・A	8.7	10.3	12.6	7.8	6.6	9.1	8.1	11.4	11.2	11.8	9.4

地 方 本 部 別										
道 北	道(旧 上川 北)	道(旧 留萌 北)	道(旧 宗谷 北)	道 南	空 知	胆 振	日 高	網 走	十 勝	釧 根
47.8	48.9	53.1	36.2	41.4	37.3	40.0	47.5	48.1	45.8	44.7
32.9	31.3	30.9	42.5	35.4	40.4	34.4	30.7	33.9	36.1	30.3
7.7	8.8	4.9	6.3	10.5	9.3	9.9	10.9	8.0	8.6	10.3
4.0	3.9	4.9	3.1	5.0	3.0	5.4	4.0	2.4	2.9	6.3
1.6	1.9	1.2	0.8	1.6	1.5	1.9	—	1.8	1.9	2.2
1.3	1.4	0.6	1.6	1.6	0.8	2.1	—	1.2	0.6	1.3
1.9	1.6	1.2	3.9	1.8	3.5	4.0	3.0	2.1	1.9	3.1
2.8	2.1	3.1	5.5	2.7	4.3	2.4	4.0	2.7	2.1	1.9
24.2	27.3	17.8	18.3	18.1	25.1	20.1	21.0	19.7	24.3	22.4
12.5	11.2	16.1	13.7	13.3	12.9	11.8	10.5	13.1	12.6	11.9
23.9	24.3	27.6	17.6	21.9	27.8	22.5	39.0	29.9	23.1	23.8
34.3	33.5	33.3	38.9	40.6	34.7	37.7	30.5	30.4	34.4	32.3
41.5	41.2	43.7	39.7	47.8	43.7	47.0	45.7	43.2	43.0	43.6
3.4	3.5	1.1	6.1	2.2	3.2	1.9	2.9	3.2	3.1	3.5
3.7	4.2	2.3	3.1	4.3	3.2	3.5	2.9	4.5	5.7	4.9
12.9	11.9	14.4	15.3	11.2	13.6	10.2	7.6	9.1	10.6	12.8
3.5	3.9	4.0	1.5	3.1	1.4	2.5	1.0	3.5	2.8	2.6
20.1	18.0	24.7	23.7	22.5	19.2	23.2	20.0	25.9	17.8	21.4
25.5	26.1	25.9	22.1	23.8	24.4	26.1	26.7	29.6	21.9	25.1
27.5	27.2	28.7	27.5	24.9	24.9	26.3	21.9	25.9	29.8	22.0
17.4	18.7	20.1	7.6	16.2	15.8	14.3	16.2	18.7	16.5	18.4
16.7	15.0	21.8	18.3	18.1	17.8	18.5	21.0	17.9	18.1	17.0
35.3	35.9	32.8	35.9	37.0	34.5	37.1	30.5	29.6	38.1	34.5
15.6	14.7	18.4	16.0	13.4	14.4	17.9	17.1	13.1	16.3	14.8
24.0	25.3	20.7	22.1	24.9	28.5	24.6	21.9	22.4	24.4	21.4
4.1	4.3	1.7	6.1	4.9	4.1	3.1	5.7	6.1	3.3	5.6
8.1	8.4	4.6	11.5	6.1	8.4	6.3	6.7	9.9	7.6	6.4